

昭和六年十一月二十五日發行

土木業協會會報

第三十九號

Vanc dorn A
子 經 理 會 誌 (58回)
R. 69. 1. 27

特
刊

Van Vooen 3e p. 69

次 目

講演	▲日支關係の因縁……………坂西陸軍中將……………(一)
工事漫録	……………(三五)
彙報	▲日支關係の因縁……………(三七)
▲日本土木建築請負業者聯合會總會	……………(七八)
▲吊事	……………(七八)
本會記事	▲秋季懇親會……………(七九)
▲招待會	……………(八三)
▲講演會	……………(八七)
▲聯合委員會	……………(八七)
▲調查部會	……………(八八)
▲庶務部會	……………(八九)
▲社交部會	……………(九〇)
▲午餐會	……………(九一)
▲行餘錄	……………(九一)
▲會員彙報	……………(九三)
會則	……………(九四)
役員名簿	……………(九六)
會員名簿	……………(九七)

土木業協會會報

第三十九號

昭和六年十一月二十五日發行

講演

日支關係の因縁

貴族院議員 陸軍中將 坂西利八郎

只今御紹介を戴きました坂西でございます。御紹介を戴きました如く、支那に長くは居りましたけれども、主に軍事に従ひ、日支の關係に付きまして常に成べく圓満に都合の好いやうにと云ふことを考へて種々仕事をして居りまして、今日お集りの皆様方に御参考になるやうなお話は、或は私の柄にないことであらうと思ふのであります。併しながら今日吾々の立場としまして、……詰り日本の國民と致しまして……支那をどう云ふ風に觀たら宜いか、又其の觀るに付きましては日支の關係の從來から致しまして、どう云ふ因縁を辿つて來て居るかと思ふことを一通り知つて居らなければならぬ。無

講演

論皆様は御承知であらうと思ひますけれども、それに付て私の觀ました大體の模様を話致して見たらと思ふのであります。それが若しも皆様方の御参考になるならば私の頗る仕合せとする所でありませぬ。

日支の因縁と申しますれば、之を遠く遡つて研究すれば研究する程趣味の出るものでございます。私共素人でございませぬけれども、例へば北京なら北京に參り、少し目前の問題を離れまして、所謂支那研究を始めますと、只今でも限りなく其の深さの如何にも深いと云ふことを感じさせられるのであります。詰り言葉を換へて申せば東洋の文化と云ふものは非常な深さを持つて居るものであつて、吾々は其の結果の一部を知つて居るとまでは言はなくても、其の文化に浴して斯うやつて仕事をして居る、生きて居る、と云ふ有様ではないかと云ふことが感じられるのであります。殊に皆様のやうな業務方面の御研究をなされても一層其の感じが深くはないかと私は考へるのであります。

そこで日本との關係でありますが、昔阿部仲麿が入唐したと云ふやうなことは吾々が言ふ必要もなく、又今日研究する必要もないのであります。先づ私が支那を知り始めた時からの大體を申し上げますと、日清戦争が私の支那を知り始めた時なのであります。所がこの日清戦争は支那の今日招來した所謂國際的の支那、それはこの時から始つたので、即ち支那が政治的に動き始めた起源ではないかと思はれるのであります。所謂日本は小さな島國である。支那の書物に能く彈丸黒子の如き島國と斯う

書いてございませぬが、其の彈丸黒子のやうに思つて居つた日本から連戦連敗をして城下の盟とまでは行きませぬけれども、兎に角意外な負け方をしたと云ふことが非常に支那を刺戟しましたし、又國際的に支那が弱點を暴露したと云ふことは申すまでもないのであります。

そこで支那に所謂革命と云ふものが起り始めたのであります。御承知の如く明治三十一年の戊戌の變、この時に變法自強と云ふことを唱へ始めた。法を變じ自らを強める、變法自強の革命と申します。之を唱へ始めたのが例の康有爲と云ふ人でありませぬ。此の人は廣東の人であります。號を南海と云ふて居ります。この康有爲と云ふ人が其の革命の發頭人であつたのであります。この人はどう云ふ理想を持つて居つたかと申しますと、所謂春秋左子傳、公羊傳、穀梁傳等に現はれた公羊學派であります。

公羊學派と云ふのは私が申すのも如何かと思ひますが、兎に角理想とする所は自由平等であるのであります。この康有爲と一緒に革命をやり始めた譚嗣同と云ふ人は仁學と云ふことを書きもし又言ひ現しまして仁は通なり。要するに世の中は博愛で行かなければならぬ。所謂博く愛する是仁なり。仁と云ふもので行かなければならぬ。仁には何等區別はない。この世界に於て土地に境を設けると云ふことはいけない。それから男女に權利を分けると云ふこともいけない。上下相通ずと申しまして、人間に階級を捨へることもいけない。さう云ふ所謂「仁は通なり」總て平等であると云ふ觀念が元々こ

の公羊學派であるのでありますが、其の觀念を持つて支那の政治をやつて行くのが所謂東洋道徳を根本とした吾々の立場である。斯う云ふ主張の人達なのであります。

日本にもさう云ふ學者が居つたさうであります。要するに戊戌の變に變法自強と云ふことをやり始めた康有爲と云ふ人は譚嗣同と共にさう云ふ學者であつた。其の學者がどうかして、この支那を今言つた平等の世界にして平等的の政治をやつて見たいと云ふ理想を考へたが、中々直ぐ其處には行けないからして、先づ其の行き道として中心を矢張皇室に求めて當時二百五十年經つて居る清朝の政治を一つ改革してさうして世界の列に加はつて行かう、斯う云ふ考を起しまして保皇會と云ふものを拵へて光緒帝を盛立て、其の變法自強を實施しようとしたのが吾々が知つてからの支那の革命の最も元祖であります。

其の時は御承知の如く西太后と云ふ女傑が政治を執つて居つたものでありますから、直ぐにそれが知れて光緒帝は北京にある島の中に幽閉され、康有爲、譚嗣同一派は皆逮捕を命ぜられたが、擱へられ、ば殺されるのでありますから、盲く逃げて康有爲は外國に行き、それから既に死にましたが日本に逃げて來た梁啓超、さう云ふ人間が逃げ終はせてしまひましたが、譚嗣同は確か其の時に死にました。

そこで折角日清戰爭に依つて刺戟された革命思想と云ふものが一頓挫を致しまして、其の結果今度

は非常に頑固な反動思想が現はれて、それが明治三十三年の義和團事件となつたのであります。是は所謂拳匪の亂でありまして、何でも體を鍛へ劍術を鍛へて置さへすれば外國人の打つ大砲小銃の彈丸なんか怖くはないと云ふ迷信で排外思想を猛烈に煽つて北京の公使館を取圍んだ。然もそれには滿洲の朝廷の主なる役人が參加した、端郡王とか剛毅とか云ふ人が參加して居つた。

あの義和團事變と云ふものは三十一年の革命の反動的に起つたものであります、詰り西太后の意を迎へる意味で起つたのであります。この時に日本は各國と共に兵を出しまして最も公正な態度を軍隊が執つたのみならず、政府も外交官も皆國際的から見ても亦東洋道徳から考へても實に支那人が感服した態度を執つたのであります。

そこで明治二十七八年日清戰役に負けた。三十一年には革命があつたから抑へた。三十三年には非常なる排外運動を起してやつて見たが、列國からビシヤンとやられた。其のビシヤンとやられた時に二十七八年に勝つた日本軍の態度が一番良かったと云ふことが、非常に支那人の頭を刺戟して、是はどうしても遠い歐羅巴、亞米利加に學ぶよりは近い日本に學ぶべしと云ふ觀念を支那人が持つたのであります。

勿論是は支那全國とは行きませぬが、主に日本の軍隊の往復した北京地方、即ち當時の支那政治の中心一帯の者が之を感ずると共に、中央政府、所謂滿洲朝廷の局に當る主なる役人、即ち袁世凱、南

洋大臣の劉坤一、湖廣總督と申しまして今度水の出た湖北の土地に居つた張之洞、それに其の當時廣東に居りました李鴻章、この四人が中心となつてどうしても範を日本に採らなければならんと云ふことを言ひ出した。但し李鴻章は少し立場が違ひまして、彼は明治二十九年に露西亞の戴冠式に行きまして露西亞と密約を結んで來たのでありますから、肚が少し違ひますが、其他の三人はどうしても範を日本に採らなければならんと云ふ感じを起した。

丁度三十一年の革命の時に康有爲、譚嗣同あたりが言つた變法自強と云ふことをこの四人が言ふやうになつたのであります。詰り政治の改革をやらなければならん。それには大體に於て立憲政治を布く、それから科學を廢める。是が主なる支那の變化であります。日本に因縁の付いたのは主に教育と云ふ關係からであります。

昔の科學と云ふのは御承知の通り試験を受けて秀才になり進士になり舉人になる。この試験を受け及第して秀才となればどう云ふ官に就けるとか、舉人になればどう云ふ官に就ける、進士になればどう、詰り高等文官の試験に及第すればこの格の者はどう云ふ役に就ける。其の試験と云ふのは唯經子百家の書を讀んで、早い話が四書五經を全部知つて居れば宜いのであります。

是は實に驚くべきもので吾々が支那に行きましても不思議の様に感ずる事でありましたが、少し學問をしたと云ふ支那の人はあの吾々が子供のの中何も分らずにワイ／＼毎日讀んだ四書五經、殊にむづかしい詩經とか易經とか——私が一番厄介に思つたのは易經と詩經であります、あの中の文句を何處を擱へても必ず空で知つて居る。それは詩經の何處に在つてどう云ふことだと云ふ事を知つて居る。

例へば私の家の語學の先生兼書記、是は文章の書記ではなく唯字を綺麗に書く書記であります。この書記でさへも詩經の何かの文句を一口言つて是はどうだと言つて聞くと、それは詩經の何の篇の何處にあると言ふことをチャンと知つてゐる。しかもそれはまだ秀才の試験にも合格しない男であります。さう云ふ風な學問をしてさうして官途に就く、それに依つて立身の途を求めることが前清時代の男としての出世の方法であつたのであります。所がそれは實際には何にもならない。

そこでこの科學の制を廢して教育制度を改めて所謂當時流行つて居りました立憲政體にしたいと云ふのが其の變法自強の主なる目的であつたのであります。そこで李鴻章は直ぐ死にましたけれども、其他の袁世凱、張之洞、劉坤一と云ふ三人が有名な聯合上奏をやりまして、是非とも政治の制度を變へて國を強くしなければいかんと云ふことを言ひ出し、それと同時に總てのお手本を日本から採つてやらうと云ふことの始つたのが丁度義和團の終り、明治三十四五年頃からそれが盛に行はれたのであります。

私が参りましたのは丁度其の時でありまして、日本の方は其の當時どうであつたかと申しますと、丁度日清戰爭の濟んだ直後の三國干涉で遼東半島の還付をやらされた。然も還付した遼東半島は露西

亞から奪はれる、所謂臥薪嘗炭十年、其の時であつたのであります。そこで日本の方、殊に吾々の立場から支那に追はれた者は無論支那の軍隊に關する色々なことはやはり致しませうけれども、日本の目的とする所は、露西亞を滿洲から追出してどうかして日清戦争の後始末の仇を討つてやりたいと云ふのが目的であつたのであります。それはもう公然と其事を言ひました。

私が袁世凱の所に雇はれました時に日本と露西亞はどうしても最近に戦をしなければならぬ、其の戦をする準備に吾々は今没頭して居るのであるから、君の方に雇はれるのも宜いが是非とも支那も一緒にやつて露西亞と戦をする積りでやつて呉れ、吾々は無論支那の方の仕事は全力を竭してやる。而して日本の爲にも支那が露西亞を滿洲から追出す準備を日本と一緒にやつて呉れないかと云ふことになつたのであります。袁世凱と云ふ人は無論之れに賛成でありまして、已に明治三十五年の六月頃から其準備に取り掛りましたのであります。かゝる因縁が此時から始まりまして、其の時やはり日本の軍人が芝罘に滞在して居りまして、さうして滿洲方面の露西亞の事情を調査して居つたのであります。其の日本の將校の助手に袁世凱から派遣をして呉れた人が其後軍閥として有名になつた例の吳佩孚であります。

吳佩孚は其の時はまだやつと中尉か大尉でありました。測量學校を出た田舎の秀才でありました。詰り田舎に於ける最初の文官試験に合格したばかりの男であります。測量學校を出たのでありますから字を細かく書くことが上手で、又地圖なども旨く書きました。それですからかゝる仕事の助手に袁世凱の部下の段と云ふ男が選んで派遣したものであります。日本將校の助手を勤めて居つた吳佩孚が後には偉い者になりました。今は四川の山の中で御經を讀んで居りますが、其因縁と云ふものは奇妙なものであります。

さうして遂に明治三十六年、三十七年となつて日露戦争になりました。戦争の時には三十五年からチャンと準備して居りましたから、露西亞の事情調査を支那の方でもやつて呉れたのであります。私は袁世凱の所に居りまして支那人の服装などをして支那の兵書翻譯に従事して居りましたが。又一方支那の人から頼まれて色々其事情調査にも従事したのであります。

要するに其當時は支那の人が吾々と一緒になつて露西亞を滿洲から追出すと云ふ氣分になつたのであります。この氣分で吾々は日露戦争をやつたのでありますから、あの日露戦争は表面は日本軍が露西亞を撃退したのであります。事實は南から北に向つて行く其の左手、即ち遼河の西側は全く支那の軍隊が居つて戦争をせずに露西亞の横腹を始終脅威して居つたのであります。

若しも露西亞がそれを早く悟りまして、日本軍と戦を交へる前にこの支那軍の方に一撃を興へたならば支那は大變であつたのであります。それだから此點は非常に注意したのであります。今申すのも可笑しいやうであります。二月に開戦をした時に支那が局外中立を宣言致しました。それにも私

が其相談に乗つたよりの事もありません。要するに表面は局外中立でも支那は全く日本と同じ氣持になつて事實露西亞を滿洲から追出したと云ふことは是は私だから明に其の事を申すことが出来るのであります。

さう云ふ氣持になつた支那人が、どう云ふ譯で一體今日のやうに日支の關係が悪くなつたかと云ふことを少し申し上げたいと思ふのであります。私は日露戦争がまだ終らない中には是は日支の間は悪くなるぞと云ふことを感じたのであります。それはどう云ふことかと申しますと、滿洲へ来て戦争をする、この戦をして居る者が終ひには露西亞と戦争をして居ることが忘れられて、支那が恰も被征服國の立場に立つて居る様になつた。詰り支那が日本から征服されてさうして滿洲へ日本軍が入つて來たのだと云ふやうな形になつてしまつた。

随分私も注意をし、上の人達も注意を致しましたけれども、兎に角十年前の日清戦争に於ては「討てや懲らせや清國を」と云ふ歌を歌ひながら、國民が皆其の歌の威勢で支那へ繰込んで行つた。丁度それと同じ經路を踏んで、滿洲に入つて來たのでありますから、露國の敵が居つて鐵砲をどん／＼打つてる間は宜かつたのであります。今度は敵が彈を打たなくなつてしまふと、自分の居る所は滿洲である。其の近所に彷徨して居るのは露西亞人ではなくして支那人である。其の支那人が恰も敵であつて、其の支那を征服した結果日本軍が此處に來たのだと云ふやうな考に一般になつてしまつた。是

が抑々日清戦争以後義和團の時の日本軍の行動が極めて公正であり、又時の日本の官憲、日本の國民の態度が立派であつたと云ふことに感じて日本に對する信頼心を起した支那人を漸次離隔させた發端であります。

つまり戦争の最中は日本の方は支那に世話になつて居つたにも拘らず、戦争の終りになつてから支那に對して肩を怒らし掛けたと云ふ次第であります。そこで今滿蒙に於ける交渉事件のやうなことがザラに起つた。何故かと申しますと、支那の役人が皆小さくなつて居る所へ日本が軍政を布いたのであります。軍人が政治を執つたのであります。其の地方を治める爲に或は車の税を取るとか、或は營業税を取るとか色々なことを軍人がやつたものでありますから、もう問題が百出した。地方の訴が殆ど絶え間がない。

それが皆地方官を通じて袁世凱の所に集つて來る。戦争中は露西亞の情報を貰つてそれを處理して居つたのであります。戦争が終ると同時に地方の訴が山のやうに集つて來て、袁世凱から見せ付けられた。それを見せつけられる度に實は日本人の方の理窟の良かつた場合はあまり無いと言つても宜しい。それを私がどう處置したかと申しますと、少し重大なものは直ぐ私が自分で飛んで行つて公平に裁いてもらひ外交問題にせずに済んだのであります。

さう云ふことが重なり重なつて日露戦争が済むと同時に支那人にどう云ふ感じを與へたかと申しま

すと、どうも是は一緒になつて露西亞を追出したけれども、露西亞に代つた日本の方が露西亞人より少しひどいと云ふ感じを支那人に與へたのであります。是は御承知の如く露西亞人は概して鷹揚です。支那人と一緒になつて賄賂を取つたりする。

それに付ては色々な面白い話がありますが、今の東支鐵道、昔の東清鐵道。……其鐵道を架ける場合に例へば技師が個人である品物を注文をする、又其鐵道の役所でも同じ注文を發する。是れは其當時三井物産の人から聞いた話でありますけれども、それが爲めセメントなどの注文がダブルから定めし困るだらうと思ふと中々困らない。それが又譯なく捌かれて行く、又それを捌くにも相應な手数料を拂ひさへすれば宜い、と云ふやうなやり方であつたさうであります。日本人との商賣でさへさう云ふ風でありますから、露國人は其邊誠に要領好く行動したらしいのであります。所がそれに代つた日本人は、早い話が戦争が濟むか濟まん中から、大連に日本の人力車夫が澤山入つて來てどん／＼稼ぐ。支那人は驚いて吾々のお株を日本人が取つてしまふと云ふやうな感じを與へると同時に日本人のやる仕事が一／＼して居る。お菓子屋が入つて來る、何が入つて來る、相應に支那人に出來る仕事までも、日本が來て代つてやると云ふのに、實は支那人が驚かされ従て悪い感じを時々刻々支那人に與へたと云ふのが日露戦争後の滿洲に於ける状態であります。

戦争が濟んでから袁世凱は滿洲をどう云ふ形にしようと言つて居つたかと申しますと、是は私とも相談致しました事ではありますが。當時一種の理想を持つて居つたのであります。兎に角露西亞を追出した後に於て日本が或る權利を得るのは宜しい。而して滿洲に於ける支那の政治を全く日本と同じやり方にして日本人も正式に働き、支那人も滿洲の開発を日本を模範としてやつて行けるやうにした、それには徐世昌氏を總督にして其の下に日本を理解した三人の巡撫、奉天巡撫、吉林巡撫、黒龍江巡撫を置いてやつて行く積りだから、君も其の積りで日本の方に諒解を求めて準備をして置いて貰ひたいと云ふことを頼まれたのであります。

そこで戦争が濟むと徐世昌氏は滿洲をすつかり廻りまして其の仕事に手を着け始めたのであります。丁度其の時に西園寺公が日本から來られて軍政を廢めて民政にしたので、それだけ好い工合に一段落がつかしましたが、それから民政から支那の政治に移すのに中々むつかしくて支那の思ふ通りに行かない。

そこでどう云ふ問題が起つたかと云ふと、一方に亞米利加の問題が起つたのであります。戦争中にもハリマンの問題が起りましたけれども、之をきつかけとして支那側では戦争後の日本の態度を見て是れはどうも日本のするが儘にして置いたらえらいことになる、露西亞以上になると云ふ感じを持たした。それだから亞米利加を引張り込んで日本を牽制させよう云ふ考は實は其の時から起つたのであります。

徐世昌氏を總督にしたのは宜かつたが、奉天の巡撫に唐紹儀を持つて來た。是れは今廣東政府の隱居役になつ居りますが、支那の第一回の亞米利加留學生で其當時のハイカラさんであります。又非常なやり手であります。それでありますから袁世凱と云ふ人はそれを持つて行つたと云ふことが中々抜目のないやり方であります。そこで錦愛鐵道の問題などが起り亞米利加の手を借りてやり出したのでありますけれども、幸ひに露西亞も其時には戦争で打撃を受けて居る。これは滿洲はうつかりして置けない、日本と一緒にやつてやらなければいけないと云ふことを悟つたばかりでありますから、露西亞も日本と一緒にやつて到頭亞米利加が入つ來られない様にしたのであります。其時には私は一旦支那を辭しまして歐羅巴に派遣されて居つたのであります。

面白いことには唐紹儀と云ふ人も亞米利加に參りまして歐洲に渡り私と偶然柏林で落合つたのであります。カイゼルにも謁見して色々言つて見たが、結局東洋は東洋人自身でやらなければならんと云ふことを悟られたと云ふ事を聞かされました。

結局支那の人の頭も實際仕事をやつて見ると、最後には成程西洋人は違ふと云ふように結論されるようであります。こゝに同文同種の面白味と言ひますか、眞の味があると思ひます。そこでこの本當の味を今日の日支兩國人の間に廣く持ち得ないと云ふことが今日種々な問題を起す主なる原因だらうと思ひます。

斯の如き多くの因縁を持つて居るに拘らず、昨今のやうな狀況を來すと云ふことは、一体何處が悪いのだ、どう云ふ原因であらうかと云ふことを、もう少し進んで研究して見ますと、結局是れは支那の革命が先程申上げましたやうな順序を以つて行はれて、更に進んで滿洲人の手から政權を漢人が取りまして、さうしてやつと共和國になりました。

明治四十五年二月十二日に滿洲の天子様が退位をして、之に代つて共和國が出來、大總統が出來たが、共和國にしようと思つて骨を折つた孫逸仙は力が足らずちよつと儀式的に臨時大總統になつたけれども、本當の大總統は袁世凱に取られてしまつた。袁世凱が大總統になつたと云ふことはどう云ふことかと申しますと、前清時代に専ら外交及一般政治の中心を形造つて居りました關係上、其部下として養はれて居つた所の人材が、皆其手足となり今日の言葉で申せば政黨の如き結束を爲して働いたのであります。

長年其の人に養はれるとか、何か因縁がなければ出來ない。之れを北洋系と稱して即ち北洋通商大臣となつた所の李鴻章や、袁世凱の部下で二十何年の間養はれた人が支那の政治を爲す一つの体系を整へたのであります。尤も支那には其の以外に政治をやりつけた團體と云ふものはなかつたのであります。

南洋大臣と云ふものもありまして、劉坤一と云ふ人が大臣でありましたけれども、袁世凱はまだ前

清時代に揚子江から南の方の通商地の外交事務に當つて居る所の南洋大臣の勢力を自分の方に取上げて中央集權にしてしまつたので、北洋と云ふものだけが支那に残つて、南洋大臣の手足は皆北洋の方に入つてしまつたから、要するに支那の政治と云ふものは北洋大臣の下に養はれた人間が寄つてたかつて政治をやると云ふ一つの体系をなしたのである。

そこで袁世凱が出たから北洋系と云ふものが支那の政治をやつた。所が袁世凱は御承知の如く自分が革命をやつたのではない。孫逸仙や黃興がやつた。所謂同盟會と云ふものから革命黨になつて明治四十四年十月十日に武漢の地に旗を擧げた。それが南京に政府を拵へて臨時大總統を造つてやりましたけれども、もうそれは袁世凱にやられると云ふことを知つて退位をする覺悟をして孫逸仙が臨時大總統になつたのでありますから、其の時に一番初めに拵へた憲法即ち約法と云ふものは袁世凱の爲に備へた憲法であります。即ち大總統に議會の解散權を與へないやうな、袁世凱が我儘の出來ないやうな憲法を拵へた。

そこで日本との關係も色々ありますが、それは抜きにして要するに袁世凱が北洋系と云ふもので大總統と云ふ位をかち得た。やつて見ると袁世凱は自分の思ふ通りにならないやに出來た憲法に従つて政治をやらなければならぬから、是は詰らないと言ふて二年の後に大總統の思ふ通りになるやうな新しい憲法を拵へた。それが募り募つて到頭天子様になつてしまつた。是は非常な間違ひであつ

たのであります。兎に角天子様になつた。縮尻つたな。と思つて居つたら神經衰弱になつて死んでしまひましたけれども、其後も政治を執る團體が外にないから矢張北洋系の中から人が出て居ります。

袁世凱の次に黎元洪、それから馮國璋、徐世昌、又黎元洪、曹錕、段祺瑞、張作霖、この八人が元首の地位に就きましたが、皆北洋系の出身者であります。詰り皆昔からの袁世凱の部下であります。張作霖までもさうであります。北洋系と云ふ政治團體の中からヒョコリ／＼頭になる人が出た。斯う云ふことになる。其の出る度に北洋系の中に於て色々喧嘩をする。或は安徽派と直隸派の争ひである安直戦、奉天派と直隸派の奉直戦、それで喧嘩をしながらも北洋系の政治團體の中から人が出て政治をやつて居つた。それが丁度十七年間續いたのであります。さうやつて居る間に折角初めに革命黨を拵へて革命を始めた所謂孫逸仙の革命黨の方は、たつた一遍北京に來て政治をちよつと執つたゞけで直ぐ追出されてしまつたので、どうかしてこの北洋系を倒さうと思つて居ることは久しい間であるのであります。どうしても之に手が着けられない。

其の間に二遍も三遍も廣東で旗を擧げて見ましたけれども、どうも思ふやうに行かない。或る時は孫逸仙が自分で大總統を唱へて廣東に政府を起しましたけれども、直ぐ潰されてしまつた。其の揚句の果に大正十二年に、日本にも來ました露西亞のヨッフエを擱へて孫逸仙が相談をした。其の相談の結果露西亞の第三インターナショナルが之を助けると云ふことに決まつて、愈々革命黨、其の時は國

民黨と唱へて居つたのでありますが、共産主義者を入れたものですけれども、共産黨とは言はないで皆國民黨と言つて居りましたものがどうかして北京政府、今の北洋系を倒さうと思つて所謂北伐を實行すると云ふことになつたのが十三年の正月で、十五年からそれを始めて昭和二年の春に漢口に政府が出来ました。

其の政府のやることは總て露西亞式で、孫逸仙の所謂三民主義と云ふのは、殊に其の民生主義は共産主義を其良友なりと謳歌し孫逸仙は吾等の民生主義は將來共産ならんを欲するものにしてマルクス共産主義の如く今直に共産を欲するものではない。民生主義は斯う云ふ理窟なのでありますから、民生主義イコール共産主義ではありません。そこへ持つて來て露西亞の金や武器を持つて來て北伐を實行し、露西亞の人が遠慮會釋もなく共産主義を實行し、楊子江沿岸の漢口に出て政府を拵へて共産主義の無産階級政治にしてしまつた。

無産階級の政治とはどう云ふものと云ふと、支那の土匪政治、金を持つて居る者、土地を持つて居る者は片つ端から殺してしまふと云ふテロ式の政治を現出したものであるから、支那の人が是では大變だと云ふので昭和二年には共産主義驅逐を始めて四月三十日に今の南京の政府が出来たのであります。この革命黨が北伐を遂行する時から實は日本との縁が全く切れてしまつた。吾々は共産黨であらうが何であらうが、支那に因縁を辿つて置くと云ふことは是非とも必要であると考へて居りました

けれども、北の方に深い因縁を持つて居りながら南の方にも手を出すと云ふ譯には參りません。

日本にもこの孫逸仙の革命運動を助けた方が學者の中にも居れば、實業家にも居り、又浪人、政治家にも澤山あるのでありますから、さう云ふ連中が絶へず因縁を辿つて置くべきであると私は思つて居るのであります。支那の首腦者が段であらうが、張であらうが、そんなことはちつとも構はない。兎に角支那の政權の集つて居る所、この政權の集りを目標として日本と良い因縁を付け、良い關係を付けて置くと云ふことがどうしても必要だと思つて居ります。所謂共存共榮の實を擧げると云ふことが日支の關係に於て離るべからざるものであると云ふことを信じて居りますが故に、私としては革命黨でござれ、北洋派でござれ、どんな派でも苟くも日支の關係を良くすると云ふ意味に於て行動する人ならばどれも皆我が同志であると云ふ態度を以て蒞む事が必要であらうと思ひます。

叔支那は露西亞に頼んで北伐を遂行したけれども、如何にも露西亞の老師匠さんのやり方がひどいと云ふので、今度は老師匠さんを追出してさうして、支那式の三民主義の政治をやるべく今の南京政府が出来た。其の三民主義の中で一番盛に唱へて居るのは第一の民族主義、即ち不平等條約を廢めて帝國主義を打倒する、さうして國際的地位を高めて各國と同一レベルに登らう。斯う云ふことを彼等は最もやかましく唱へて居る。そこへ持つて來て露西亞の共産主義のやり方が入つて居りますから、どうしても外に對して鼻息が荒いのであります。外に對して鼻息が荒いと云ふことを以て國民黨

が維持され、而して其國民黨が此意氣を以て政府を指導して居るのでありますから、黨部の御機嫌を取らぬと政府の役人は立つて行かない。露西亞と同じことである。

露西亞の第三インターナショナルが即ち支那の國民黨部に相當するのでありますから帝國主義の打倒、對外硬、不平等條約の排斥、等々を最も極端にやらなければならぬ現在南京政府外交部長のやり方は正に然りなのであります。左程の効能なくして迷惑する者は外國ばかりであります。

詰り三民主義、今直ぐ共產主義をやらうと云ふのではないけれども、之を實行する段になると露西亞が老師匠さんとしてやつた如く、どうしても共產主義のやり方になつてしまふと云ふのがこの三民主義の弊害である。又三民主義と云ふものは孫逸仙が言ふ如く之を三つの時期に分けて政治を行ふ。第一は軍政時期、第二は訓政時期、第三は憲政時期である。今第一の軍政時期を終つて第二の訓政時期にはいつて居る。軍政が訓政になる。其外には何等も見出し得ない。でありますから人民としては一體三民主義と云ふものはどう云ふ有難味のあるものか分らない。

殊に蒋介石氏に對する反抗運動を北方の閻錫山、馮玉祥兩氏がやりましたこの方は昨年一片付きしました、今度は江西省に於ける共產土匪の討伐に没頭して居りまして、本當に政治をやると云ふ暇もないのであります。一般の人は三民主義と云ふものはどう云ふものかまだ誰も知らない。其の知らない結果どうなるかと云ふと、結局三民主義と云ふものは分らない。

共產主義はソヴェット露西亞に於て頻りに行つて居り、又それを研究する材料も澤山ある。だから是は寧ろ共產主義を手取早く行つた方が宜いのではないかと云ふ人が大分支那の有識階級に殖えて來たのであります。それと同時に今度は三民主義はいけない。孫文のやつて居ること、言ふことはいけないと云ふことが段々分り、而して又どうも共產主義もいけない。だから茲に其の反動の思想を持つた國家主義青年黨と云ふものが頭を持上げて來たのであります。是は丁度孫逸仙が革命をやる前に革命黨、即ち同盟會の連中が日本に來て日本の人に世話になつて色々やつたと同じやうに、今又國家主義青年黨の連中が日本に來て頻りに勉強して居る様であります。

そこでこの國家主義と云ふものはどう云ふものかと申しますと、詰り今の三民主義政治と云ふものは露西亞と同じやうに一國一黨であります。さうして黨を以て國を立て黨を以て國を治めると云ふ主義でありますから、露西亞の共產黨と全く同じであります。國家主義の方はさうではなくやはり政黨は認めるが、一黨專政ではなく二黨、三黨を認めて議會を置き民選大總統を捧へて責任内閣制にしてやつて行かう、チャント秩序を立て、行くと云ふ主義であります。是は黨員はまだ極めて少うございしますが、會員は殆ど萬を以て數へるやうになつて居る。或は百萬とも唱へて居る。之を指導して居る者は主に歐羅巴留學生出身者であります。會員には大分軍人も居るそうであります。

最近の消息に依りますと、先程申しました吳佩孚は四川の山の中で佛經ばかり読んで居りますが、

其の吳佩孚を盛り立て、兵を率ひて中原に向はしめ、さうしてこの國家主義青年黨の實力派となり以て三民主義を打倒する運動に取掛らうとして居るなどと傳へられて居ります。又財閥とも言ふべき方面に就て述べますれば從來浙江閥と廣東閥は一緒になつて上海の市場、金融界を維持して居つたのでありますけれども、この四月にあの胡漢民氏の不法監禁以來今の廣東の政府と云ふものが別に出来ましたが爲めに上海の市場は浙江派の獨占になつて、廣東派と云ふものは金融界から大分抜けてしまつたのであります。是が蔣介石氏としては最も不利な點である。不利な點ではありませんけれども、廣東派よりも浙江派の財閥の方が上海附近では若干優勢なのであります。それでありますから、未だに金の融通は付いて居ります。

金の點から言ふても蔣介石氏の方が優勢である。けれども廣東派も之に次いで居る。今廣東派程金の融通の付く所は他にないのであります。北方の軍閥はテンで金がないのであります。奉天派は多少豊かでありますが今では山海關以内の北京、天津に行つて居る者が只今の所十師團もありませんから、之を養ふと云ふので中々東三省の負擔が重い。それで第一に金のあるのは蔣介石、其の次が廣東派、其の次が奉天、其の次は論ずるに足らない。斯う云ふ譯で大抵其の争の結果は金の動きに依つて決まると云ふても好いかと思はれます、今後の新聞等を御覽になつたら分ると思ひます。

そこで私がこの日支兩國の因縁を辿りまして今日喧しく言はれて居る滿洲の現在の問題を考へて見たいと思ひます。支那人が不埒なことをしたのに對して思ふ存分之を懲らすと云ふことは、最も正當でありますからやらなければなりません、但し其のやり方は本當に支那を能く知り、又支那人をして是が日本の最も正しいやり方であると云ふ感じをさせる必要があると思ふのであります。

之にはどうも今までは日本の方が宣傳のやり方が足らず、いつも宣傳負けをして居る氣味があります。現に最近の國際聯盟に對することでも手遅れがあつたと吾々が感ずるやうに手遅れ勝ちであります。人に依つてはなに宣傳と云ふことは嘘を言ふことではないから遅れたつて構はない、後で分るから。と言はれる方がありますが、何も嘘を言ふことを吾々は宣傳とは思つて居ない。やはり正しく見て正しく行ふことを、早く一般に理解さすと云ふことが最も必要であると思ふのであります。さうして支那にも先程申上げましたやうに、本當に自分の立場上三民主義と云ふものを守つて行かなければならんと云ふ立場に居る人がありますから、さう云ふ人に向つて國家主義でやれと言つても無理な話である。又國家主義の人に向つて是非とも三民主義に服従せよと言つても無理な話である。ですから吾々が信ずる所で向ふの主義が國家主義であらうが、三民主義であらうが、そんなことは第二の問題で、日支の關係を良くして行くと云ふことが一番重大であります。

其の良くすると云ふ意味は何も領土を侵略しようと云ふのではない。所謂一般に言ふ所の經濟的的關係を良くして行かう、斯う云ふ譯なのでありますから、日本の人は支那の人のもう少し懐に入つ

て、本當に支那人が安心するやうに仕事をしてやる必要があると思ふのであります。今までの支那人との合辦事業は皆失敗だ、斯う云ふことを能くお話になりますけれども、私が見て居ると、合辦事業で本當に支那人の懐に入つて支那人と共存共榮の實を正直に擧げて行くやうなやり方をして居るものは、何處にも認められないのであります。多くは獨存獨榮か、若くは合辦事業と云ふ看板を借りて自分の懐を肥やすと云ふ流儀の合辦事業がどうかするとあるのであります。

是は支那人が最もお得意でやることであります。何々公司と云ふ看板を出す、さうすると例へば鑛山業をやるならば鑛山を持つが、其の鑛山の手頭のもの皆自分個人の仕事にしてしまひ、縮尻ると會社の帳面に付け直すのかどうか知れませんが、皆會社の損にしてしまふ。是は支那人が能くさう云ふことをやるそうでありませんが、支那人だけがやるならばまだしもものであります。——それも良いことではありませんが、今度は日本人で合辦事業をやつて居られる方も負けずにそれをやると云ふやうなことを時々聞かされた事があります。でありますから會社が縮尻つて解散した後などは其方は相應の金を持つて個人で同じことをやる、個人で同じことをやれば今度は本當に縮尻る、さうして悲惨な境遇に陥つて居る方が大分既往に於てあつたと云ふ事であります。

又斯う云ふやうなこともあるのであります。支那の石炭を出す石炭合辦會社を拵へた。其の資本主の半分は日本人ですから、この石炭を出されると資本を出した日本人の會社が迷惑をする、それで石炭を掘つても出させん工夫をする、即ち自分の拵へた會社の商賣を自分が妨害すると云ふことが往々あるとの事であります。吾々はどうしても日支を通じた一つの經濟組織を考へて、さう云ふ弊害のないやうにしたいと素人ながら始終考へて居るのであります。

それはあり／＼とした例があつて石炭を山のやうに積んで置いて、到頭終ひにはゲンピングをやつて何十萬圓と損をする。日本の資本は會社か若くは銀行の資本であります。支那の人の資本は假令半分であつても自分の懐から出した金であります。痛さが違ふのであります。日本人は損をしても身銭は少しも出て居ない、會社が損をするのである。是は少し立入つた話であります。其の損をした支那人が皆私に懇へるのであります。それは實際氣の毒であります。さう云ふことが若し滿洲に於て立派な看板を懸けて居る會社の中にもあるやうでありましては誠に困つたものであります。

今日日本人がやつて居ることは實は支那人から習つたことかも知れませんが、之を改めて行かないと共存共榮と言ふても、本當の共存共榮と云ふことは殆ど出來ないのであります。日本人が獨存獨榮でやり、向ふの土地地主権も獨存獨榮でやるから、茲に日支の經濟的の衝突の起ると云ふことは明瞭であります。それだから不當課税の問題とか色々かましいことを言つて、日本人に成べく金を儲けさせないやうにして居る。

是は實は私から言はせると、少し支那人かぶれがして居ると言はれるかも知れませんが、それは日

本人が教へたことであります。それを向ふの地主様が負けずにやると云ふ傾向が今日ではあります。それが大分面倒な問題を起して居るのであります。だからもう少し支那を研究し、支那の人と本當に仕事の出来るやうな第一人材を養ひ、さうして支那人をもつと取締ることの出来る權威を持つた人の出来る必要であります。

支那人のやることを見て唯悪い々々と言ふばかりであるから支那人の悪いことがいつまでも改まらない、のみならず支那人が悪いことをしたのを此方が更に學んで其の上塗りをすると云ふやうなこともあるのでありますから、益々相互の間が悪くなる。少し言ひ過ぎて居るかも知れませんが、實際はさう云ふ状況であります。今日お集りの方は皆實際の仕事にお當りの方々でありますから、或はそれらに付て既に御承知のこともあらうと思ひますが、尙又何か御質問等がございますれば御質問を伺ふことに致しまして、私の申上げることは是で終りと致します。(拍手)

× × × × × × × ×

質 問 應 答

問 支那の時局の今後はどうでせうか。

答 政府の問題がいつまでも決まらない、五月蠅いから蒋介石も餘計なことを言ふ奴は自然退ける。其の結果廣東政府と國民黨が割れた。丁度以前に北洋系の一派が段々内輪割れした如く國民黨も内

輪割れして居る。それを付け狙つて國家主義が頭を持上げて來た。支那は永久に斯う云ふ風にやつて居る。幾らも後継ぎが出来るから心配はない。

問 三民主義の字解をお願いします。

答 民族、民権、民生、斯う三つありますからそれで三民主義と申します。民族主義と云ふのは支那の民族は壓迫されて居るから之の解放をして行かなければならん。民権と云ふのは人民の權利は自由平等である。孫逸仙の言うて居るのは少し極端であります。四億の人間が皆天子様になつた積りで居らなければならん。民生主義と云ふのは、所謂共產主義は民生主義の良友なり、マルクスの共產主義は今直ぐ共產にしようと思ふのであるが、自分等の民生主義は共產主義を將來に望んで居るのである。斯う云ふ違ひであります。理想は同じだけれども、マルキシズムはやり方が悪いと云ふ説明をして居る。それは主に一般の衣食住を國營的にしてしまふ。理窟は相應に立つて居りますが、まだそんなことを實行しようとしても居ないし、どんなものだから知らん人が多い。衣食住行と云ふものを豊かにしなければならん。豊かにするには個人に委して置いてはいけない、國營にしてしまふ。國が一般に衣食住を供給しよう、交通は無論のことであります。斯う云ふ理想なのであります。

問 税金と其の取る範圍はどうなつて居りますか。

答 税金は無論取立て、居りませんが、一番主なるものは海關税であります。蒋介石などは江蘇、浙江、安徽の一部であります。それが又支那では一番富んで居る所であります。

問 奥地の例へば四川省邊で取つたのは本部に納めないのですか。

答 納める所ではない、寧ろ中央から取らうとして居る。勿論四川の方にも中央派もあり、中央反對派もある。それだから絶えず地盤争ひがある。少し繩張りが出来るともう少し擴げやう、もう少し擴げやうと云ふので躡を得て蜀を望むから群雄割據が行はれる。蒋介石が今本當にやつて居るのは江蘇、浙江、江西、安徽等の支那の東南部だけであります。實際に於ては法權問題も何もあつたものではありません。

問 以前には縣知事は自分の縣から取つた金の幾部分かを巡撫に出し、巡撫は又其幾部分かを總督に出し、總督は又其の幾部分かを中央政府に出すと云ふ制度になつて居つたやうでありますか、今はどうなつて居りますか。

答 無論さうであります。またさう云ふ組織にはなつて居りますが今日は行はれて居らない。日本と同じやうに豫算が出来て居つて地方から出す金も含まれて居るのでありますけれども、實際は中々行はれない。色々な税を取立て、居りますが、地方で一番多いのは海關税と鹽税、是は外國人がやつて居りますから確實に入る。それで其の有難味でいたづらをして居る。

問 色々黨派がありまして排日と云ふことには一致して居る。それが國論となつて日本と國交を斷絶するの已むなきに至るやうなことはありませんか。

答 只今の所では排日と云ふことは一種の商賣になつて居る。排日屋と云ふものが出来て居つて何か日本との外交問題が起ると、それ來たと云ふので今日掛れば明日直ぐ出來ます。上海などには排日屋が澤山待つて居る。宣傳係も居れば何もかもすつかり揃つて居る。政府がそれを壓迫さへして居れば起らないが、政府がやれと言はんでも手を緩めさへすればいつでもも騰立が出来る。この二三日は少し違つて來ましたけれども、初めの排日と云ふのは皆今の排日屋がやつて居る。是は政府の手加減でどうにでもなる。例へば教育部から學校の學生に義勇隊を編成しろ、或は抗日運動をやれと言ふ、さう云ふことは政府部内の所謂國民黨のすることであらうと思ひます。それがどう云ふ結果を持來すか、其の結果で日支間の國交の狀況が變つて來ると思ひます。排日屋の排日の方は、此方の問題が消えて政府が例へば亞米利加なら亞米利加の勸告があつた爲に是より事態を擴大しないやうにすると云ふことは、商賣人の方は政府が取締をやれば是は直ぐ治つてしまふ。この排日は失業者が澤山居りますから譯なく出來る。是は日本では餘り經驗はありませんが、此處に金の百弗もあれば直ぐ宣傳文を書いて皆に配つてやる位のことには朝思ひ付いて晝まで頼んで晩には必ず出來ます。

問 國民黨のやり方はどうですか。

答 結局黨部だけの問題です。一般の人民殊に地方の百姓などには全く關係がない。今唯面倒なのは地方に支部が澤山出来て居ります。さう云ふ所に傳はると地方の黨員の中には中々ハイカラさんが澤山居るから是が面倒だらうと思ひます。小學校の教員の中にも黨教育、國民黨の教育と云ふものがある。それで三民主義の講釋をやつて、孫文は神様になつて居るのでありますから、其の神様の遺言を皆が讀むと云ふことが一つの教育になつて居る。さうして其の教育の序でに排日運動を煽る。排日運動をやる時には私の家に雇つてある小さな支那のボーイなどが排日の歌を歌ひまして書生から擲られたりしますが、さう云ふことは實に無邪氣に能く傳はると同時に又無邪氣に消えまゝす。是が段々開けて教育が進歩して來れば根柢が出来て來ると思ひますが、今の所では大して根柢がないものであります。此頃は大分紊れて來ましたが、それでも昔に比して學校教育と云ふものが進歩し、其の學校教育に國民黨の教育が加はつて來たので排日の運動も前よりは面倒になつて來たことだと思ひます。

問 政府の者はどうしても國民黨の言ふことを聞かなければならないのですか。

答 黨の指令には絶対服従なんです。今の政府、蔣介石なども黨の言ふことを聞かなければならぬのにそれを聞かなかつたから蔣介石を見棄て、廣東政府が出来た。

問 黨内には個人として偉い人がありますか。

答 其の中で偉いのが蔣介石です。露西亞式の委員制でありまして執行委員か三十六名、監察委員が十二名、政務を執行する場合には執行委員が寄つて議して行ふ。

問 黨の言ふことは實際政治を行ふ上に於て都合が悪くともそれを崩す譯には行かないのですか。

答 それが所謂手なんです。丁度第三インターナショナルと同じです。實際の目的は共產主義ですけども、露西亞の共產主義のいけないと云ふことに理窟を付けて三民主義を主張したのですが、其處まで行くのも容易なことではない。

問 露西亞の方と連絡を取らうとして居るのは本當ですか。

答 今は南京政府と露西亞とは實は敵です。但し支那の共產黨は昔よりは進歩して居る。昔露西亞をぶ師匠さんとしてやつた時のやうなものではない。今日の支那の共產黨と云ふものは露西亞から見れば眞面目なものになつて居る。それで蔣介石がこの五月から三十萬と云ふ兵隊で金を千萬圓も掛けてやつて居るがまだ降参しない。

問 それは誰が指揮してやつて居りますか。

答 共產黨の首領に向と云ふものが居りましたが、それが掴つたとか殺されたとか言つて居る。昔ケレンスキー時代には劉と云ふ男であつた。やはり露西亞に行つて修業して來たものです、今の共產

黨の軍隊を朱毛の軍隊と言つて居る。それは朱德、毛澤東と云ふ二人の者の軍隊でこの部下が十萬ばかり居つて之に蒋介石が惱まされて居る。露西亞の方は何處までも支那の共産黨を支持して居る。今では外蒙古は全部露西亞と同じ制度でやつて居りますが、この外蒙古と連絡を取つてやつて居る。この廣東から浦潮まで海上の連絡は出来るが、この内は通れないからして此處を通るやうにしようと思ふのが露西亞の共産黨の計畫、之を二年間にやつてしまはう。それで是が今直ぐに揚子江の沿岸に出やうとして居る。それを蒋介石が叩き付けて居る。方々に斯う云ふ風に共産黨の出張所が澤山ある。

問 廣東はどうですか。

答 廣東政府も共産黨の入つて來ることは困る。だから江西省には入つて居るが廣東にはまだ入つて居らない。蒋介石の考は之を抑へ付けたら廣東の方に共産黨が逃げるから同時に廣東の壓迫にもなる、一舉兩得だと言つてやつて居りますが、中々降参しない。殊に女の共産黨員が大分活躍して若い將校などは皆それにやられてしまふ。まだ將校に對しては餘程敬意を表して御馳走したり何かしてやるさうであります。下士以下には共産黨の女子軍は直接行動を執るさうであります。さうして言ふことを聞かない時には一人や二人を犠牲にする。餘程規律嚴重な軍隊でも終ひには參つてしまふと支那人が笑ひながら言うて居ります。共産黨の跋扈して居る土地で一番缺乏して居るのは六

百六號だ、金もあり、食もあるが醫藥が缺乏して居る。この醫藥と云ふ代りに共産黨の勢力範圍で缺乏して居るのは六百六號だと云ふ悪口を言うて居ります。それはもう逆も想像以上のものらしい。ソヴェエツト政府の小さなやうなものを至る所に立て、やつて居る。所謂地方の土匪の親方共が一番旨いことをして居る。

問 共産黨に對しては露西亞から軍資金が來るのでありますか。

答 露西亞の方からも偶には來るでせうが、この頃は支那の共産黨も相應に自立が出来るやうになつて居る。露西亞の共産黨の本部と云ふものは中々勘定高い。一錢一厘でも帳面に付けなければ金を渡さないと云ふやり方をして居る。さうでないときりがないからでせう。だから本當の共産黨と云ふものが一番眞面目で危険です。だから共産黨員と云ふものは非常に少い、吾々が今まで共産黨員と思つて居つた者で共産黨員でない者が随分ある、例へば孫逸仙の未亡人の如き、それからこの間日本に來た陳友仁の如きはさうで、廣東の政府を拵へた時に共産黨員だと思つて居つた人は本當の共産黨ではない。ケレンスキ時代のはスターリンになつてから皆排斥されて眞面目な奴だけを取つて居る。四十以上の者も居りますが、五十以上は絶対に取らない。新しく取るのは四十以上は駄目で、所謂年少氣銳の者だけを鍛えて良い成績を出さなければ黨員にはしない。だから日本の共産黨に對するやり方を見て、あれは共産黨を殖やすやり方だ、あれだと黨員の成績が分る。新聞や

何かで發表するから自分の成績が本部に報告されるので成績が良くなる。さうすると早く黨員の良
い所に行ける。大變日本のやり方は間違つて居る。黨員を殖やすやり方だと共產黨に少し足を突込
んだ男が言つて居りました。

(終り)

賑やかに落葉を掃いてゐたりけり

田邊泉月

風吹いて落葉遊べり平林寺

三樹竹雨

工 事 漫 録

第二十四輯

◎「コンクリート」舗装の修理。

F N R Aug. 13, 1931.

「コンクリート」舗装に損所を生じ、補綴をなすときには、切口を垂直に切りて孔を掘り是れに「コ
ンクリート」を詰め、十分に搗き固め、他より約二分一吋高く均し、約四十五分を放置し、硬化の始
まるを待ち再び十分に搗き固め、之れを木製定木及短き帯草により平滑に仕上げ、數日間濕潤せる砂
を蔽ひ置き養生す。斯くするときには「コンクリート」の硬化により生ずる收縮を防止し、完全なる補綴
をなし得て結果良好なりと云ふ。又「ポートランドセメント」協會の研究によれば、二時間乃至三時間
練り置きたる「コンクリート」も更に骨材又は水を加ふるにあらざれば強度に何等の影響なしと云ふ。

◎露國は建築物に凍結したる「コンクリート」を用ゆ。

F N R Aug. 9, 1931.

露國「ウクライナ」に於て、千九百五年以降嚴寒時に「コンクリート」を施工せしに強度も十分に發生
し工事に成功せりと云ふ。即ち「コンクリート」は打ちて未だ凝結を始めざる前に凍結せば、春の暖氣
にて水の溶解と共に「コンクリート」は凝結を始め漸次硬化し、完全に強度を發揮すと云へるなり。而
し既に凝結を始めたる後に凍結し、又は凍解を繰返すことは大に害ありと云ふ。而して「セメント」は

冷き故に骨材も冷き儘にて乾きたるものを用ひ、水は華氏四十度乃至五十度のものを用ひ、迅速に「コンクリート」を施工し、型板を更らに板にて蔽ひ「スラップ」の部は砂又は藁にて蔽ひ水を注ぎ、凍氷の溶けて「コンクリート」の凝結を誘起せざる様防止して凍結を促進するなり。「コンクリート」を工事半途に中止の必要あるときは、更に工事を再始する前温湯を注ぎ氷面を溶かし、表面を掻き荒し新層を施すべし。又最も六ヶ敷は春に至り凍結の融解するとき「コンクリート」に適度の湿度を與ふることにて、豫め型枠等に此設備を施し置くを要すと云ふ。

◎既成「コンクリート」枠組式土留壁。

Eng. News-Record Aug. 27, 1931.

米國の「シカゴ」及北西鐵道の線路擴張工事に經濟的と工事の速成を期して、高二十五呎以下の土留壁に、造り置きたる長さ約六呎、重量三百封度乃至三百五十封度の「コンクリート」片を可動起重機にて、第一圖に示す如く、高さに應し一列乃至三列に組み立て、鋼鐵の留め金を以て繋ぎ合せ、又前面には長さ六呎の「コンクリート」を用ひて表面工を施せり。又表面には六分一の堅勾配を附せり。而して枠材の間隙は粘土交りの砂利を以て十分填充せり。

◎軌條敷換へ機械の數々。

Eng. News-Record Aug. 20, 1931.

The Railway Gazette Aug. 7, 1931.

獨逸國にては軌條敷換へに軌條一本の長さ丈枕木を取り付け、軌道を完成し置き之れを既に搗き

固めたる道床上に、敷設機械を用ひて配置するの法を用ひ居れり。其の機械の略圖は第二圖の如くにして、

Aは敷換へをなす線路に起重機車を置き、隣りの線に新舊軌條を運搬する車輛を置くことを要し、同時に二線路の運轉を支障するの不便あり。

Bは「Hoch Machine」と號し、架け出しの部分は關節により折り疊みをなすことを得。又前方の支架(b)(Bent)は持運び自在にて道床上に立つ。走行路(a)上には二箇の小車付巻揚げ機(c)(Trolley Hoist)を備ふ。

Cは「Niemag Machine」と號し、前者と大同小異なるもの。

Dは「Neddermeyer System」二箇の門型起重機を用ひ、別に其の走行軌條(f)を設く。同機は高さ九呎三吋、巾十呎二吋にして、各起重機の負荷力は二噸半なりと云ふ。

Eは轉轍器敷換用の機械なり。

佛國にても機械的軌條交換法を用ひ好果を收めつゝありと云ふ。用機は第三、四圖に示す如し。

◎理想的野球場と、木と「コンクリート」の合成杭。

Eng. News-Record Aug. 20, 1931.

米國「クリーブランド」の運動競技場は、七萬八千の觀覽席を有する卵形のものにて、第五圖に示す如きものなり。同場にては基礎杭には木材と「コンクリート」の合成杭を用ひたり。即ち地下水面以下

は木杭を用ひ、其の上部に「コンクリート」の杭を継ぎ足したり。其の法は第六圖に示す如く、接手は木杭の頭を柄に削り鉄筋入り「コンクリート」の皮を着せ、上部は波形鐵板の被覆中に「コンクリート」を填充したるものなり。

◎盛土に於ける高架斜道の沈降を「グラウチング」により防止す。Eng. News-Record Aug. 20, 1931.

米國西「ヴァージニア」州「チャアレストン」市の「チエサピーク」―「オハイオ」鐵道驛に於ける高架斜道は第七圖に示す如く、九箇の橋脚と五十四呎の長さをも有する橋臺ありて、其の建設場所の地質は約二十呎の盛土下に「シルト」、砂、砂利及粘土の互層あり。岩盤は四十呎乃至五十呎の深さに存す。設計荷重は每一平方呎四千封度とし、各橋脚は九平方呎の底面積を有し地面下十呎の深さに達せしめたり。然るに斜道は成工後沈降を初め交通を開始する能はざりし、依て之れが救済案を考究せし結果「グラウチング」によることとし「Francis Cementation Process」と號する方法を採用したり。

同所にては先づ橋臺より始め、徑一時四分の三の錐先を壓搾空氣槌により岩盤迄打込む。而して錐先には諸所に小孔を穿ちあり、又錐先の莖部をなす錐桿(Drill rod)も中空なれば錐揉み込み中には時々少量の水を桿内に流し込み、小孔の塞がらぬ様に注意す。錐先が所期の深さに達せし時「グラウト」を「フランツァ、ラムタイプ、ポンプ」にて、錐先きの小孔を通りて地隙に送り込み、送り込みに對する抵抗増加するときは、錐先を徐々に引き揚げ「グラウト」が孔全長の周圍に瀾漫する様になす。而して「グ

ラウチング」の最高壓力は二百封度(毎平方吋)を用ひたり。「グラウト」の割合は「セメント」二に對し水三より「セメント」及水の同量の間とせり。各橋脚に用ひたる孔數、「セメント」及砂の數量は第七圖に示す如し。

右工事に要せし「セメント」は三千五百八樽半、砂八十立方碼、孔數五百六十二にして、工事期間四ヶ月を要せり。而して各五十呎徑間に、砂百三十噸を七日間載せ置きて試験を施せしも何等の異狀なかりしと云ふ。

◎泥土の注入により街路舗裝の不陸を修理す。 E. N. R. Aug. 6, 1931.

米國「イリノイス」州「ナイルセンタア」にて「コンクリートスラップ」の舗裝、路盤沈下の爲め不陸を生ぜしにより、舗裝中心線の左右三呎乃至七呎の處に約十二呎の間隔を置き、二列に徑二吋半の孔を穿ち、是れに壓力四百封度に耐ゆる徑三吋「ホース」の先端に付したる徑二吋半、長八吋の「ゴムノツヅル」を差し込み、二箇の「シリンダア」をも有する泥注入「ポンプ」を用ひて、泥土と「セメント」及水の混合物を注入するときは、沈下せる舗裝は浮き上り、不陸を修正することを得たり。泥は「ローム」を最良とし、砂又は粘土は不適當なりと云ふ。又「ローム」に粘土の混するものも用ひらるゝも、混泥に長時間を要すと云ふ。混合の割合は「ローム」一立方碼に「セメント」壹立方呎とし「ローム」を「トラツク」に積込む際「セメント」を振り蒔き置き「トラツク」より直ちに混合機に投入す。

此の方法にて約四千七百二十二平方碼を、平均一時半最大二吋四分三扞土せしが、其の工費一千二百六十八弗餘にして、一平方碼當り二十七「セント」なり。而し此の作業により舗装に龜裂を生ぜしは二三ヶ所に過ぎず。而して其の原因は一つの孔より過大に扞土せんとせしためなりし。又注入孔を七吋厚の「スラップ」に穿つには「ジャックハンマア」を用ひ、一分乃至一分半を要し、一ヶ所の穿孔請負工費は四十「セント」なりしと云ふ。

◎「バナマ」運河通航量の増加方策。

E. N. R. July. 30, 1931.

米國の「ダニエル、アイ、サルタン」中佐は「ニカラガ」運河の測量を了へて「ワシントン」府に歸り「ニカラガ」運河の開鑿は技術上可能なれども「バナマ」運河は「マッデン」堰堤を作りて貯水をなし、更に第三の閘門列を増築せば殆んど今日の通航力を倍加するを以て、長き將來にも不足を感ずることなるべし。依て「ニカラガ」運河の開鑿に要する豫算工費七億五千萬弗は、寧ろ他の緊急なる事業に振り向くるを得策とすと報告せり。

「マッデン」堰堤の位置は第八圖に示す如く「チアグレンス」河の上流にして、二百二十億五千六百萬立方呎の水を湛ふる計畫にして、本工事は千九百二十八年の議會にて協賛を得たり。

現在の「バナマ」運河の各水位に於ける閘門の開閉度数は、三十二回を限度とするも、千九百二十八年に於ける實際開閉平均数は、十六回七にして、尙約二倍の能力を有し、更らに「マッデン」堰堤を作り閘門を尙一列増加するときは、一日の平均開閉数は六十回に増すことを得と云ふ。

◎沼地に於ける鐵道線路盛土の逸出防禦に鋼矢板の使用。

E. N. R. July. 3, 1931.

米國「ニューヨーク」州「グラハム」附近に於ける「ニューヨークセントラル」鐵道の「フットナム」區の新線建設に當り、巾千二百呎の沼地を横斷するを必要とせしが、同沼は砂及粘土層上に厚さ十呎乃至四十呎の柔軟なる腐敗植物よりなる泥炭層ありて盛土不可能なるを認め、第九、十圖の如く鐵矢板を打ち盛土の散逸するを防ぎしに、僅沈降せしのみにて好成绩を收めたりと云ふ。

◎軌條取付の新法。

E. N. R. July. 23, 1931.

米國「メロナ」の Woodings Forge & Tool Co. は、床板に軌條を締着するに第十一圖の如き法を案出せり。即ち床板は十四吋四分の三に七吋二分の一の大きにて、兩側に高さ耳あり、之れに巾二吋二分の一のL形彈抑金(Spring Clips)を挿入する孔を穿ちたるものを用ひ、軌條底部を彈抑金にて抑壓す。又彈抑金は床板外縁の小突起にて脱出を防止せらる。

◎英國に於ける最長公道橋建設の計畫。

Eng. News-Record July. 2, 1931.

英國は「フォース」河に長さ二哩の公道橋を、一億三萬七千五百弗の豫算を以て、多分來年より起工するならん。併して同橋は Rosyth 橋と命名せらるべしと云ふ。

◎「マウントヴァノン」紀念公道。

Eng. News-Record. July. 2, 1931.

「ジョウジ、ワシントン」生誕二百年の記念として、「ワシントン」市より「ワシントン」の舊居「マウ
ント、ヴァノン」に至る道路を築造中なるが、其の延長は約十五哩にして、工費は用地費を除き六百
萬弗なりと云ふ。

其工事中特殊と思はるるものは、平面交叉を避けたる交叉道路と、「ヴァノン」終點にて交通の混雑
を減ずる爲めの施設なりとす。(第十二、十三、十四圖参照)

◎印度の新首府「ニュー、デルク」 E. N. R. Sept. 10, 1931.

印度の首都は元「カルカッタ」なりしが、千九百十三年海岸を去る八百五十哩にして「カルカッタ」の
西北に當る「デルヒ」市の南方郊外の地を下して、首都の敷地と定め都市計畫を立て、二千五百萬弗の
豫算を以て五ヶ年間に建設の筈なりしも、世界戦争の勃發に會ひ、一時進行を中止し、又物價も騰貴
し手違ひを生ぜしが、本年初めに新首都開きを行ひたり。其の都市計畫及位置は第十五、十六、十七圖
の如し。

◎都市の噪音 Eng. News-Record Aug. 27, 1931.

都會に於ける自動車、電車より生ずる騒音並に「リベット」打ち工事等の噪音は、終に衛生的にも害
を惹起するの情勢を呈し來り、是れが防止の方策問題となるに至れり。

噪音測定の單位は「Decibel」「デシベル」と號し、普通「デシベル」の差あるときは一つの音が他よ
り噪ひすしく感知せらるゝ程度のもなり。而して「ウキオリン」十挺の音に對し、百挺の音は十倍の強
度(Intensity)を有するも耳に感ずる噪ひしは僅かに二倍なりと云ふ。即ち音の強度は「エナジー」に
して、馬力又は「ワット」單位にて測定せらるゝも、聴感覺に對する噪ひすしさは強度の對數(Logarith
m)に比例する單位に依り測定す。音の「エナジー」は頗る微弱にして、普通會談時の聲の「エナジー」
は十「ミクロワット」(即ち百分一「ワット」)に當ると云ふ。又常人の耳にて初めて聴取り得る微音を
「メンシヨルド」(Threshold)音と號し、是れを音感度の單位とす。是れに依れば通常の平均噪音の
感度は約百萬「メンシヨルド」單位に當り。噪音の單位にては六〇「デシベル」位に當る。左表は強度
と「デシベル」との關係を示すものなり。

強度(I)	(メンシヨルド 音)	噪ひすしさ單位「デシベル」 $10 \times \log I$
1		$10 \times \log 1 = 0$
10		$10 \times \log 10 = 10$
100		$10 \times \log 100 = 20$
1,000		$10 \times \log 1,000 = 30$
1,000,000		$10 \times \log 1,000,000 = 60$
1,000,000,000		$10 \times \log 1,000,000,000 = 90$

◎新型鋼矢板。 Eng. News-Record Aug. 20, 1931.

「シカゴ」市 “Inland steel co.” は、第十八圖に示す如き新型鋼矢板を發表せり。尙不日此他の型をも發賣せんと云ふ。

断面	IA 15—34	ID 16—25
一呎重量	42.50 封度	13.32 封度
壁面一平方呎の重量	34.00 封度	25.00 封度
慣性率(I)(Moment of Inertia)	19.10 ft ⁴	49.60 ft ⁴
断面力率(單一矢板の断面に對する)(Section Modulus per section)	8.42 ft ³	13.44 ft ³
断面力率(壁面一呎長に對する)(Section Modulus Per linear foot of wall)	6.74 ft ³	10.08 ft ³
環重力半径(Radius of Gyration)	1.33 ft	2.25 ft

◎細胞管型心堤。 E. N. R. Sept. 5, 1931.

昭和六年四月の工事漫録第二十一輯に「メキシコ」國に於ける細胞管型心堤に就きて記載せしが「オーストラリヤ」の「シルヴァン」堰堤にても亦此れに類するものを採用し、千九百二十七年十一月より起工し、本年夏過ぎには竣功せらるべしと云ふ。同堰堤は高さ百四十呎、延長二千百呎にして、八十八億五千萬ガロン」の水を湛ふ。堰堤断面は第十九圖に示す如く、心堤内の豎孔は徑三呎にして、心々四呎六吋の距離を保ち、下部は排水並に監視用の坑道に連絡す。心堤の断面は第二十圖に示す如く心堤の鐵筋は二分一吋の鐵桿を十二時間隔に豎横に配列し、心堤の豎孔の上流側の厚さは上部にて一呎として、前後面とも六十分一の豎勾配を附す。依て心堤上流側の壁厚さは、頂點よりd 呎の深さの點に於ては $1.00 + d/30$ なり。

坑道は高さ五呎六吋四分三、巾二呎九吋にし、排水溝及手摺りを設く。而して其の最急勾配は十分一なり。又高低の差大なる處には六段乃至十二段の階段を附す。

◎セメント耐久性の試験法の適否。 E. N. R. July. 23, 1931.

昭和五年四月刊行工事漫録第十五輯に「メリマン」氏の「セメント」耐久試験法を掲載せしが、爾後米國の「ビュロー、ラブ、スタンダーツ」にて實驗せし結果「メリマン」氏の試験法は尙耐久性を判定するに不十分なることを發表せられたり。

◎工場建築物に對する風壓の實驗。 E. N. R. July. 23, 1931.

米國の「ビュロー、ラブ、スタンダーツ」に於て、第二十一圖に示す如き、長四呎、巾二呎、軒下高六吋、屋根勾配二十度、取り放しの出来る高一吋六、巾六吋、長さ三十吋の小屋根(Monitor)を有する家屋雛形を厚さ四分一吋の「アルミニウム」の薄板にて作り、各面の各所に徑二十五分の一の小孔を數百穿ち、是れに壓力測定器の「ホース」を接続し、此の雛形を徑十呎の風洞内の巾十呎、長十五呎の臺

上に安置し、毎秒四十七、六十、八十呎(毎時三十二、四十一及五十五哩)の風速に對して壓力試験を行ひしに、各三風速に對する測定壓力と左記公式により得たる壓力との比は全然一致せり。依て試験成績は此の比により表示す。

$$P = 0.00256V^2$$

V = 哩にて測れる時速

P = 封度にて測れる一平方呎に於ける壓力

雛形を風洞内に横手、長手及四十五度の斜めに置き測定せる結果は、第二十二圖に示す如くにて、風上側に於ける風壓は計算壓力に達するものなく、最大〇、八乃至〇、九の處小部分あり。然して側面(但し風下側面を除き)及屋根にありては吸氣(サクシヨン)に依り、より大なる反對壓力(吸出さるゝ力)を發生するを見る。

風が建物の隅に四十五度に當るとき、小屋根の風下勾配の處にありては、吸出力三・三に達することあり。

第二十二圖中の線は實驗により測定せる等風壓の點を繋きたるものなり。

線側に記入の數字は、測定壓と公式より計算せる壓力との比なり。

◎全世界に於ける水力の發展。 E N R Aug. 13, 1931.

米國合衆國地質測量部の計算に依れば、全世界に於ける既設水力發電所の水車容量は、千九百二十年に於ては二千三百萬馬力、千九百二十三年末には二千九百萬馬力、千九百二十六年末には三千三百萬馬力、千九百三十年末には四千六百萬馬力にして、十年間に丁度倍加せり。米國以外の國にて發達の顯著なるものは、伊、日、加奈陀、獨、瑞西、埃及瑞典なりとす。

◎千九百二十七年末全世界に於ける鐵道營業哩。 E N R Aug. 6, 1931.

獨逸國發行の Archiv für Eisenbahn wesen に依れば、千九百二十七年末の全世界鐵道の營業哩は七十七萬六千八百三十四哩にして、其の所屬する主要國を延長哩順に表示すれば左の如し。

北米合衆國(アラスカを含む)	250,026哩
露西亞	47,762
加奈陀	42,626
印度	38,822
獨逸	36,299
佛蘭西	33,281
「オーストラリア」(ニュウジランドを含む)	30,777
大英國(アイルランドを含む)	24,396

アルゼンチーナ	23,482
ブラジル	19,603
メキシコ	16,443
日本	14,935
伊國	13,049
南阿	12,135
波蘭	12,066
瑞典	10,110
スペイン	9,859
チエロスロバキヤ	8,552
支那	8,426
ルーマニヤ	7,424
ベルジウム	6,893

米國は世界地積の八「ピアセント」弱を占め、人口は七「ピアセント」弱なるに、鐵道は總哩數の三十二「ピアセント」を有すと云ふ。

◎十年間に於ける機關車の發達。

The Railway Gazette Aug. 21, 1931
The Railway Engineer Aug. 1931.

「アメリカン、ロコモティブ」會社社長「ツイリアム、シー、ダッカアマン」氏が、本年四月十四日なせる講演中の一節に依れば、千九百二十年と千九百二十九年とに於ける米國鐵道の狀況及機關車發達の狀勢は、左表及第二十三、二十四、二十五、二十六圖に示す如く顯著なりとす。即ち機關車は改良せられて牽引力を倍加し、却て燃料消費量は減じて能率も増進し、又走行哩の増加と牽引力の増加と相俟つて、機關車及從業員の數を減少し、營業費を節約せるを見る。

北米合衆國にて千九百二十八年中各種交通機關により輸送せられたる總運輸數量は、六千五百三十三億四百二十七萬噸に上り、内七十七％は鐵道、二％は電鐵、貨物自動車及航空機、五％は輸送管、殘部の十六％は湖水及水路により輸送せられたりと云ふ。

又千九百二十二年と千九百二十八年（兩年を含み）間に投じたる資本金五十四億四千四百六十六萬圓中、十二％は機關車建造費、二十九％は貨車、六％は客車、十六％は線路増設、其殘餘は諸改良工事に費されたり。

又一貨物列車の總重量（風袋共）は十三％増加して、千九百二十九年には八百四噸となり、有貨貨物量の増加は八％なり。而して使用石炭量は十％を減じ、牽引力は却て十七％を増加せり。又平均一列車

總重量は約八百噸なれども、千噸以上のもの又稀ならず。

又一貨物列車の毎壹時間平均總噸哩は、千九百二十年には一萬四千八百七十七なりしもの、千九百二十九年には六十五%の躍進をなして、二萬四千五百三十三噸哩となりしも、貨物機關車牽引力の増加は前記の如く僅かに十七%に過ぎざるなり。

第二十三圖は貨物機關車の千九百二十年と千九百二十九年に於ける牽引力及馬力の増進の比を示す。即ち兩者ともに平均速度二十八哩のときは六十四%増加せり。

第二十四圖は旅客機關車に對するものにて、速度六十哩のときは百三十九%の増加を示せり。

第二十五圖は列車重量の増加及機關車運轉區間を延長して、千九百二十年には七區間にて七機關車を用ひしを、千九百二十九年には二區間となし、二機關車にて運轉し、一機關車の運轉哩數は五百八十八哩に達せることを示す。

第二十六圖は從來の(A)級(假稱)機關車三十輛及(B)級機關車三十四輛にて、八十三哩及百壹哩と八十九哩及百十四哩の四區間を運轉せしを、改良機關車(C)級五十輛を用ひ、百八十四哩及二百三哩の二區間となし運轉するときは、牽引力は十二%を増大し、燃料に於て(A)級に對しては六%、(B)級に對しては二十九%の節約をなし、速度に於ては(A)級に對しては三%の減少となるも、(B)級に對しては十九%の増加をなし、又營業費に於て二十五%を節約し得たるを示せり。

1920年及1929年に於ける鐵道狀勢比較表

1920年 1929年

摘 要

鐵道線路延長(哩)	406,000	428,000	約5%の増加(復線以上の部は單線に換算せ)
同第一幹線延長(哩)		250,000	
機關車數	64,746	57,571	約7,000輛の減少
機關車平均牽引力(封度)	36,365	44,793	
普通客車數 (輛)	53,501	52,259	
Pullman客車數 (輛)	7,726	9,529	
貨車數 (輛)	2,322,122	2,277,464	
平均積載量 (噸)	42.3	46.3	
貨車積載總量 (噸)	98,342,700	105,410,100	
有貨荷物積載車輛數 (一年當り)	45,118,500	52,789,800	
同(一日一時間當り)	5,150	9,020	
貨車一車當り噸哩	176,700	196,400	11%の増加
輸送旅客總數 (人)	1,235 × 10 ⁶	780 × 10 ⁶	37%の減少

輸送旅客総人哩	46,848 × 10 ⁶	31,074 × 10 ⁶	34%の減少
人口一人當り乗車哩	440	256	(10 ⁶ は百萬を意味す)
収入(\$)	6,178 × 10 ⁶	6,280 × 10 ⁶	
内貨物収入 \$	4,328 × 10 ⁶	4,826 × 10 ⁶	
營業費 \$	5,381 × 10 ⁶	4,506 × 10 ⁶	収入と營業費の割合1929にては71.7%
租稅 \$	272 × 10 ⁶	397 × 10 ⁶	
從業者數	2,023,000	1,661,000	18%の減少
貨物機關車の側輪上重量 (封度)	245,000	247,500	
貨物機關車の引出時牽引力 (封度)	52,000	60,000	15%の増加
貨物機關車の速度二十八哩の時 (封度)	25,000	41,000	64%の増加

○日本國長鐵道由德意志國「チーザル」國京總匯局。 The Railway Gazette Aug. 28, 1931.
 日本鐵道省管内入換用機關車と「ジッ」國國 Maschinen Fabrik Esslingen 及 Maschinen Fabrik Augsburg-Nürnberg A. G. 之其回並「チーザル」國京總匯局を製造せしむるなり。(鐵道十一年圖彙誌)
 其の主要項目左の如し。

「ヂーゼル」發動機の出力(一分間に665回轉にて) 600H.P

直流發動機 (同上)	380KW
牽引用發動機二個(各)	160—180KW
齒車比(Gear ratio)	1 : 4 : 5
側輪徑	(1,250mm) 49.4吋
導輪及從輪徑	(940mm) 37吋
固定軸距	(3,000mm) 9呎10.8吋
總軸距	(7,550mm) 24呎9.4吋
軌間	(1,067mm) 3呎6吋
積載燃料	(1,500kg) 3307封度
運轉整備時重量	(60,000kg) 59ton 1cwt 1qr
空虛時重量	(57,000kg) 56ton 2cwt 1qr
側輪上重量	(45,000kg) 44ton 6cwt.
最大牽引力	(10,500kg) 23,153lb
最大速度	(60kw/h) 37.4 m.p.h.

◎製鐵所製足照燈機。 V. D. I. 18. Juli, 1931.

南獨「ブライスガウ」の「フライブルグ」近傍の高さ千二百八十六米の「シャウインスランド」に延長三、六キロの循環式懸吊鐵道を建設し、一時間に六百六十人の乗客を登山せしむと云ふ。

第二十八圖に示す如き循環式にありては、連續的に客車を運轉し得るに依り、從來用ひたる方式に比し輸送力大なるは明かなるが、斯る方式を客用に供したるは嚆矢なりと云ふ。

縦断面は第二十九圖に示す如く、鐵塔は七脚、最高は三十七米五、最長徑間五キロなり。最急勾配は百分の五十二なり。索條は荷重を支持する主索條と、牽索條を用ゆ。主索條は徑五十「ミリメートル」にして、九十一條の丸針金及二十六條の形針金(特種の断面に作られたるもの)よりなり、強度は二百三十噸の荷重に堪ゆ。

牽索條は二重となし、各條徑二十四「ミリメートル」にして、徑一、六「ミリメートル」の針金十九條を束ねるもの六束よりなる。計算強度は合計四萬三千百「キログラム」となる。

停車場、鐵塔及車輛の走行装置は第三十乃至三十四圖に示す如し。

◎「ハンガリヤ」國急行列車の計畫的轉覆事故。 The Railway Gazette Sept. 18, 1931.

九月十三日未明「ブタベスト」市を去る二十四哩許の「ビートルバギイ」橋上に爆彈を裝置し「ブタベスト、オスランド」間急行列車を爆破せり。列車は機關車、客車及寢臺車諸共に脱線、百呎の溪谷中に墜落し二十五名は即死し、他に多數の負傷者を生ぜりと云ふ。

◎沈井工事中の珍奇な事故。

The Surveyor July, 17, 1931.

英國「ダッゲンハム」テームス「河畔」の「フォード」自動車會社の新鐵筋「コンクリート」棧橋基礎に井筒を用ひたり。井筒は徑十二呎にして、厚八分三吋の鋼板よりなる高六呎の圓筒を積み重ねたるものにて、双口を附し河床の泥土及緩き砂利層に喰ひ込みを容易にせり。而して井筒の頂上には鋼製の桁枠を置き、是れに二噸の鑄鐵の荷重を積載せり。斯くして井筒内の土砂を浚渫して徐々に沈下せしめ、所期砂利層に達せしとき、井筒内に鐵筋「コンクリート」の柱を滿潮面上迄建設し、後に側の圓筒は除去する工法なり。

然るに沈井は障害物ありて沈降せざるに依り、六月十九日午前九時三十分潜水夫を入れ射水法により、及口に横れる障害物を除去せんとせしに、障害物は除去せられたるも、同時に及口外周の泥土も崩壊空洞を生じ、潜水夫は井筒内の水面、外部の水面よりも十二呎高かりし爲め、其の壓力にて吹き上げられたり。

外部にありし人々は事故の生ぜしを感知し、直ちに救援潜水夫を送りしに遭難潜水夫の所在全く不明なれば、及口にて急に折り曲げられ折斷に瀕する送氣管を緩め置き、水上に出で他の救援を求めたり。依て先づ井筒上の荷重を取り卸し井筒の沈下を防ぎ、及口下を掘りて送氣管を辿りて遭難者に達せんと努力せしも能はざりしを以て、潜水夫の應援隊を「バッテリー」より早船にて招集し救助に盡力

せしに、漸く遭難者の尙生存せる微弱なる便りを得て勇氣百倍、井筒外部の土砂を射水法にて洗掘し、遭難者の所在に達せしに遭難者は事故發生の際重り沓を脱却せし爲め逆さまとなり、且つ送氣管は水上に潜水夫を引き揚ぐるには二呎不足せり、依て送氣管を締閉して後之れを切斷し、數秒を期して起重機にて舟中に引揚げたり。時に午後四時三十分、實に土中埋没せし時間は七時間に及び、半ば失神し長時間逆轉の位置にありしたため眼瞼は決裂せしも、暫くにして正氣に復したり。斯く長時間土中に埋没しながら救助せられしは奇蹟なりと云ふべし。(第三十五圖參照)

○伊國「ミラン」中央停車場。

E. N. R. May 15, 1930. Aug. 6, 1931.

The Railway Gazette. {Feb. 14, 1930. July 10, &
Sept. 11, 1931.

新「ミラン」停車場は計畫を始めしより、二十五年の星霜を経て本年七月一日開場せしものにて、其の規模の大なる歐洲第一と稱せらる。而して工費一千百萬磅以上に上り、線路は街路上二十五呎の高位にあり、四十三萬平方碼の地積を占む。各線路は一方に巾二十四呎の旅客乗降場、他方に巾十三呎の手荷物用「プラットホーム」を有し、旅客用乗降場二十二面ありて、長さ七百呎、巾七十二呎の通路より突出す。(第三十六圖參照)

車止めは Rawie Patent Buffer を用ゆ。其の構造は第三十七、三十八圖に示す如く、車止めに車輛が衝突するときは車止めは枕木諸共「コンクリート」道床上を引摺られ抵抗を増加するものなり。

信號所は第四十、四十一圖の如く、又列車上家は長さ千百十九呎の五棟よりなり、規模宏大にして屋蓋の徑間は中央二百四十呎、左右各百五十呎及四十呎なり。(第三十九圖參照)而して其の被覆面積八萬平方碼なりと云ふ。斯る大なる列車上屋は往時にありては各國競ふて是れを建設し以て誇りとなせしも、現今にては蒸氣機關車を用ゆる處にては煤煙籠り、濛々として陰鬱の感を與へ、且つ建設費並に保存費の大なるに鑑み、是れを新設せざるのみならず、寧ろ是れを撤回するものさへ現出するに至れる際として、本工事は一入の興味あるを覺ゆ。(次項米國「ボストン」南停車場の列車上屋取り除き工事に參照)

○米國「ボストン」南停車場の列車上屋取り除き工事。 E. N. R. July 30, 1931.

「ボストン」南停車場は千八百九十八年の建設にかゝるものにて、二十八線路と乗降場を蔽ふ列車上家は中央に二百二十八呎左右に百六十九呎づゝの梁間を有する大屋蓋(第四十二圖)よりなり壯觀を呈し、而も材料は經濟的に使用せられ、所期の目的を十分に達成しつゝありしが、只だ一つの缺點は海水及煤煙、霧の爲め著敷鐵材の腐蝕することにて殊に燃料に「コークス」を用ゆるに至り煙害一層顯著となり已に千九百二十年に修理を加へしも再び修理の必要を見るに至れるにより、斷然方式を改め各乗降場に蝶形上家を用ひ、大屋蓋は除去することとなり列車の運轉を支障することなく、第四十三圖に示す如き二箇の八十呎×四十八呎と、八十呎×三十六呎の移動臺(Mover)を作り大なる移動臺に二

箇の十五噸揚の起重機を据へ付け、是れを用ひて焼切りたる鐵材を取り下し何等の事故なく、作業日數百日の期限を愆らず、屋蓋の撤回を了せり。而して「ラッシュアツア」には作業を休み、該工事中發著せし五萬の列車に對し、何等の故障を及ぼせしことなく、亦多數乗降旅客に對する損害も僅少にして衣服の燒損九件に對し、合計五百弗に滿たざる賠償を仕拂ひしに過ぎざりしと云ふ。

◎ 中華民國上海附近の新設石炭取扱所。

The Engineer July, 24, 1931.

上海より稍上流黃浦江岸に五百呎に八百呎(約一萬一千一百坪)の土地をトし英國 The Mitchell Conveyor and Transporter Co. 會社の石炭積卸し及貯炭機械を設備し、開濼炭の取扱を開始せり。(第四十四及四十五圖參照) 其の能力は毎時間三百噸を取扱ひ得るものなり。其の主要なる機械は左の如し。石炭陸揚機(A)開濼より汽船にて來れる石炭を第四十六圖の如き陸揚起重機を棧橋(B)上に設備し擲揚器(C)(Grab)容量七二「バンドレットドウェイト」にて石炭を掴み之れを「ホッパー」(D)に放下し、夫れより「ベルトコンヴェヤー」(E)にて篩ひ分機(F)に送り、選別せる石炭は二條の「ベルトコンヴェイヤー」にて計量機(G)を経て、七百三十五呎及五百四十五呎の「ベルトコンヴェイヤー」(H)に移され更に是れに直角をなせる移動橋梁型貯炭機(J)(第四十七圖)に「トリツバ」(L)(第四十九圖を介して移炭す。

貯炭機は第四十七圖に示す如き折り曲りたる桁上に「ベルト」ありて、(a)の「ホツバ」に(H)「ベルト」より給炭せられ、是れより「ベルト」(n)により(b)の「ホツバ」に送られ、再び回轉臂(c)上にある「ベルト」に移され、石炭は廣く平等に撒布せらる。而し動臂は回轉と同時に亦上下にも傾斜し、可成石炭落下の高さを加減し破碎を防ぐ。又直接車積にする如き場合には「ホツバ」より(e)の堅樋を通じて炭を車に積込みをなすことも得るなり。

再積機(K)(第四十八圖及第五十圖)は、一旦貯炭したるものを更らに小舟又は車に積込むときに用ゆるものにて、擲揚器(Stongrab)にて石炭を掴み、除塵器(f)に放下すれば、是れより「ホツバ」(g)を經、計重器(h)にかゝり、一つは直ちに車に積まれ、一つは「ベルト」にて(m)なる臂上の「ベルト」(l)に運ばれ、舟に積込まる、(m)なる臂は自由に上下に動かすを得、而して石炭の落下の高さを調節す。又長さも伸縮し得て舟の幅に適應し得る仕掛をなす。

次項に掲ぐる鐵道省川崎發電所炭取り扱ひ設備及其他の本邦に於ける炭取扱所設備と對照すれば興味深かるべし。

◎ 鐵道省川崎火力發電所工事概要與其他の本邦に於ける石炭取り扱ひ機。

鐵道省は信濃川水力發電所の渴水期補給用として、又同水力發電所竣工以前に於ては常用として火力發電所を神奈川縣川崎市扇町三番地に建設することとし、昭和二年十二月十二日起工し、本年一月卅一日竣功せり。今其の概要を擧ぐれば左の如し。(第五十一圖參照)

敷地面積

六萬六千五百五十六平方米(二萬坪)

建物總面積

八千九百九十九平方米

電力發生能力

設備容量

常時出力

瞬時最大

一二〇、〇〇〇キロワット

八〇、〇〇〇キロワット

一分間最大

九〇、〇〇〇

六〇、〇〇〇

二時間連續

七八、三〇〇

五二、二〇〇

連續

六〇、〇〇〇

四〇、〇〇〇

計畫の概要

前記の設備容量に對し「タービン」發電機三臺を設備し、内二臺を常用、他の一臺を豫備とす。汽罐は「タービン」一臺に付約二罐づゝの割合とし、是れに尙二罐の豫備を置き、總數八臺を設備す。

蒸汽壓力は汽罐出口に於て、壓力計にて每平方「センチメートル」に付二十七「キログラム」「タービン」入口に於ける壓力計にて每平方「センチメートル」に付二五「キログラム」。

蒸汽溫度は汽罐出口に於て攝氏三八五度、「タービン」入口に於て三七五度。

汽罐給水溫度は節炭器入口に於て攝氏九四度なり。

發電電壓は六、六〇〇「ボルト」にして、之れを六六、〇〇〇「ボルト」に遞昇し、架空送

電線を以て新鶴見變電所を経て電化沿線の各變電所に配電す。

蒸汽發生裝置

汽罐は總數八罐の内四罐は普通炭を燃燒する「ストーカー」付三胴水管式と、他の四罐は微粉炭燃燒式三胴水管式にして何れも曲管を用ひ、各罐の加熱面積は普通石炭燃燒式にありては、一、三〇〇平方米、微粉炭燃燒式にありては一、二四四平方米、最大連續蒸發量は毎時五〇、〇〇〇「キログラム」なり。

微粉炭裝置は集合式にして、石炭乾燥方法は半間接式、微粉製造並に運搬方法は「フーラーキニヨン」式なり。

主發電裝置

「タービン」及發電機の回轉數は、毎分一、五〇〇にして、「タービン」は二汽笛よりなり串型に配置し、「ステータ」の途中二ヶ所より蒸汽を抽出して汽罐給水を加熱す。

石炭取扱設備

石炭の供給は海運に依るものとし、最大六千噸級の石炭船繋留に適する岸壁及棧橋を築造し最大三萬噸の貯炭場を設け發電所最大出力時の所要石炭量の陸揚及運搬の外、東京鐵道局經

理課配給炭毎日約三百噸の陸揚及貨車積込みに必要なる機械装置一式を準備す。
 主要なる機械装置は左の如し。

石炭陸揚用摺揚式移動型起重機(a₁)(a₂)二臺、炭壁に沿ひて設けられたる棧橋上を移動し、各機毎時一〇〇噸陸揚の能力を有す。

貯炭及配炭用橋型運搬機(b₁)(b₂)(b₃)三臺、橋上には各機毎時再積六十噸、貯炭百二十噸の能力を有する「ベルトコンヴェイヤー」(b₁₁b₁₂)(b₂₁b₂₂)(b₃₁b₃₂)と一、五噸容量の摺炭器(G₁G₂G₃)を上げ下げする移動式起重機ありて、「ベルトコンヴェイヤー」には可動式の「トリツバー」(T)を附帶し、任意の處にて炭を放下することを得。

「ベルトコンヴェイヤー」(c₁)(c₂)岸壁に沿ひて設けたるものには、一時間に百四十噸と百二十噸能力のものとなり、又汽罐側に設けたるもの(c₃)(c₄)には一時間百二十噸と六十噸の能力のものとなり。(第五十一圖参照)

石炭貯藏所面積。56m₁×153m₁即ち八千六百八十平方米(約二千九百坪)にして、最大貯炭量三萬噸なり。

建設工事費

總額 一、六一三萬圓

内 譯	割合%
用地	九八萬圓
基礎工	一二一萬圓
建物	二七五萬圓
給水及冷却水設備	六〇萬圓
石炭及灰取扱設備	一一三萬圓
汽罐室設備	四一五萬圓
發電室設備	三二五萬圓
配電室設備	六六萬圓
高壓室設備	七一萬圓
其他	七〇萬圓

主要請負者並製作者

基礎工

間組

建物

大林組

屋外運炭装置

石川島造船所

屋内運炭装置

安治川鐵工所

灰處理装置

同上

微粉炭式汽罐四罐

「バブコック、アンドウイルコックス」會社

普通石炭燃燒式汽罐四罐

三菱造船會社

主「タービン」發電機二臺

三菱造船並電機會社

同上

「ブリチッシュニュートン及アレン」會社

配電盤一式

芝浦製作所

變壓器一式

日立製作所

第五十二圖は某所にて用ひられたる石炭扱ひ機の例にして、徑間百八十二呎半、持送り約百十五呎の門型起重機(a)にして、陸揚用巻揚機(b)は橋桁の下弦より懸吊し、容量十噸摺炭器(c)を巻揚げ橋桁に沿ひて移動し、任意の處に石炭を平等に堆積する事を得。

再積用起重機(d)は橋桁の上弦材上を走行し、容量四噸の摺炭器(e)又は容器を取り扱ひ蓄積したる石炭を「ホツバア」(h)に供給し、「ホツバア」より炭車に積載す。一回の作業に二分乃至三分を要すと云ふ。

鐵道省は北海道室蘭に近頃石炭取り扱ひ門型起重機二臺を建設せり。同機の容量は一臺一時間二百五十噸、二臺にて一日平均容量三千九百噸、一日最大五千噸、一年間に二臺にて取扱ひ得る容量は百二十八萬噸、製作費は五十七萬圓にて石川島造船所の建造にかゝると云ふ。

◎「ニューマチックタイヤ」を使用せる鐵道用石油發動車の試運轉。

The Railway Gazette May 1, and July 31, 1931.

報知新聞 昭和六年十一月七日

佛國「パリ」の「オルレアン」鐵道にては今春「ニューマチック、タイヤ」(自動車「空氣入」ゴムタイヤ)に類するもの()を使用せる鐵道用の石油發動車の試運轉を行ひしが、亦近頃「バレンツ」「シヤアル」間三十「キロ」の處にて更に試運轉を行ひたり。其長所とする點は空氣入「ゴムタイヤ」と軌條間の粘着力は鋼製「タイヤ」に比し三倍大なること、又加速度の大なること、噪音の少なき事等なり。従て交通量少なき支線にありては、此種の輕量發動車の使用は經濟的にして收支償はざる線路の救済には尤も適當なるものと思惟せらる。(第五十三、五十四圖参照)

◎鐵道省新造の「カソリン」電動車。

時事新報 昭和六年十一月十日

鐵道省にては「カソリン」電動車を二臺新造し、長濱米原間にて試運轉を行ひしに非常に好成績を擧げたりと云ふ。其の主要項目左の如し。

定員

八四人

車體全長	二〇米	巾二・八〇五米	屋根面の高(レール面上)	三・九米
重量	五一噸			
動力傳達方式	直流電氣式			
出力	「ガンリン」機關 一五〇KW(連續格定)	主發電機 一三五KW(連續格定)		
	主電動機 八〇KW二箇(一時間格定)			
最大安全運轉時速	九五KM			

◎「トーマス、エチソン」氏の易貨。

昭和六年十月十九日時事新報

大發明家なる「トーマス、エチソン」氏は、八十四歳の高齡を以て十月十八日死去す。氏の略歴中より、二三を摘記すれば左の如し。

- 一、祖先は千七百三十年頃和蘭より移住せり。
- 一、千八百四十七年二月十一日米國「オハイオ」州「ミラン」に産る。
- 一、千八百六十九年(二十二歳)最初の發明品投票記録器を案出す。
- 一、千八百六十九年爲替記録器を發明す。
- 一、千八百七十年(二十三歳)「タイプライター」を發明す。
- 一、千八百七十六年—七十七年(二十九歳—三十歳)炭素受話器を發明す。

- 一、千八百七十七年(三十歳)蓄音器を發明す。
- 一、千八百七十九年(三十二歳)炭素線電球を發明す。
- 一、千八百八十年—八十二年(三十三歳—三十五歳)電車を發明す。
- 一、千八百九十一年(四十四歳)活動寫眞機を發明す。
- 一、千九百年—十年(五十三歳—六十三歳)蓄電池を發明す。
- 一、千九百二十五年(六十五歳)「トーカー」を發明す。

◎最近の石油坑の深さ。

最近石油坑の深さは鑿穿技術の進歩と、錐先き及錐桿用材料の改善により著しく増大し、數年前迄は一哩孔とて深五千呎餘を以て限度とせしが、最近は一哩孔を實現するに至れり。今日にては「メキシコ」に於ける一〇、五八五呎を最深のものとし、日本西山油坑に於ても約七、六七〇呎のものを出現せりと云ふ。

◎人工浮石の用途擴まる。 E. N. R. Sept. 17, 1931.

獨逸國にては從來天然浮石を用ひし處に人工浮石を代用するに至れり、人工浮石は天然浮石に比すれば運搬費を節約することを得、不燃力に富み、又「コンクリート」に混和使用する際十分水に浸せば「セメント」と克く結合す。而して十「センチメートル」厚の板「コンクリート」に製作せるものは容易く

切り又は任意の形に刻むことを得ると云ふ。又「リノリヤム」の下敷に適し、且中空煉化石に比すれば安價にて輕量なれば、之れにて中空塊を製造し建築物に使用せば、建築費を大に低下すべしと期待せらる。

◎米獨に於ける土堰堤。

E. N. R. July 30, 1931.

米國「ニューヨーク」洲「コンクリングヴァイル」附近「サカンダガ」河に築造せられたる土堰堤は半射水法に依りて施工せられたり。同堰堤は延長千百呎、高百呎、馬蹄巾四十呎にして、断面は五十五圖に示すが如し。心堤は上巾三十呎堅勾配十分の七の設計なりしも、出來上りは是れより稍廣く不規則の形をなせり。又防水溝(Out-off Trench)は堤全長の三分二間は深二十呎巾九十呎に掘られたり。殘部の三分の一は高さの増すに従ひ深さも巾も共に減少せられたり。併して堰堤は心堤の上流趾端は土及岩片、其の上層は洗滌せざる土砂、其上は洗滌せる土砂、又心堤下流は洗滌せる土砂、次層は岩石を積みたる層、其の前方は岩屑の捨て積みよりなれり。

堰堤所要土砂總容量は六十八萬立方碼、岩石十五萬九千立方碼なりと云ふ。(心堤に用ひたる粘土の細度及沈定度等を知らんには原誌を参照のこと)

獨逸式堰堤は米國式とは趣きを異にする點尠ならず、一般に不浸透なる防水壁を上流に設け、下流に行くに従ひ粗粒の水吐き良きものを使用す、又材料を細粗に分類し使用するの傾向顯著なり。

第五十六圖は獨國「サキソニー」の「ドレスデン」を去る六哩許の溪谷に設けたる「ニードトワルタ」堰堤の断面なり。谷底よりの高さ百三十八呎、頂巾三十二呎八、底巾一千百五十呎なり。

第五十七圖は東「プロシヤ」「フリーランド」に於て「アルレ」河に築ける最高五十八呎、延長二千六百六十呎の堰堤断面なり。

◎蘭人「ファン、ドールン」氏銅像の建立と仙石工學博士。

昭和六年十月三十日七十五歳を以て溘焉逝去せられたる工學博士仙石貢氏は蘭人「ファン、ドールン」氏 人格を景仰し、其の功績を記念せんために東京電燈會社と共同して、同氏の銅像(第五十八圖参照)を猪苗代湖畔戸の口十六橋附近に建立し、死に先づこと十六日の十月十四日を以て和蘭公使を始めとし、朝野の紳士多數を招きて盛大なる除幕式を舉行せり。是の擧の如きは仙石博士の人情に厚く、義侠心に富める半面を克く物語るものなり。

左に銅像建設者の物されたる「ファンドールン」先生略記を掲ぐ。

ファン、ドールン先生略記 Cornelis Johannes Van Doorn

「コルネリス、ヨハンネス、ファン、ドールン」先生は明治の初年政府の招聘を受けて來朝した和蘭の土木技師であります。日本に於ける先生の事業は、土木局の長工師として河川の改修、港灣の修築等に關し、土木治水の計畫を樹て、又これを實行することでありました。明治五年の來朝から同

十三年の歸國まで九年間、その間の先生は數人の技師工人を本國より招致し又器械等を取寄せ、正に文字通り南船北馬の生活で、親しく利根川、淀川、信濃川等の改修、大阪灣、松島灣等の築港の指揮監督に任じ、其足跡の及ぶ處實に東北より山陰の廣きに亘り、審かに本邦重要河川港灣の治水計畫に關する設計建白を提出されたのであります。當時我が國は維新の大業成つて日尙淺く、百度未だ備らざる時代で、殊に治水の術の如きは當路の人と雖もその方法の一端をも知らず、徒らに舊慣を墨守してゐるに過ぎないといふ有様でありました。この時に當つて、先生が身を以て範を天下に示した前記の諸工事、並に折に觸れて政府に提出された諸種の調査書、指導書は、實に長夜の夢を破つたもので、本邦治水事業はこれによりその迷蒙時代より一躍新文明の光を浴びるに至つたのであります。即ち先生は本邦治水事業の父といふも過言でなく、その歸國に際し、政府が先生のために勳四等旭日小綬章の授與を奏請したのは、この功績を認めたのに他ならないのであります。

今回その湖畔に先生の銅像が建設されるに至つた猪苗代湖は、明治九年先生が當時の内務卿大久保利通の命を受け、その水を安積地方一帯の原野に引く設計を立てたことにより、先生と因縁誠に淺からざる處であります。現在の安積疏水は則ちこの先生のこの設計に基いて開鑿されたもので、政府は此處に東北を始め數縣の失職士族を移し、墾田耕作の事に當らしむることにより、政治上の暗雲を一掃し得たと云はれてをります。

先生は深く日本を愛し、その關係した事業に於ては常に國家百年の計を樹て、永きに亘つて我が國の爲に計ることを忘れませんでした。この安積疏水の設計踏査に當つても、猪苗代湖より流出する日橋川の水量が殆ど一定せるを見て、將來必ずその用ふることあるべきを思ひ、永くその水位觀測を行ふべきことを命じて置かれました。我國電氣事業界に長距離高壓送電の劃期的大事業となつた猪苗代水力電氣は、實に先生のこの命による水位觀測の記録があつた爲めで、これが今日東京電燈株式會社によつて繼承され、數百萬の人口に電燈電力を供給しつゝある猪苗代大電源となつてゐるのであります。

先生は一八三七年(天保八年)和蘭「ハル」に生れ、一九〇六年(明治三十九年)同國「アムステルダム」に歿するまで、その七十年の生涯を事業を友として終始されました。先生は遂に結婚しなかつたので、先生の遺風を後代に傳ふるものは、雲烟萬里を距てたる東洋、この日本國の山間に建てられた一基の銅像のみとなつてしまふかも知れません。明治初年百政改革の秋に當り、政府の招聘を受けて來朝し、政治、法律、教育等夫々改新の任に當つた外國人は數多く、夫々開化の恩人としてその名を世に謳はれてゐるのであります。唯我が「ファン、ドールン」先生のみは、その事績が餘りに素朴なる土木事業であつた爲め、殆どその名を知る者もないと云つてよい位であります。しかしながら光輝餘りに眩きものは物を育む力に乏しい。「ファン、ドールン」先生の事業の如きものこ

そ、その恩澤百世に及ぶものとして、却て永く記念されなければならぬのであります。我等有志相計つて今回その銅像を建立するに至つたのも、即ちこの點に於ける微意を表したい爲めに他ならないのであります。

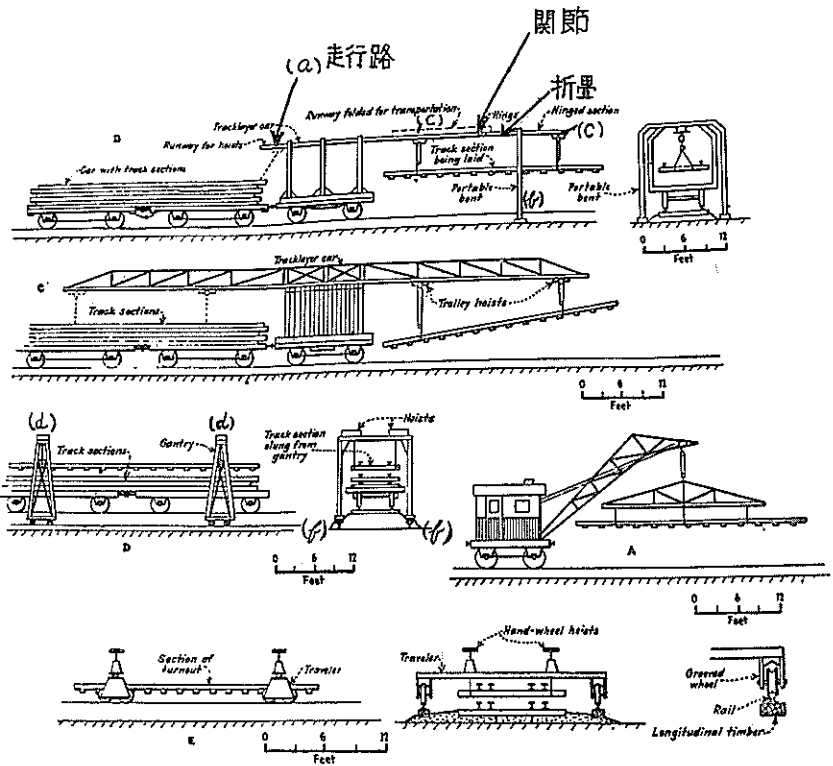
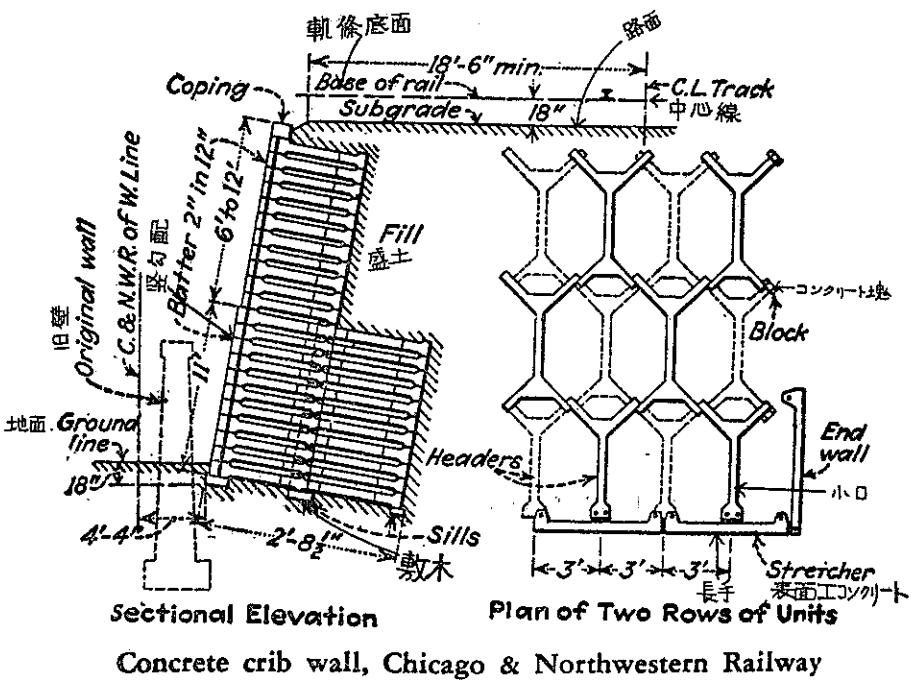
◎「ニューヨーク」市「ナツソウ、アロード、ストリート」地ノ鐵道工事。 Engineering Aug. 28, 1931.

工事漫録第二十三輯(前號)に載せたる表題地下鐵道工事の根柢工事に關する詳細なる圖面を得たるに依り追補として第五十九、六十、六十一圖に収録す。

おもむるに炭圓焔を上げそめぬ
枝買うてついで歩きぬ紅葉狩
島本白魚
森田綠波

第一圖 「シカゴ」北西鐵道の「コンクリート」枠組式土留壁

第二圖 軌條敷設機

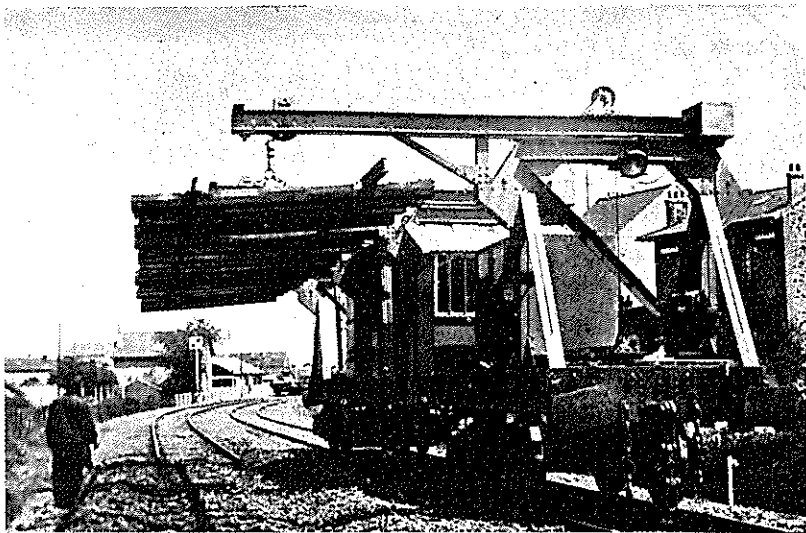


第三圖



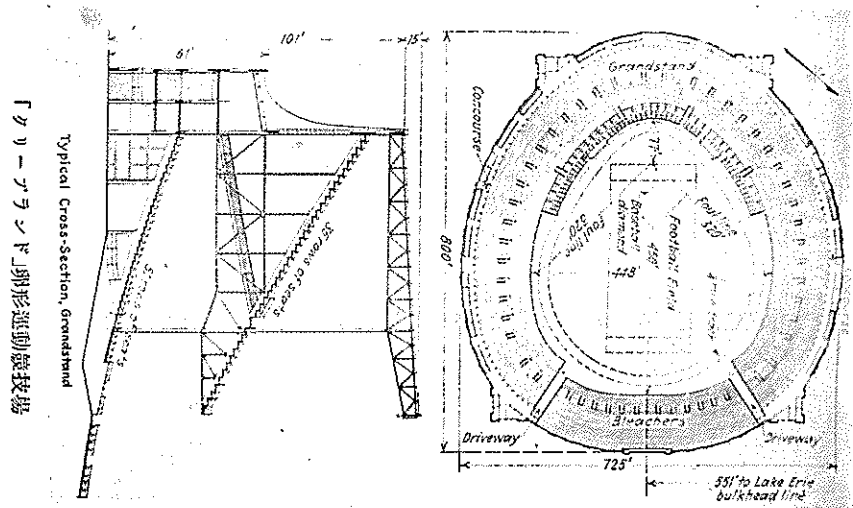
佛國にて用ゆる「コレットーロアソウ」式軌條敷設機

第四圖



佛國にて用ゆる軌條敷設機

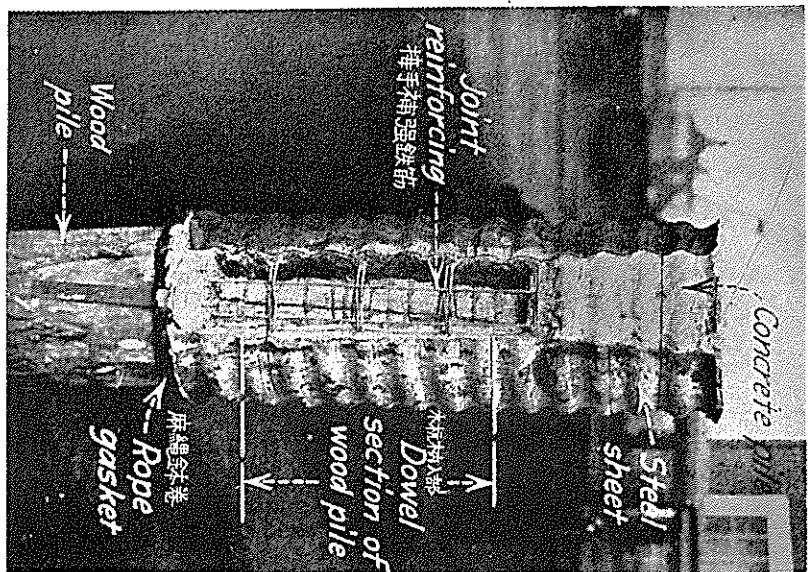
第五圖



「クリヤーランド」形形運動競技場

第六圖

Concrete Pile (コンクリート杭)

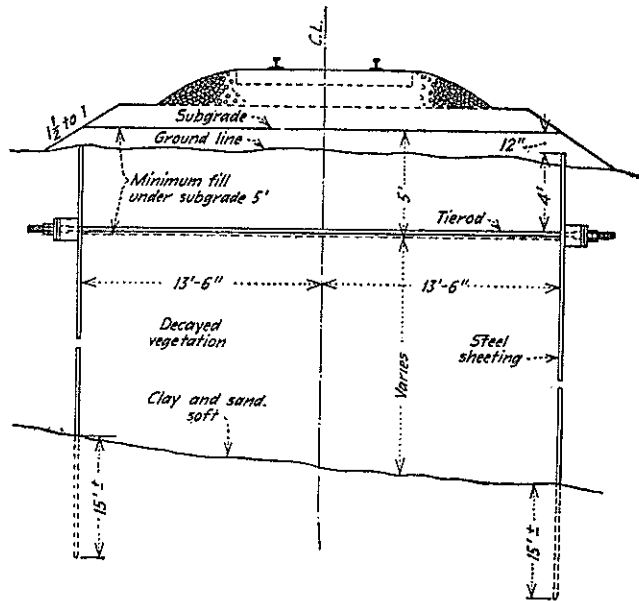


Steel Sheet (鋼板)

「クリヤーランド」運動競技場使用、木と「コンクリート」合成杭

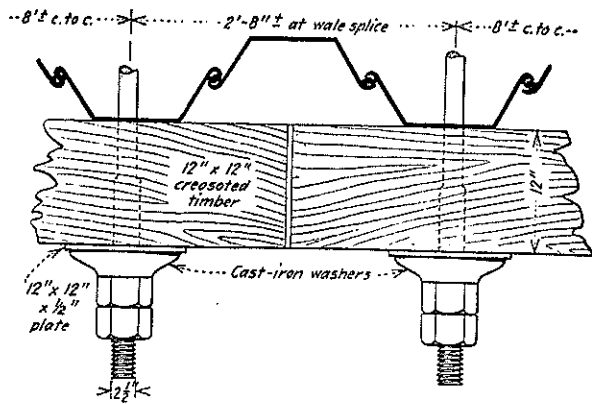
Wood Pile (木杭)

第九圖



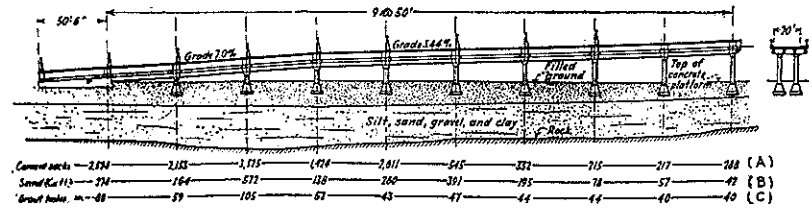
土留鐵板工

第十圖



土留鐵板工明細圖

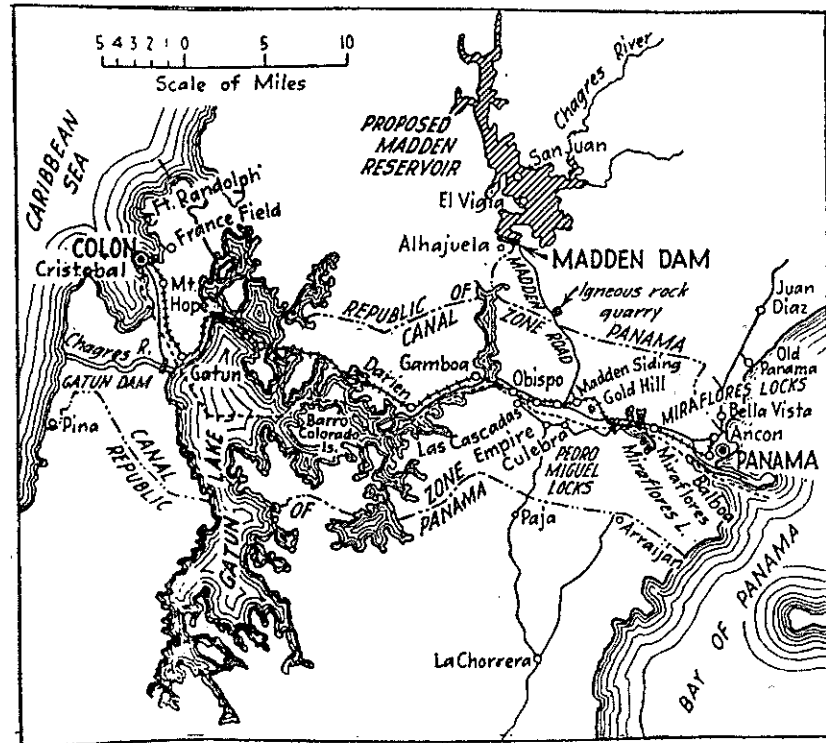
第七圖



Sketch of C.&O. Railroad ramp at Charleston, W. Va., showing number of grout holes and amount of sand and cement placed under each two-pier bent

高架傾斜道 (A) セメント袋數 (B) 砂量立方呎 (C) グラウト注入孔數

第八圖



「パナマ」運河附近地圖

第十三圖

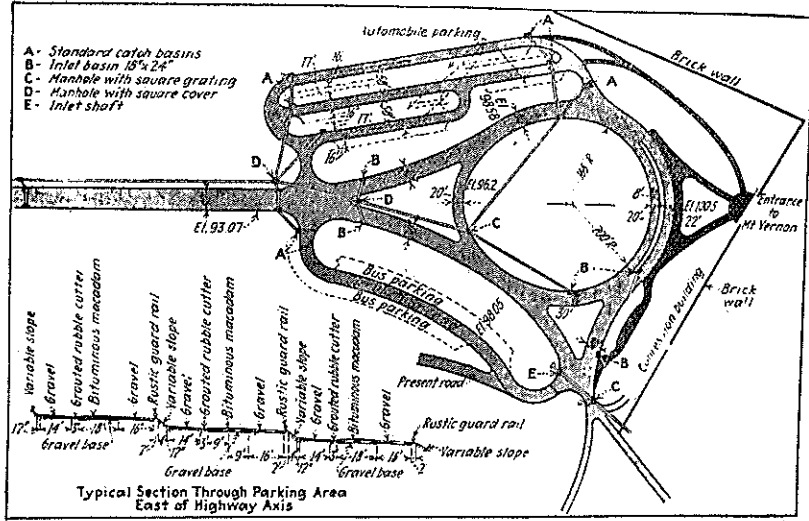


Fig. 7—Plan of terminal at Mount Vernon

「マウントヴァノン」に於ける「ワシントン」記念公道の終端施設平面圖

第十四圖

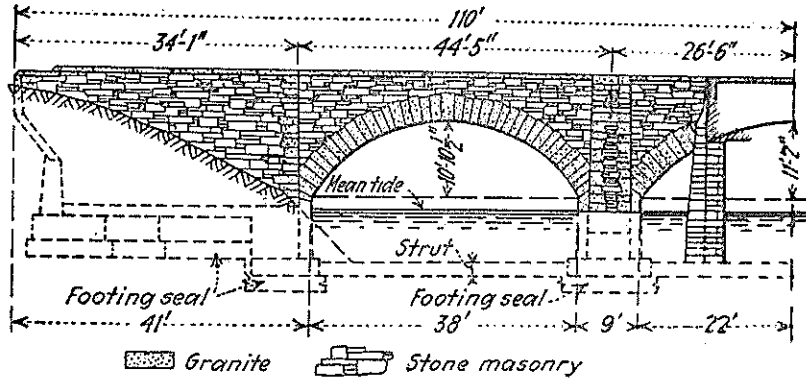
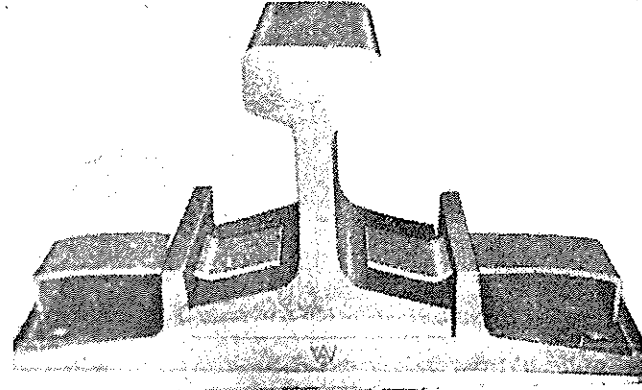


Fig. 8—Elevation of bridge at Hunting Creek

「ワシントン」記念公道中の「ハンチングクリーク」橋

第十一圖



軌條締着弾抑金

第十二圖

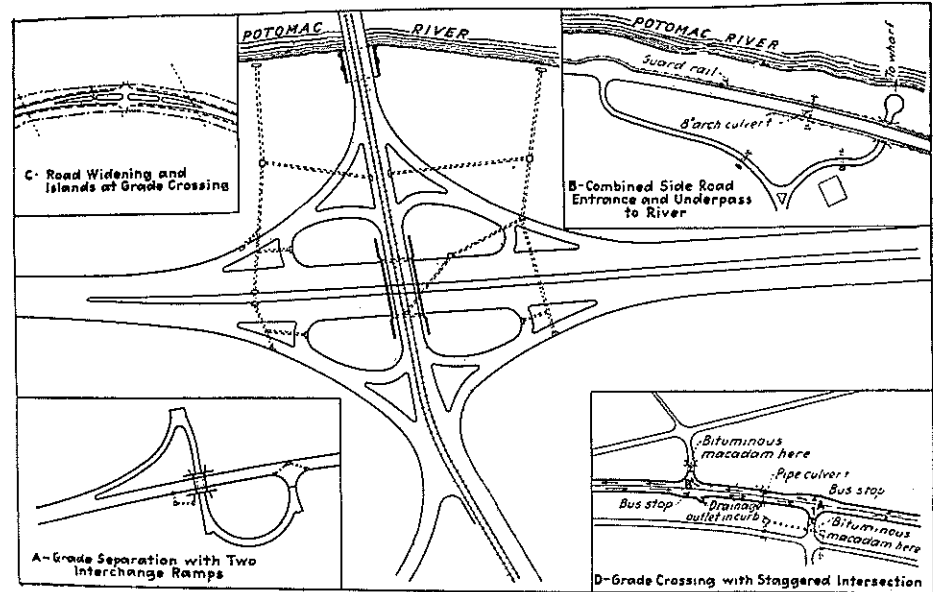


Fig. 6—Types of grade separations and crossings

平面交叉を避けたる交叉路

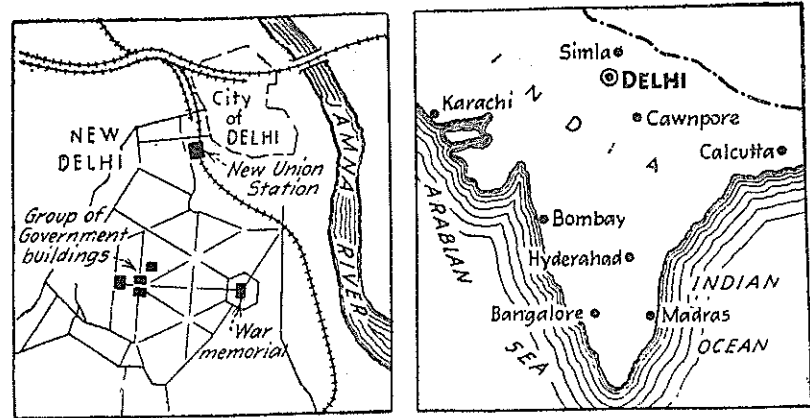


Fig. 2—New capital city of India built on a plain adjacent to ancient Delhi and some 850 miles from the former capital at Calcutta

印度首都「ニュー・デルヒ」の位置

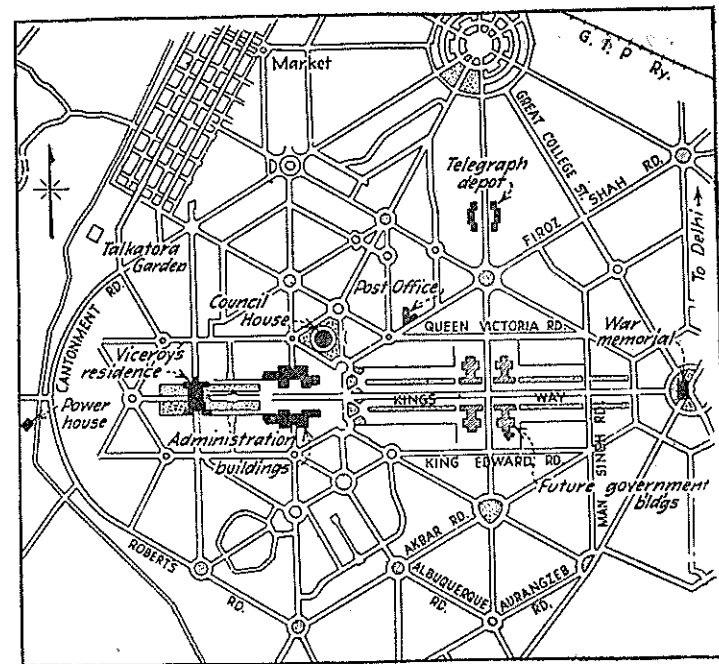


Fig. 3—City plan of New Delhi

印度首都「ニュー・デルヒ」都市計畫圖

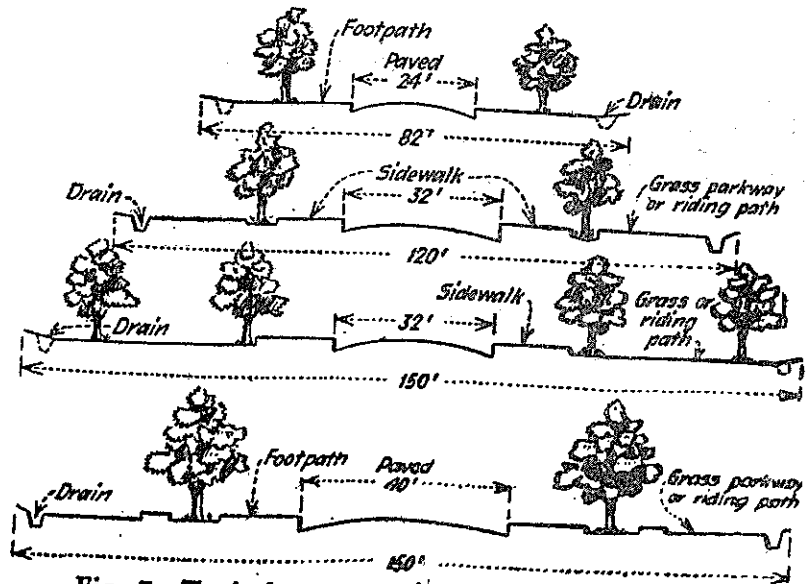
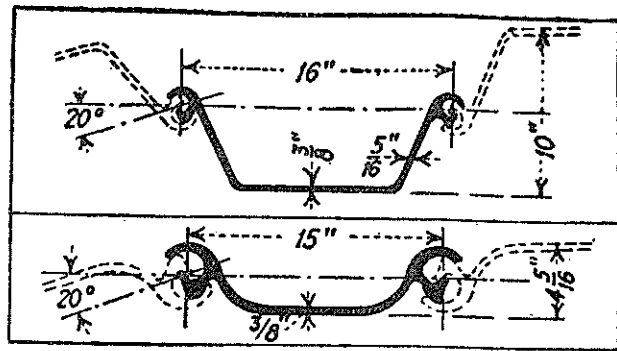


Fig. 7—Typical streets and avenues in New Delhi

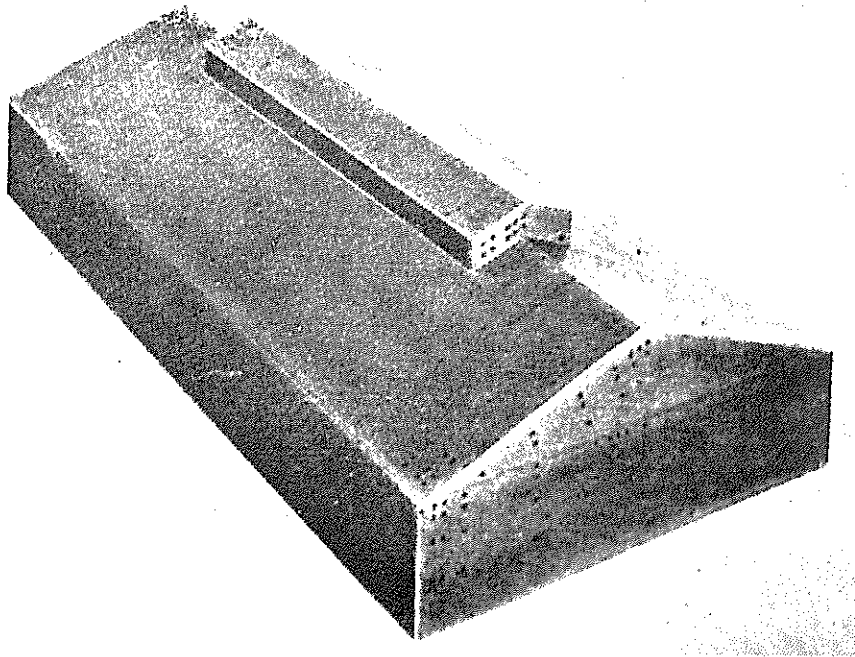
印度「ニュー・デルヒ」標準街路断面圖



Sheetpiling sections

新型鋼矢板

第二十一圖



家屋 錐形

第十九圖

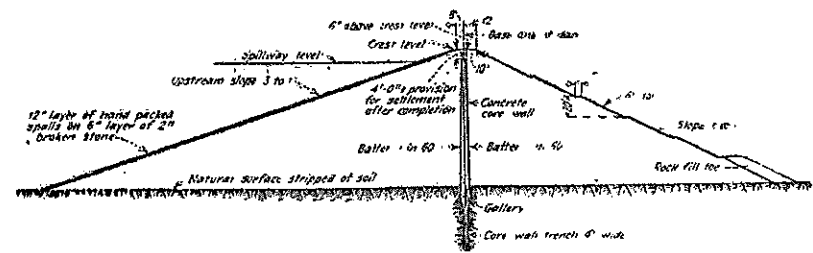


Fig. 1—Typical cross-section of Silvan Dam in Australia

濠州「シルヴァン」堰堤断面

第二十圖

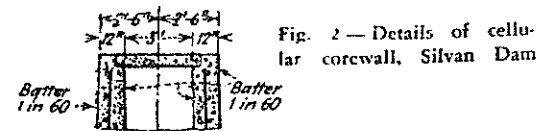
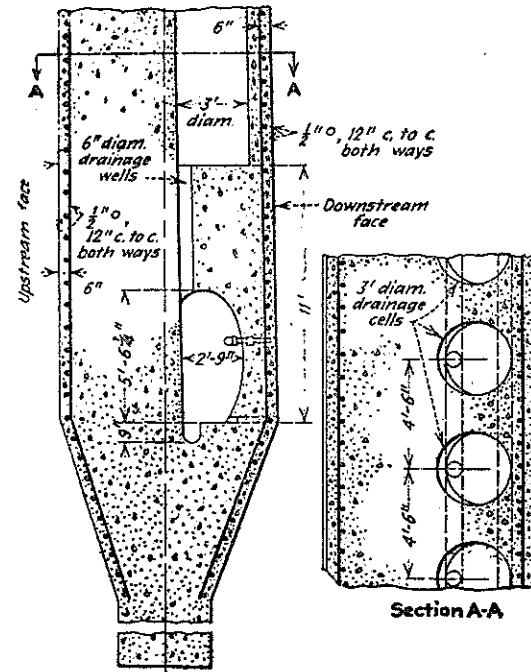


Fig. 2—Details of cellular corewall, Silvan Dam



濠州「シルヴァン」堰堤細胞管型心堤の明細圖

第二十二圖の二

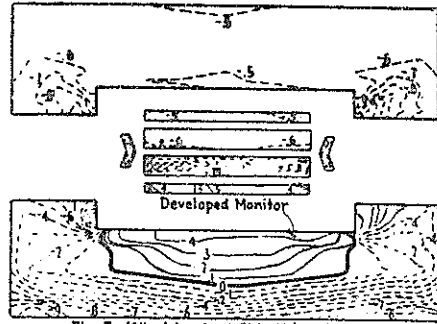


Fig. 5 - Wind Against Side, With Monitor

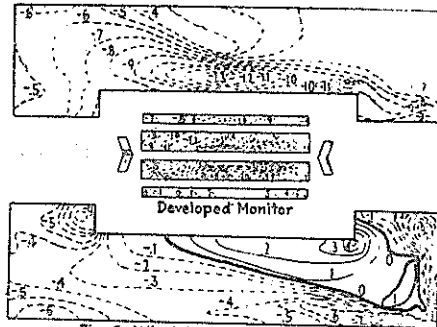


Fig. 6 - Wind Against Corner, With Monitor

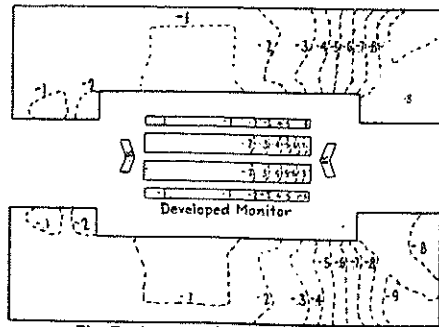


Fig. 7 - Wind Against End, With Monitor

Fig. 2-7—Pressures measured in the tests were converted into contours of equal pressure on the several faces of the building. The numbers appearing on the contours represent fractions of theoretical velocity pressure ($0.00256V^2$, where V is in miles per hour and pressures are in lb per sq ft.) The ratios computed from the three wind velocities agreed closely. End and side elevations of building are omitted in Figs 5, 6 and 7 since no readings were recorded on these faces.

第二十二圖の一

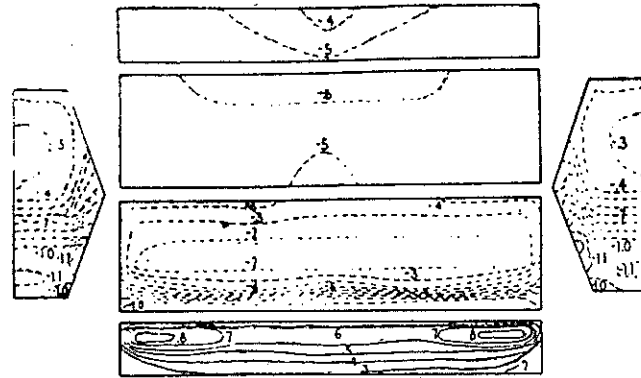


Fig. 2 - Wind Against Side, No Monitor

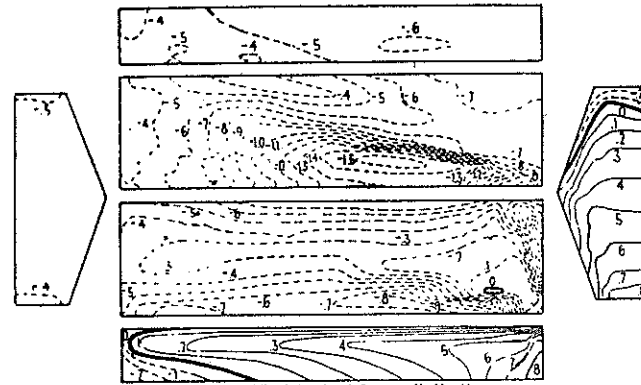


Fig. 3 - Wind Against Corner, No Monitor

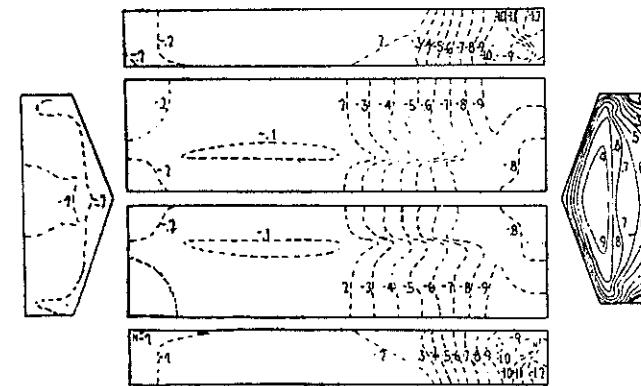
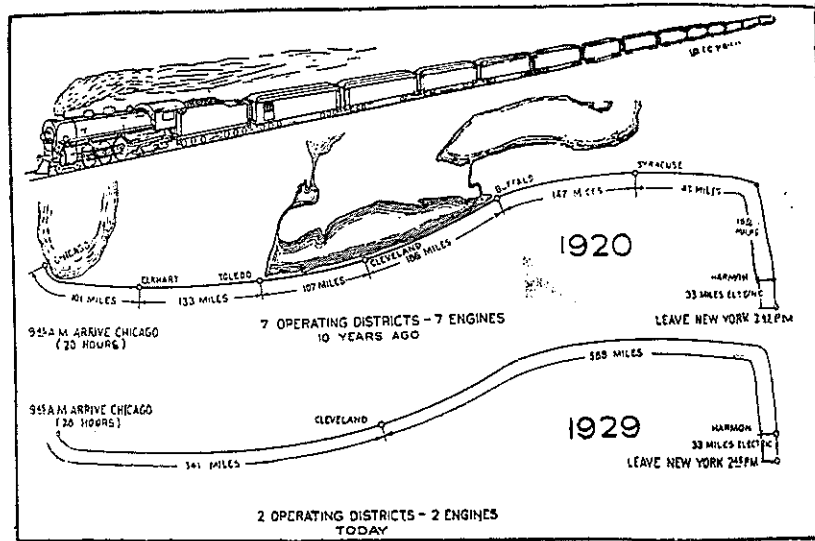


Fig. 4 - Wind Against End, No Monitor

第二十五圖



Increase in Length of American Locomotive Runs, between 1920 and 1929.

第二十六圖

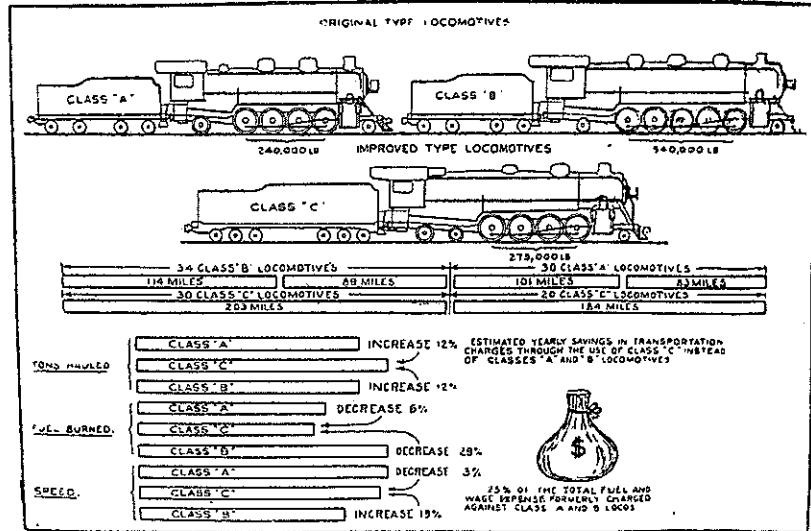
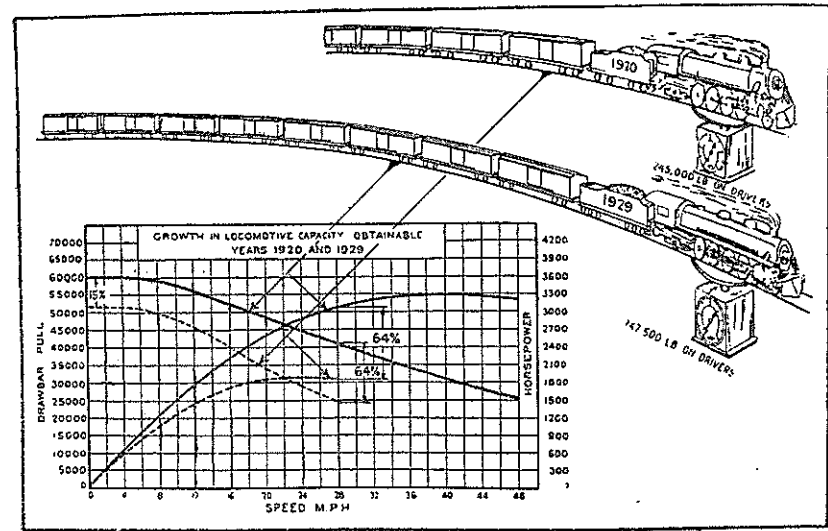


Chart illustrating Economy of 50 Class 'C' Locomotives replacing 64 of Class 'A' Locomotives

(イ) 牽引噸數 (ロ) 燃料消費料 (ハ) 速度

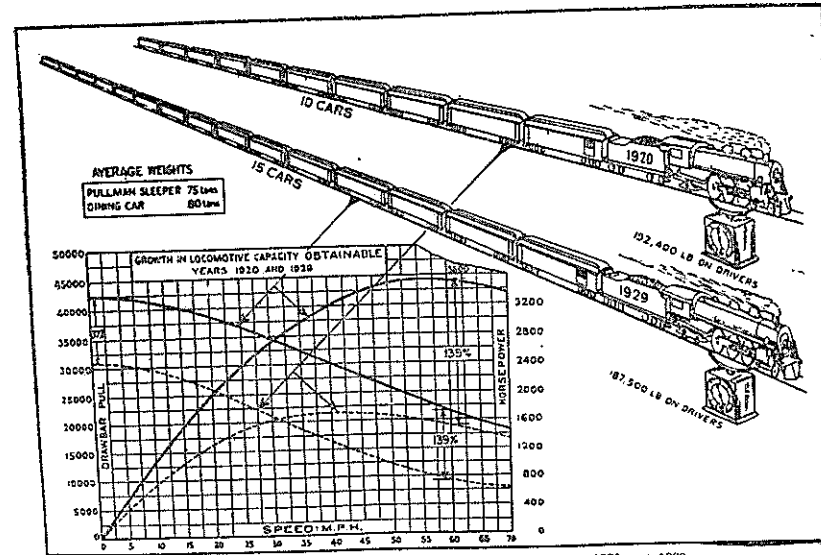
第二十三圖



Growth in American Freight Locomotive Capacity, Years 1920 and 1929

貨物

第二十四圖



Growth in American Passenger Locomotive Capacity, Years 1920 and 1929

旅客車

第二十八圖

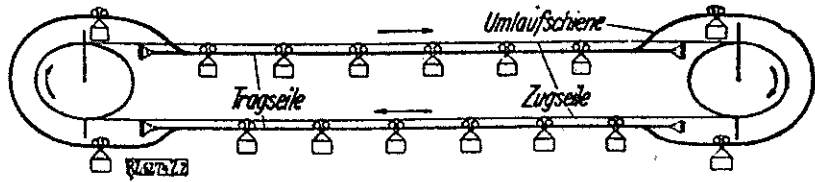
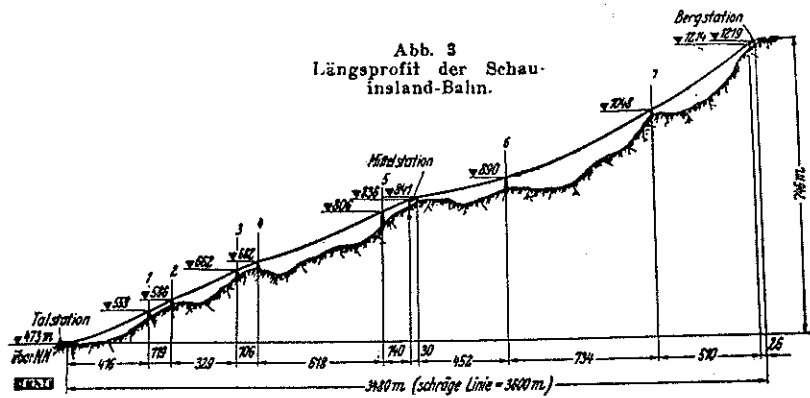


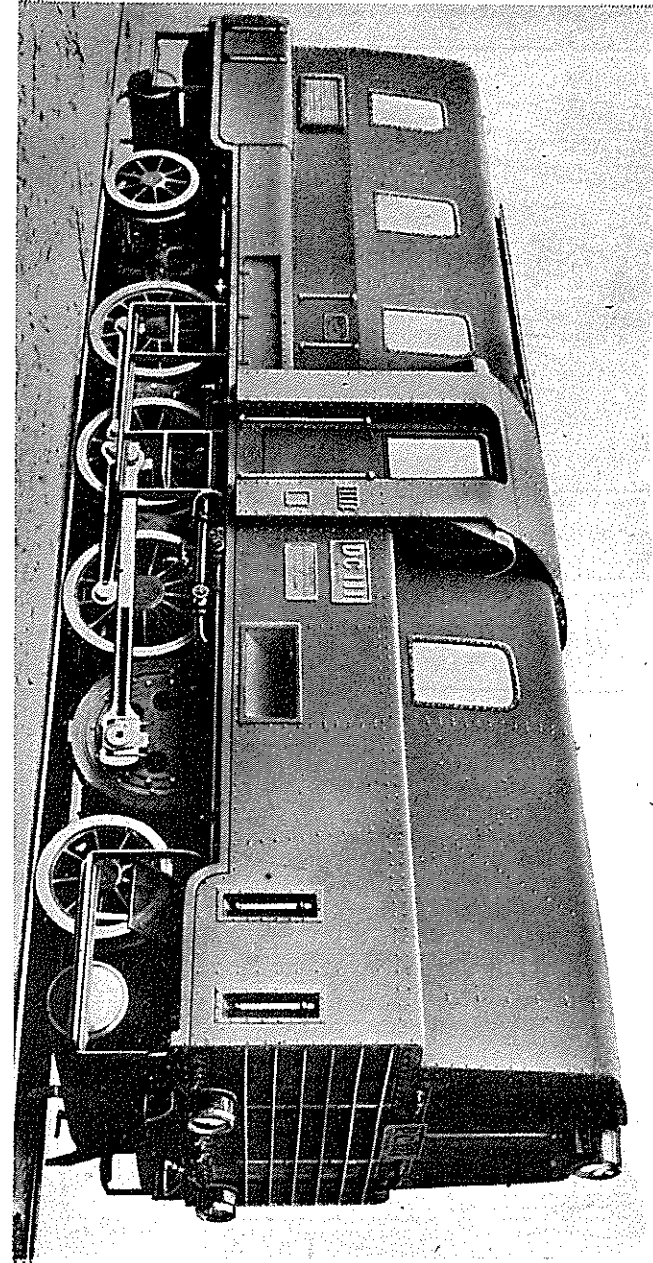
Abb. 2 Schema einer Umlaufbahn.

循環式懸吊索條道

第二十九圖



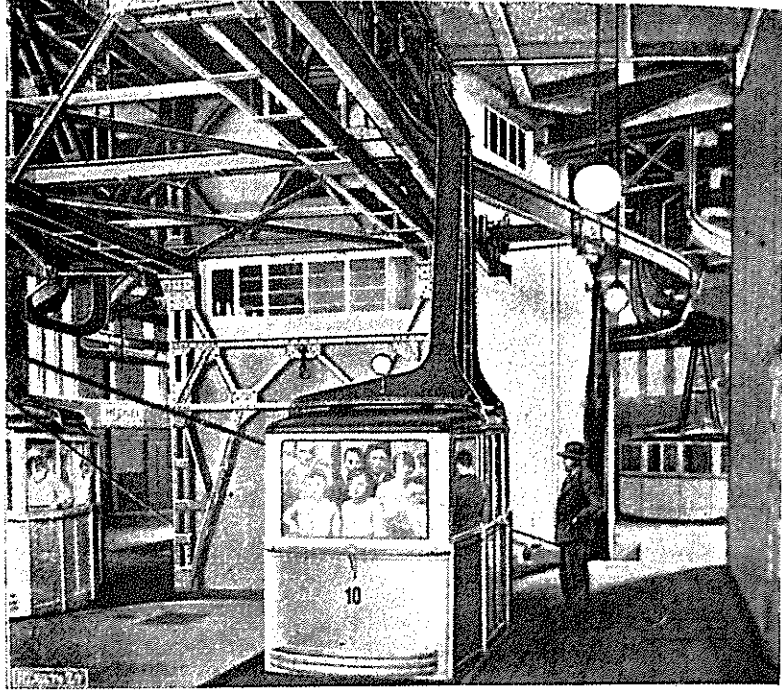
懸吊索條道縱断面圖



日本國有鐵道用「ターゼル」電氣機關車

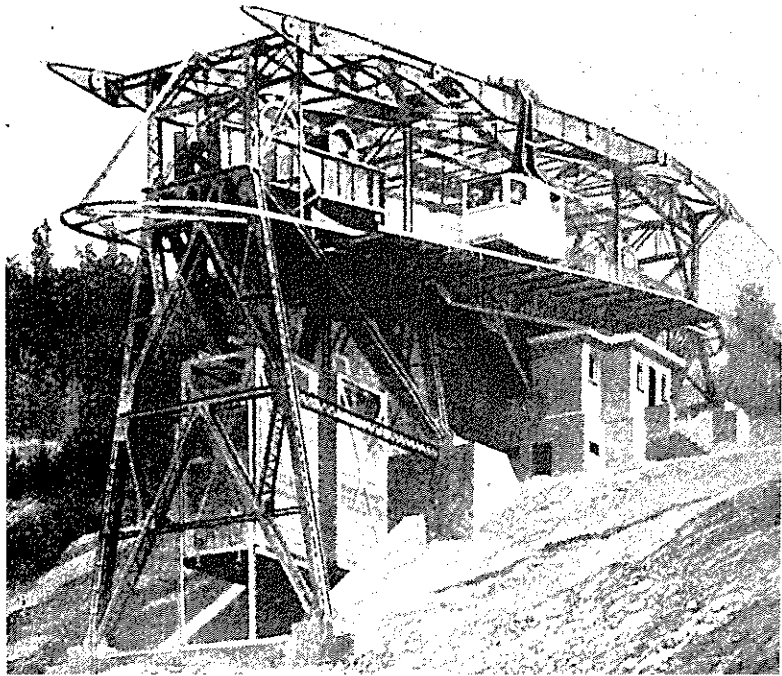
第二十七圖

第三十一圖

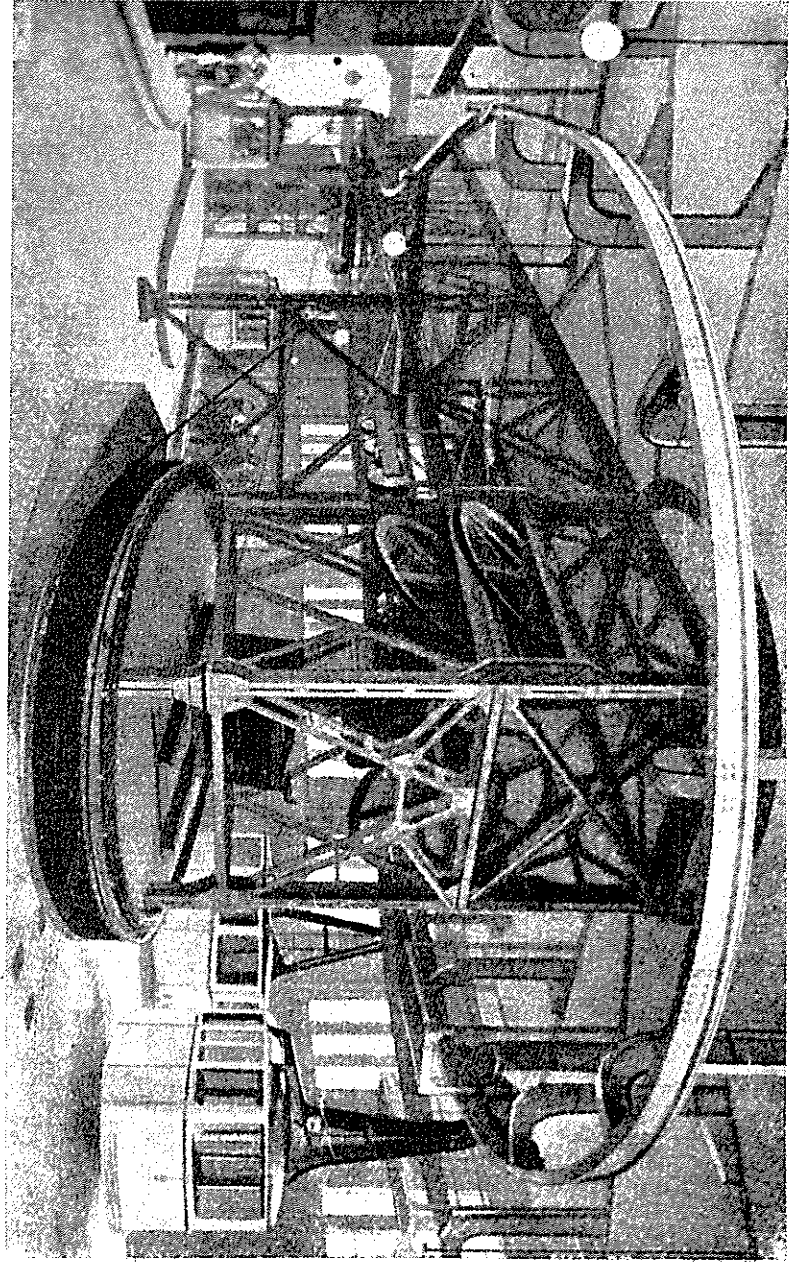


山頂停車場

第三十二圖

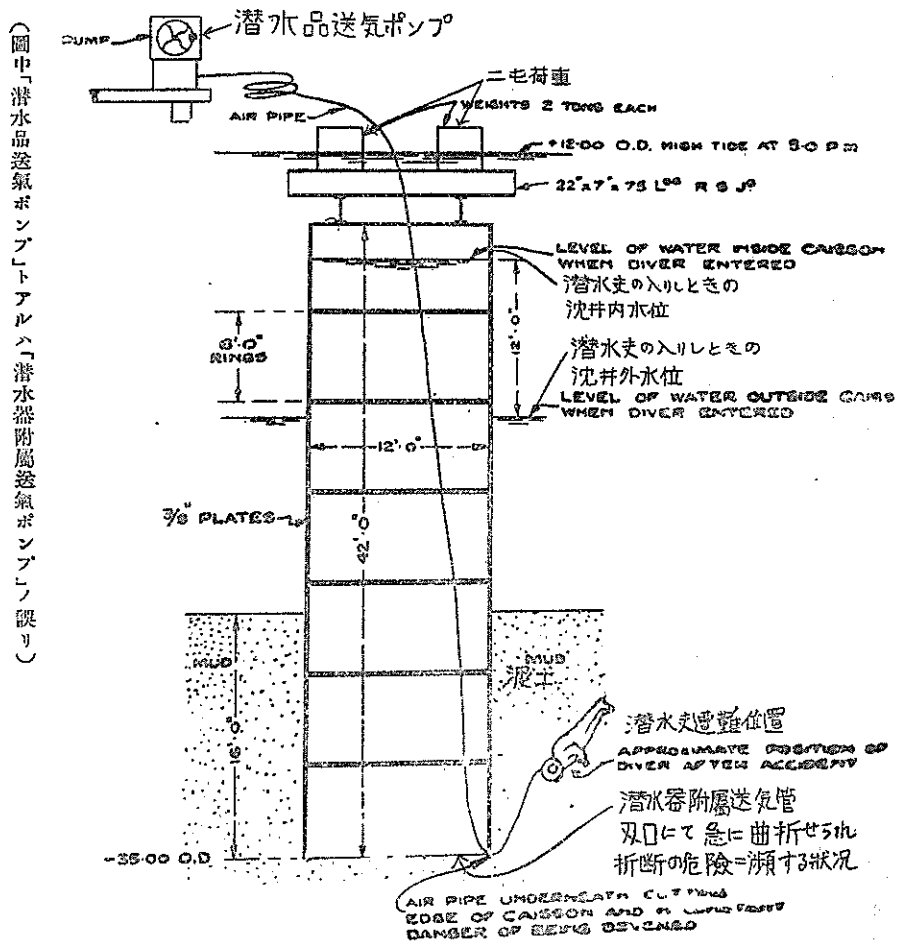


麓停車場



第三十圖

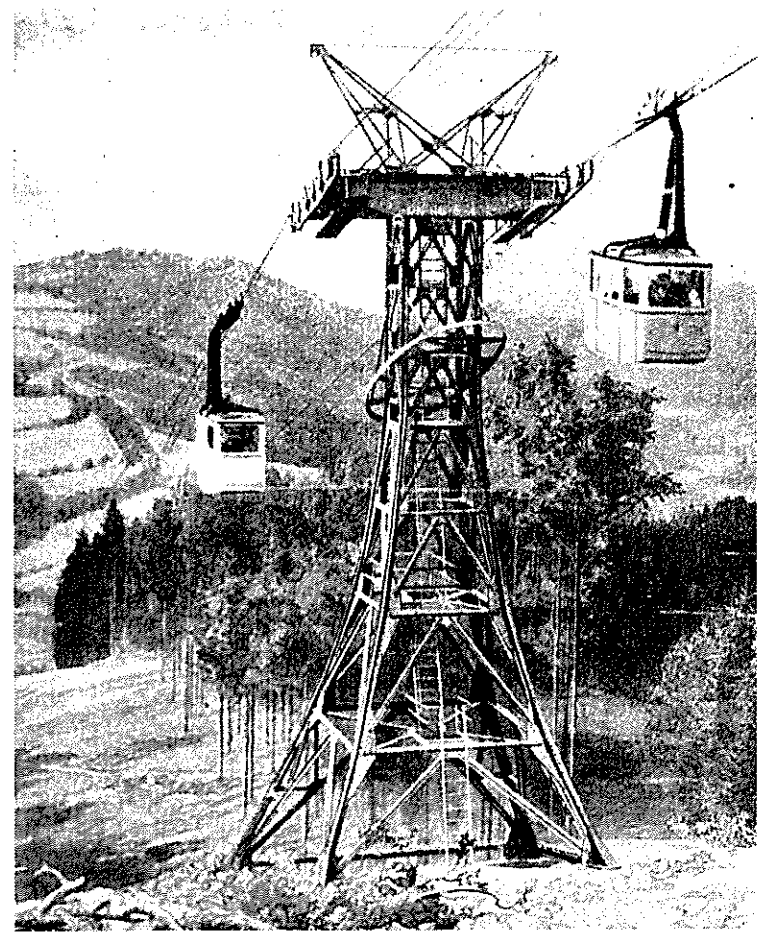
第三十五圖



沈井事故

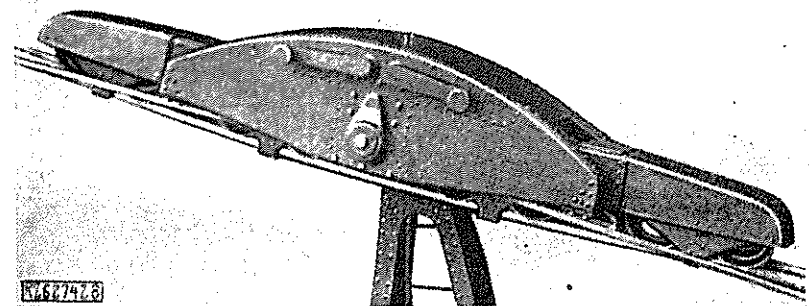
(圖中「潜水品送気ポンプ」トアルハ「潜水器附属送気ポンプ」ノ誤リ)

第三十三圖



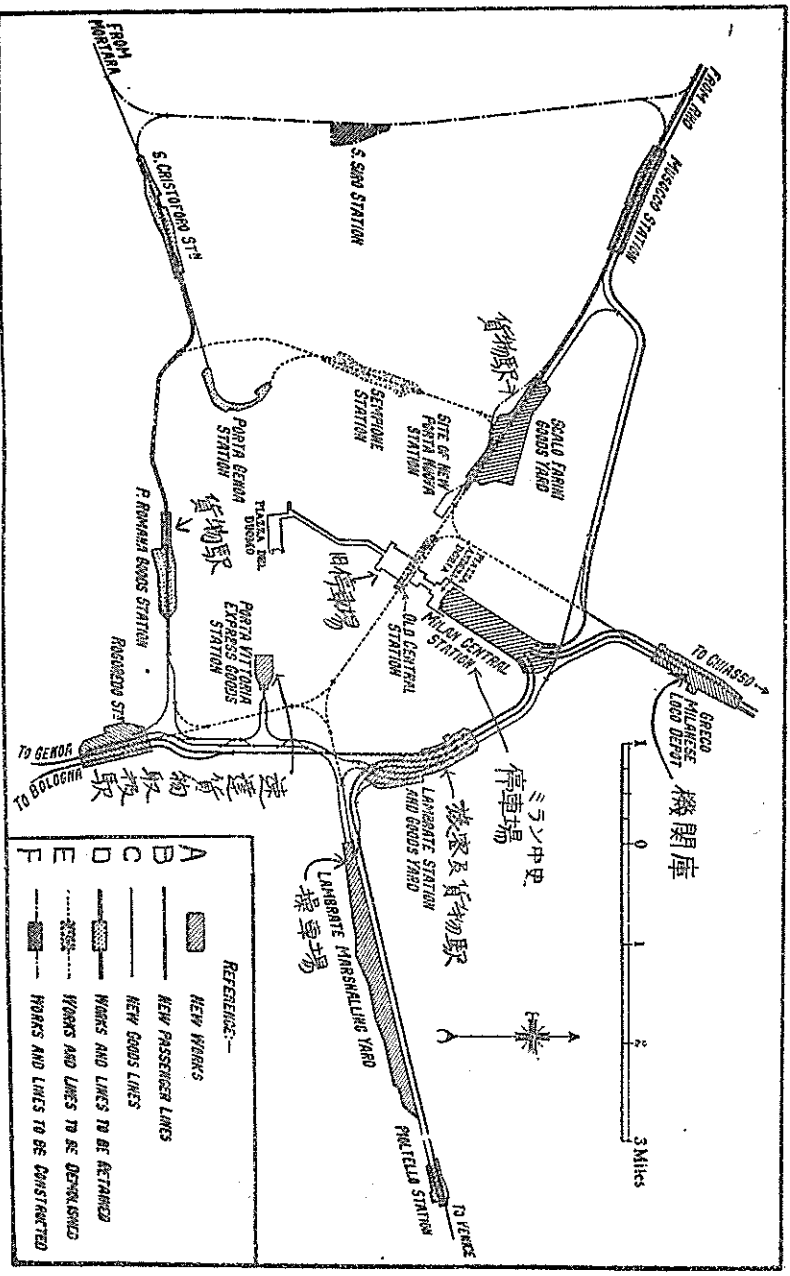
鐵塔

第三十四圖



八輪付走行装置

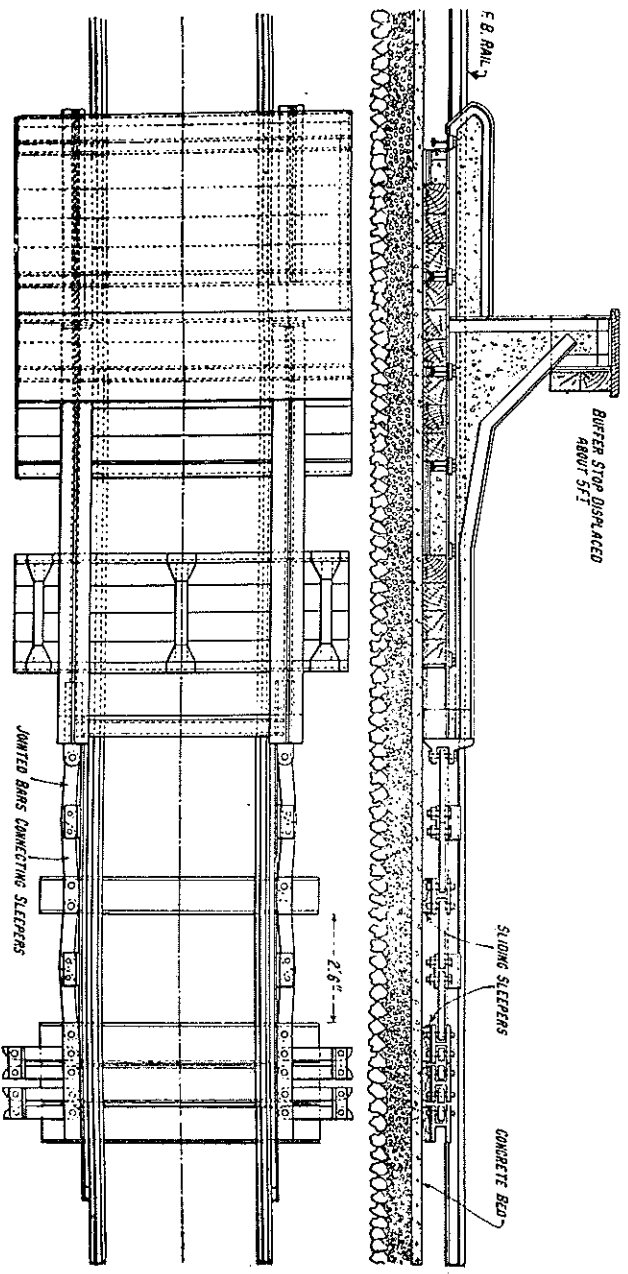
174747



伊國「ミラノ」附近平面圖と新舊停車場位置と線路變更圖

(A)新施設物、(B)新設旅客用線路、(C)新設貨物用線路、(D)存置すべき施設物及線路、(E)廢止すべき施設物及線路、(F)新設すべき施設物及線路

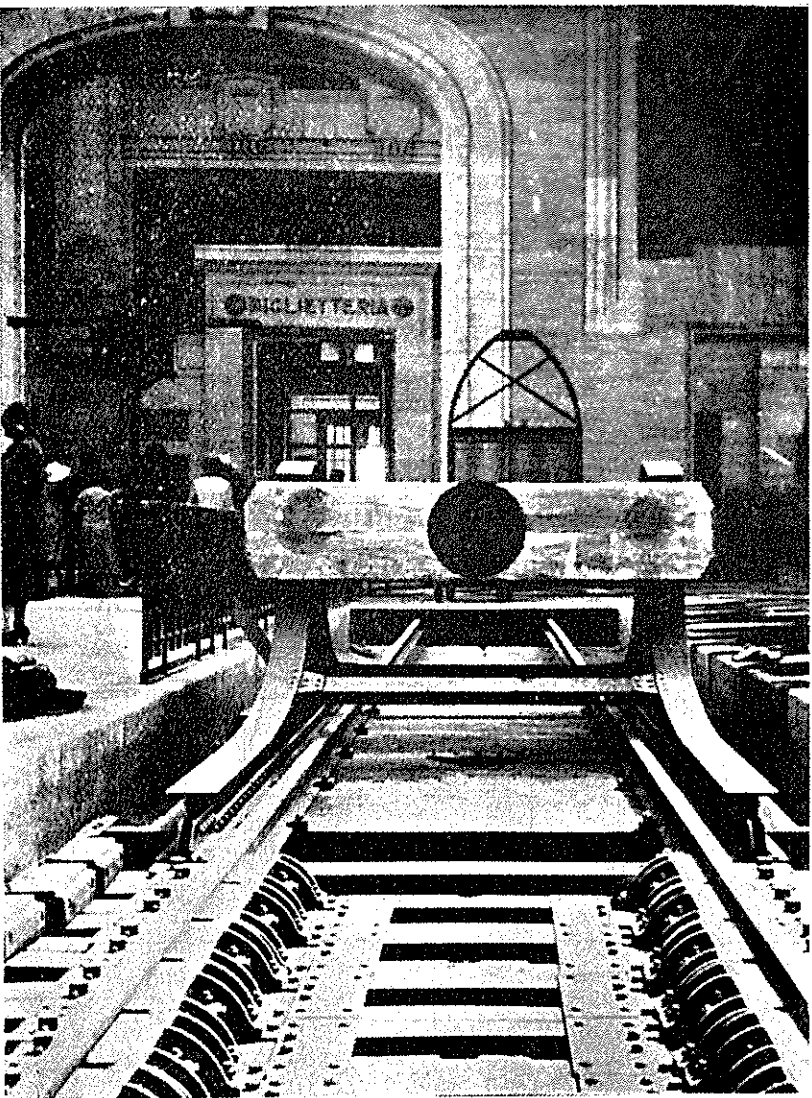
第三十七圖



Details of Rawie Patent Buffer Stop Installation, new Milan Central Station.

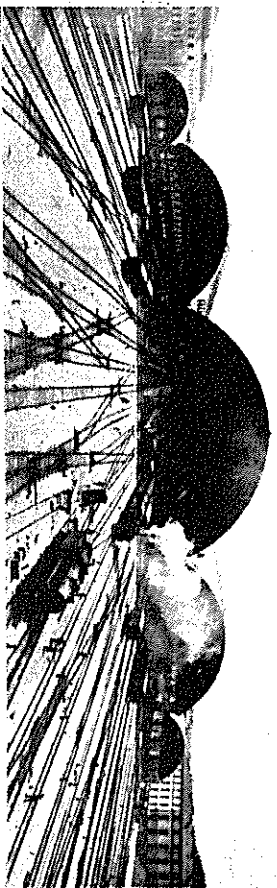
Rawie 式 特 許 車 止

第三十八圖



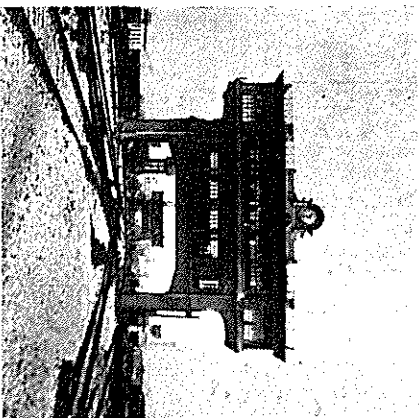
Rawie 式 車 止

第三十九圖



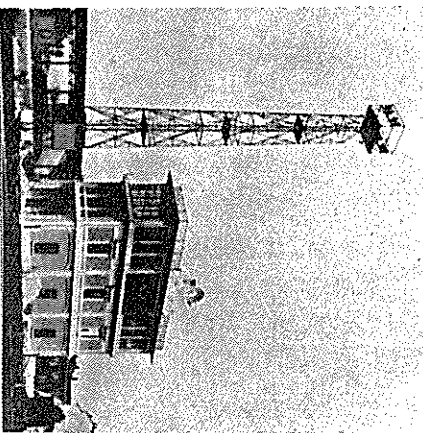
「ミラノ」中央停車場入口の景

第四十圖



「ミラノ」停車場A線信號所

第四十一圖



「ミラノ」停車場C線信號所及照明塔

第四十二圖

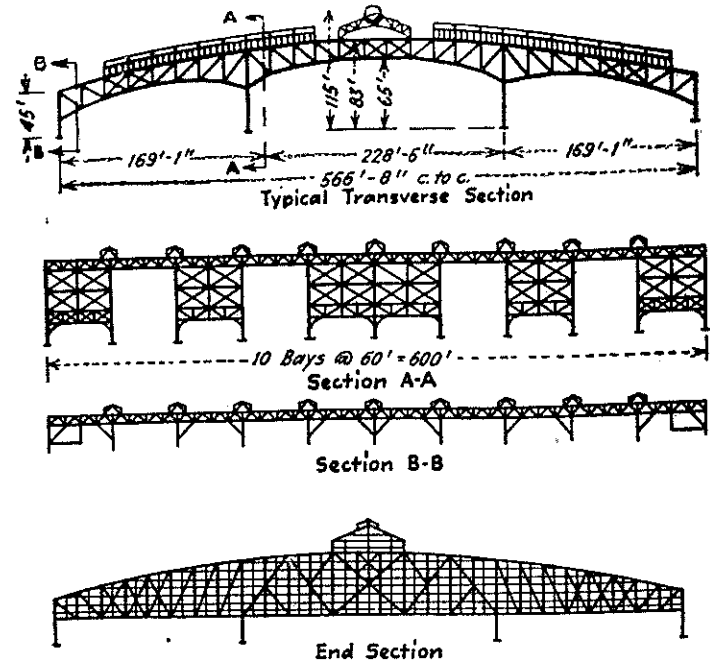


Fig. 3—Steel framework of South Station trainshed

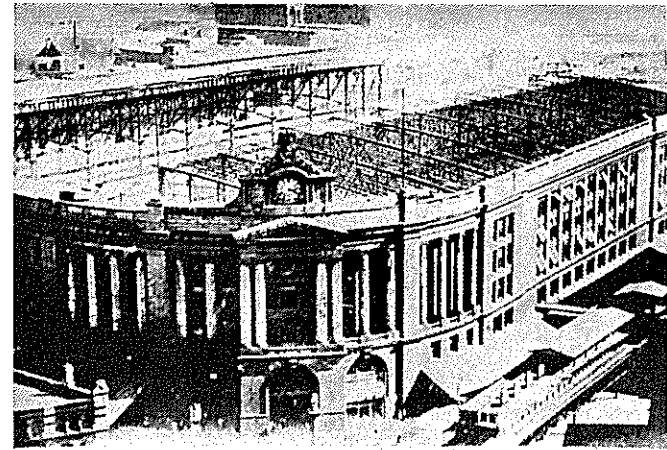


Fig. 4—Center section of old trainshed has been removed

「ホストン」南停車場列車大屋撤回工事中の景

第四十三圖

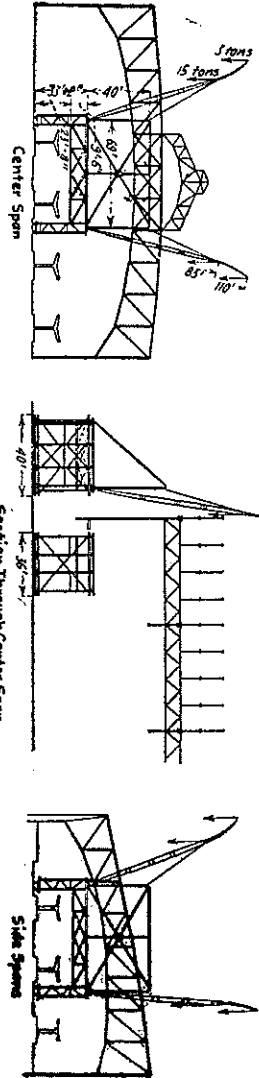
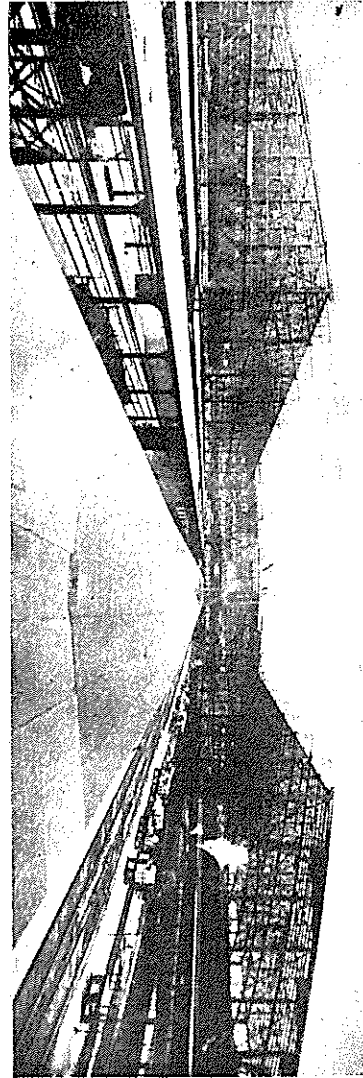
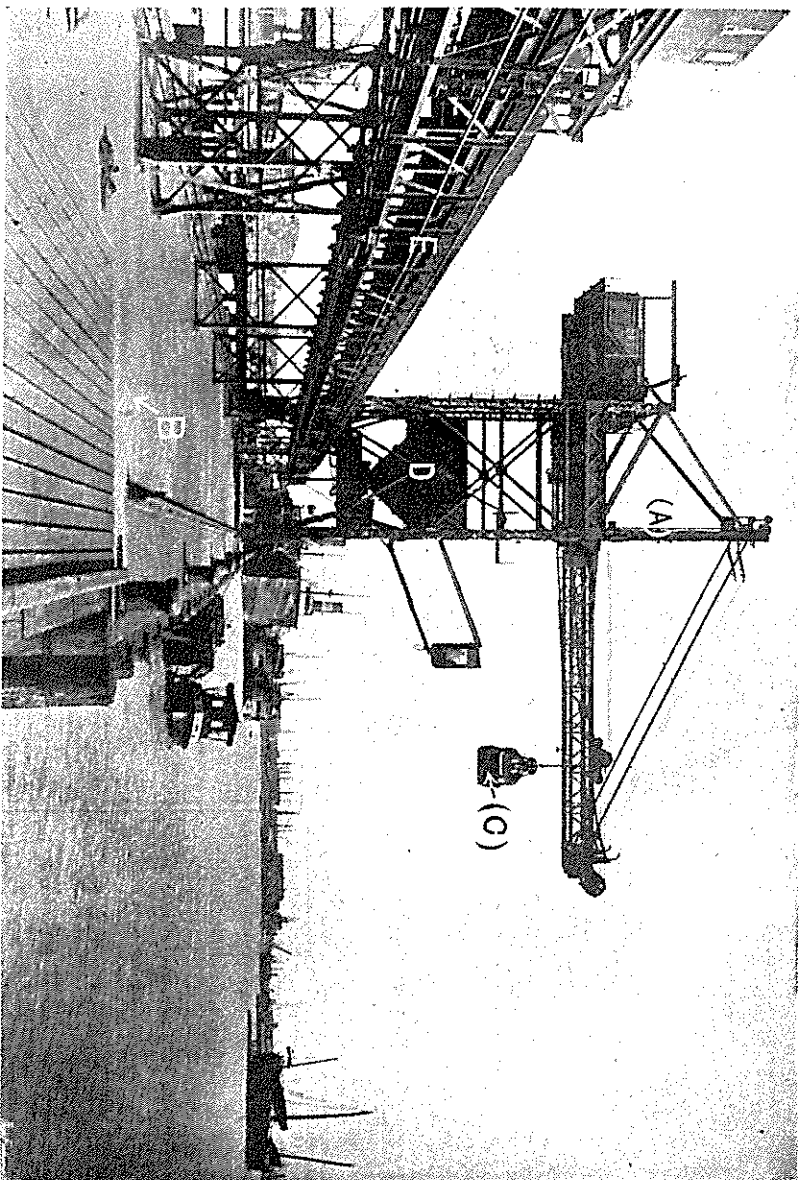


Fig. 2—Traveling platforms providing clearance for train movements were used in demolition of South Station trainshed

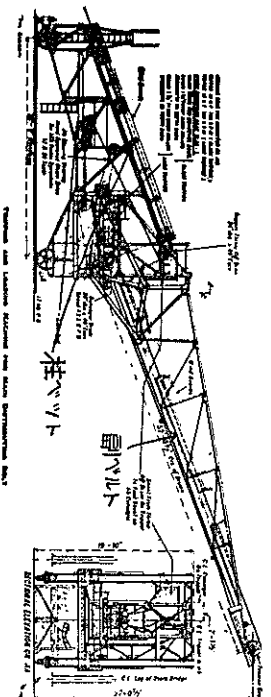
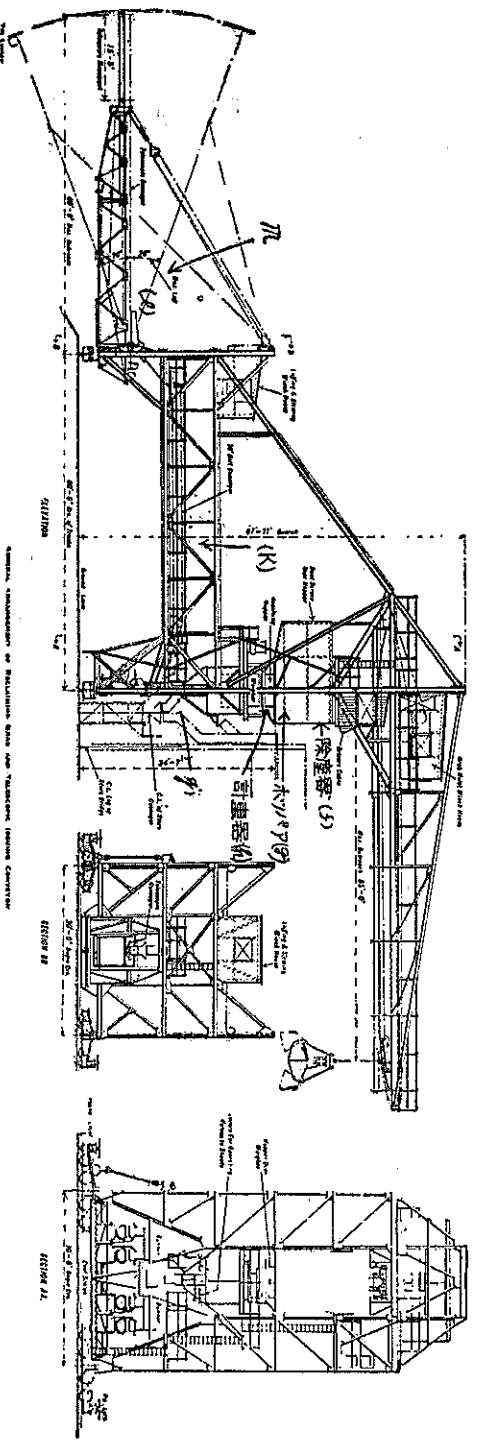
「ホストン」南停車場大屋撤取り除き工事（左右下部双線の丁形七個は新築形上家）

第四十六圖

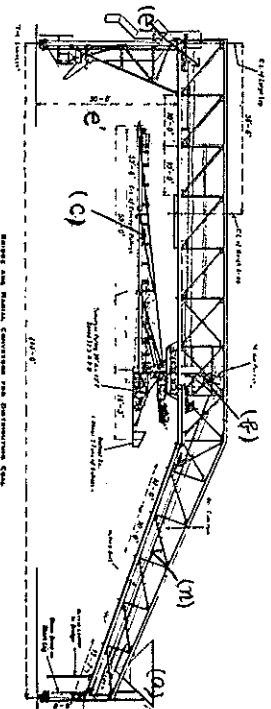


石炭隆揚起重機 (A) 及棧橋 (B) 上「ベルトコンベヤー」 (E)
(C)

第四十八圖
石炭再積み機 (K)

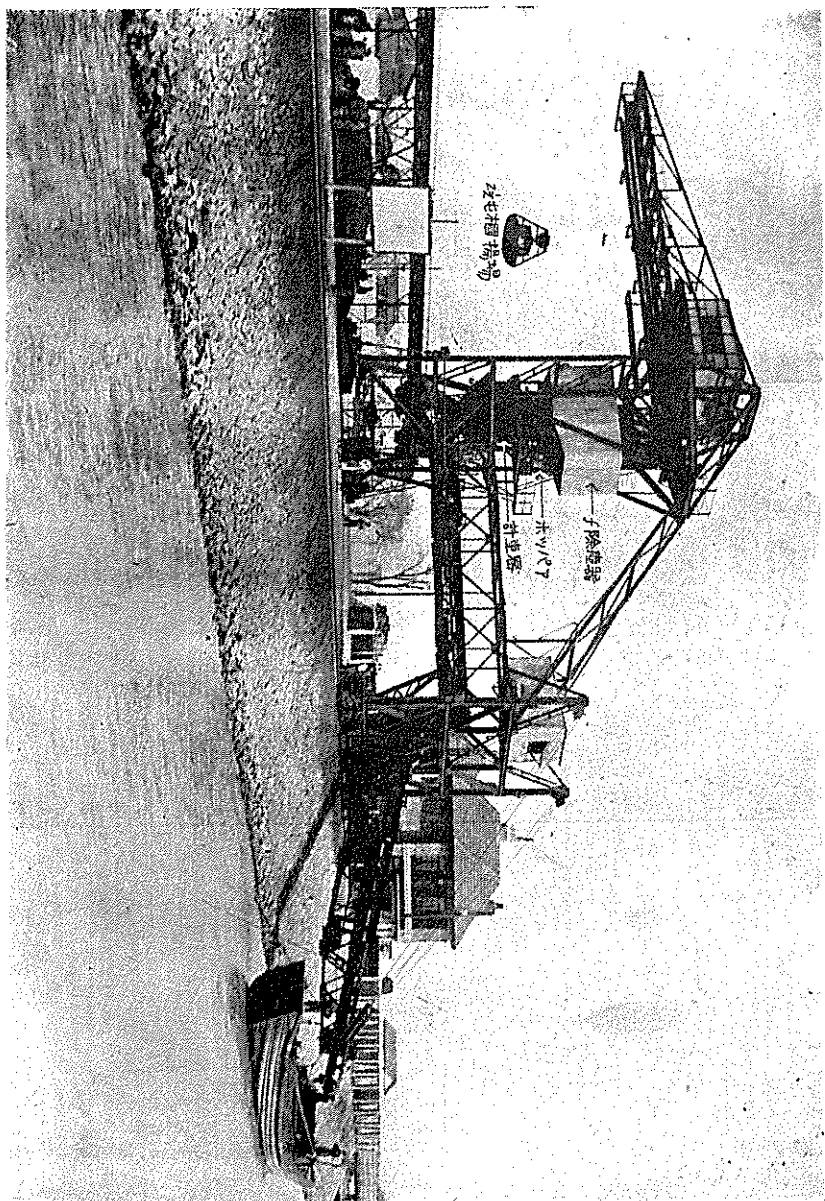


第四十九圖
トリスツボツ (D)



第四十七圖
分配貯炭機 (D)

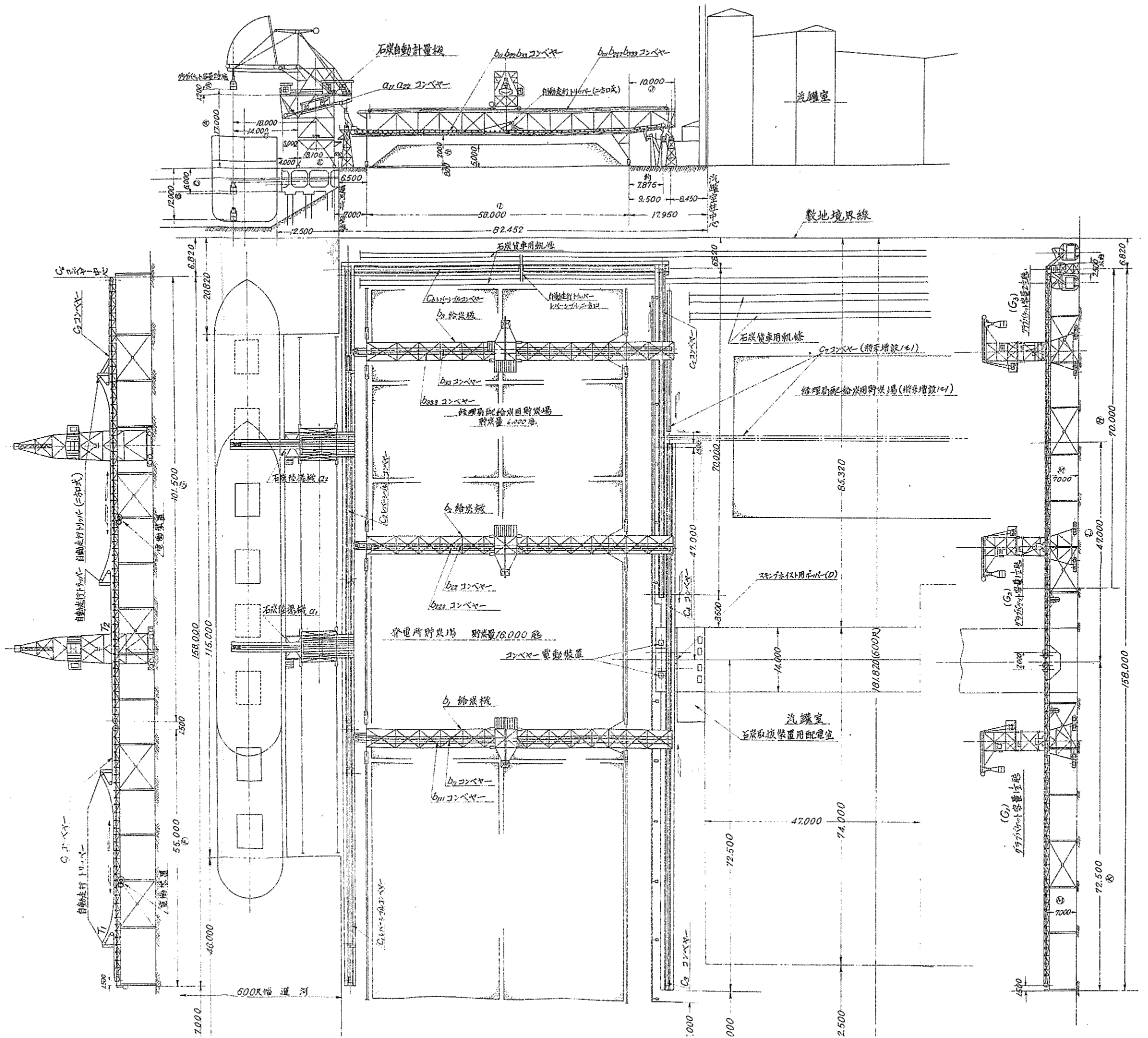
第五十圖



(圖中「掘揚トアルハ」掘揚「器」ノ誤リ)

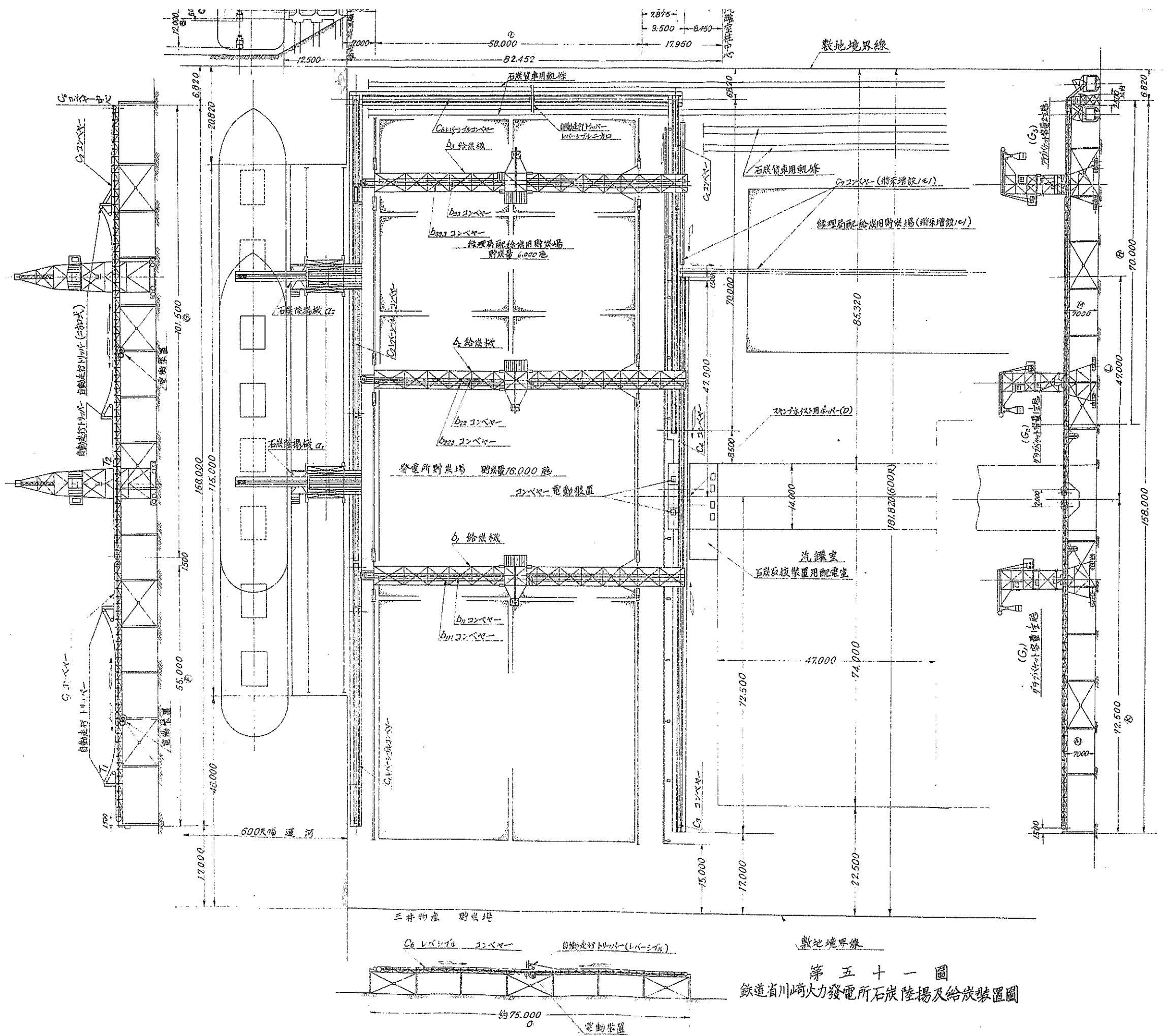
名称	容量	量	总
a ₁ 石炭陸揚機	陸揚量	100	
a ₂ ,	陸揚量	100	
b ₁ 給炭機	給炭量	60	
b ₂ ,	給炭量	60	
b ₃ ,	給炭量	60	
a ₁₁ ベルトコンベヤ	運炭量	120	
a ₂₂ ,	運炭量	120	
C ₁ ,		120	
C ₂ ,		240	
b ₁₁ ,		120	
b ₁₂ ,		120	
b ₃₃ ,		240	
b ₁₁₁ ,		60	
b ₂₂₂ ,		60	
b ₃₃₃ ,		60	
C ₃ ,		120	
C ₄ ,		60	
C ₅ ,		120	
C ₆ ,		240	

○印、經理局専用

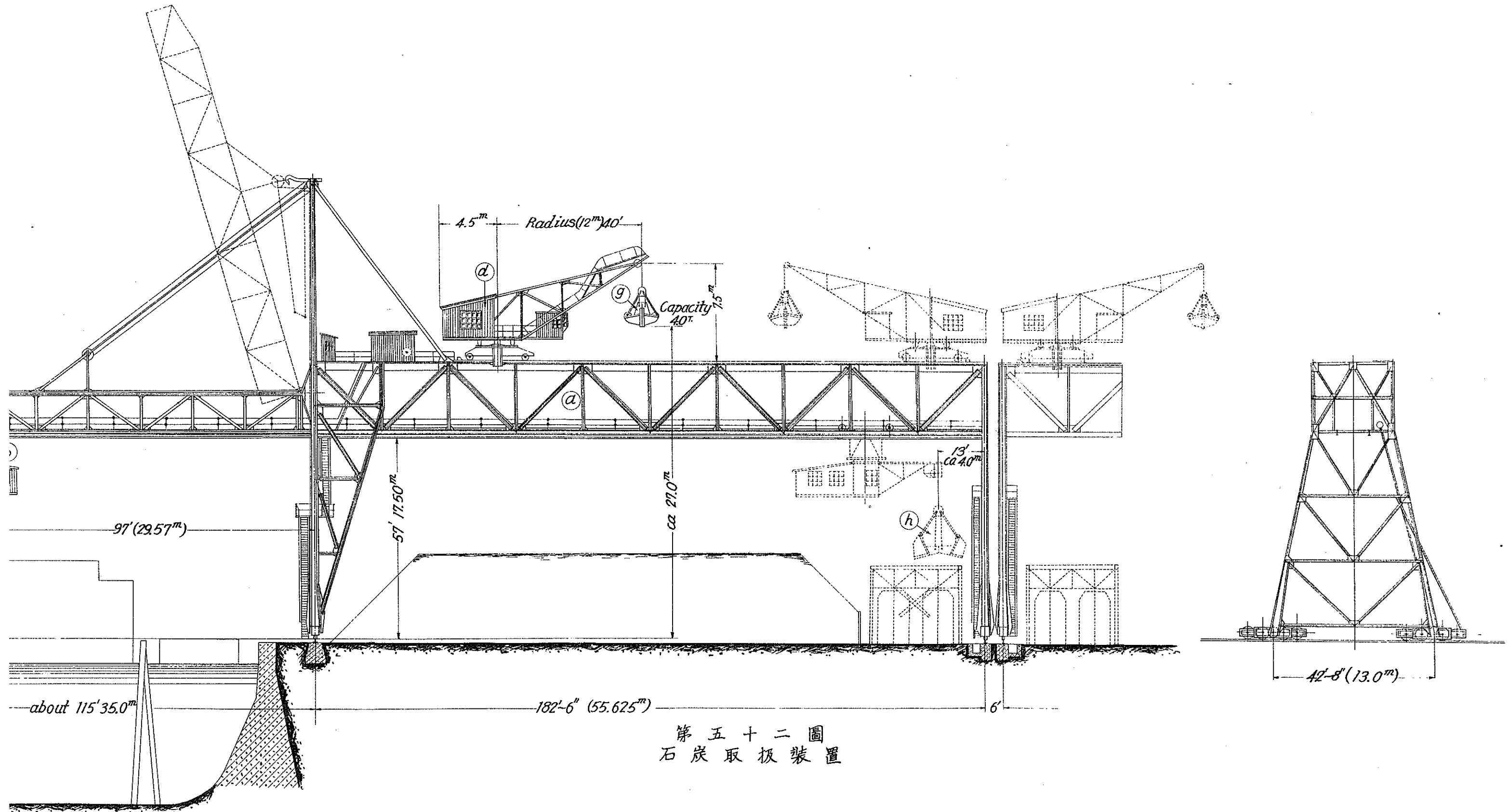


名称	容量	量	噸
a ₁	石炭陸揚機	陸揚量	100
a ₂	"	"	100
b ₁	給炭機	給炭量	60
b ₂	"	"	60
b ₃	"	"	60
a ₁₁	ベルトコンベヤ	運炭量	120
a ₂₂	"	"	120
c ₁	"	"	120
c ₂	"	"	240
b ₁₁	"	"	120
b ₁₂	"	"	120
b ₃₃	"	"	240
b ₁₁₁	"	"	60
b ₂₂₂	"	"	60
b ₃₃₃	"	"	60
c ₃	"	"	120
c ₄	"	"	60
c ₅	"	"	120
c ₆	"	"	240

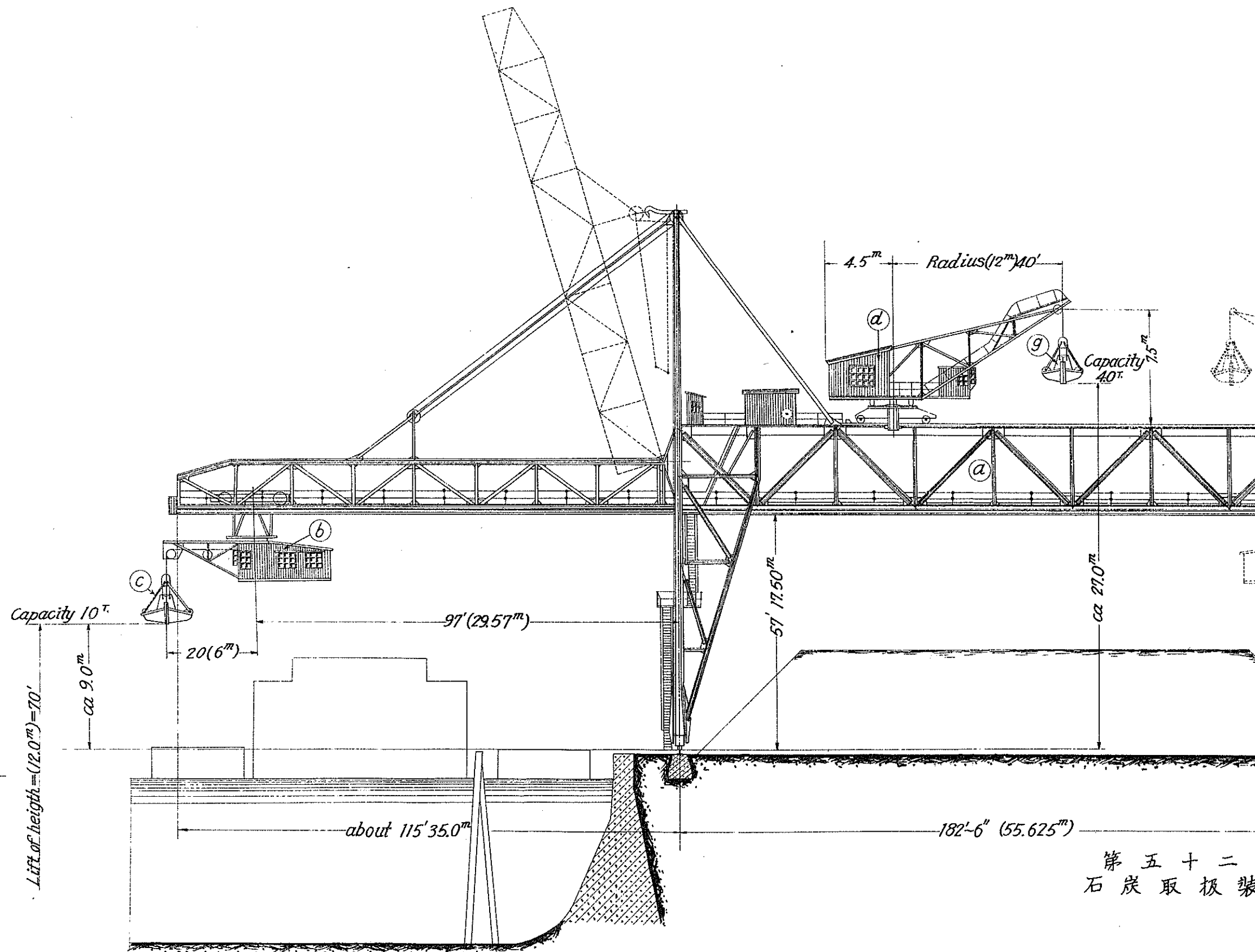
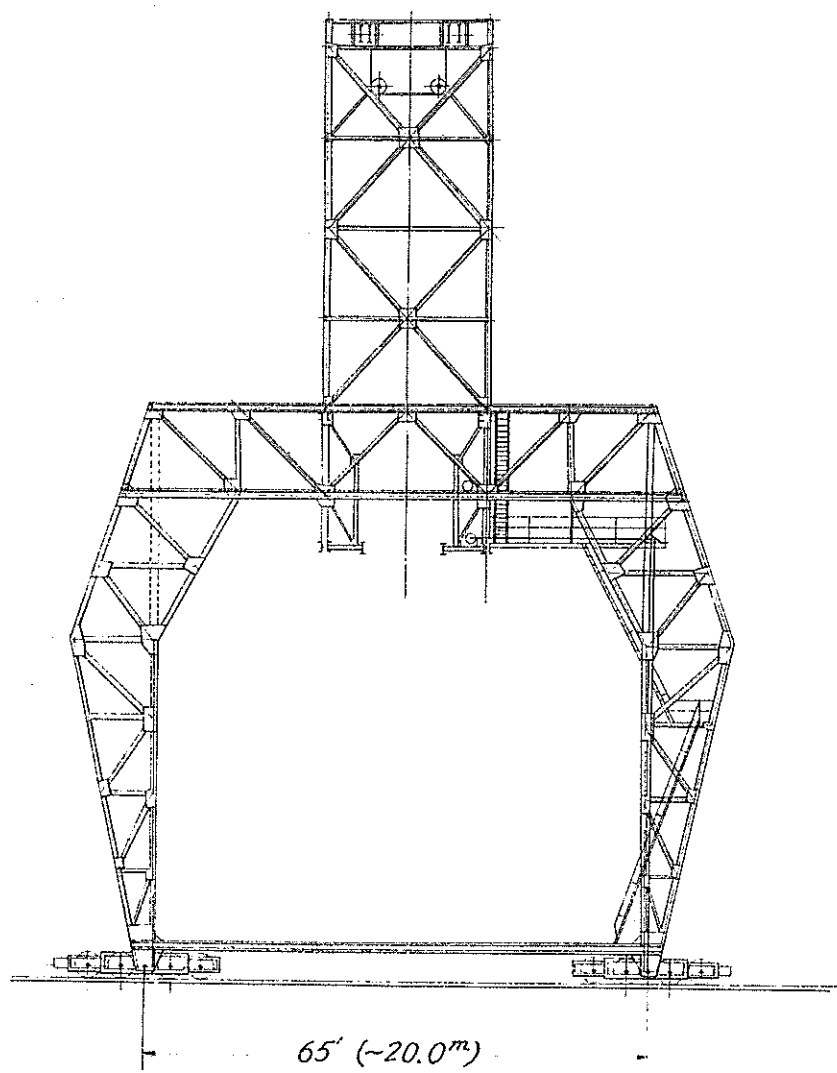
○印ハ經理局専用



第五十一圖
 鐵道省川崎火力發電所石炭陸揚及給炭裝置圖

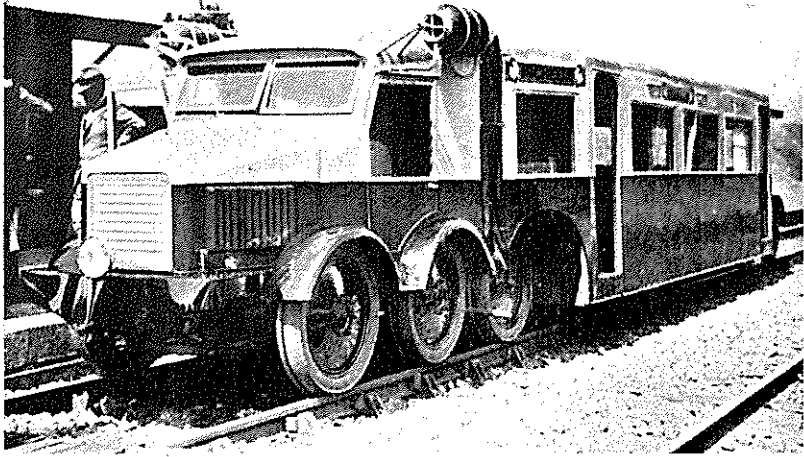


第五十二圖
 石炭取扱裝置



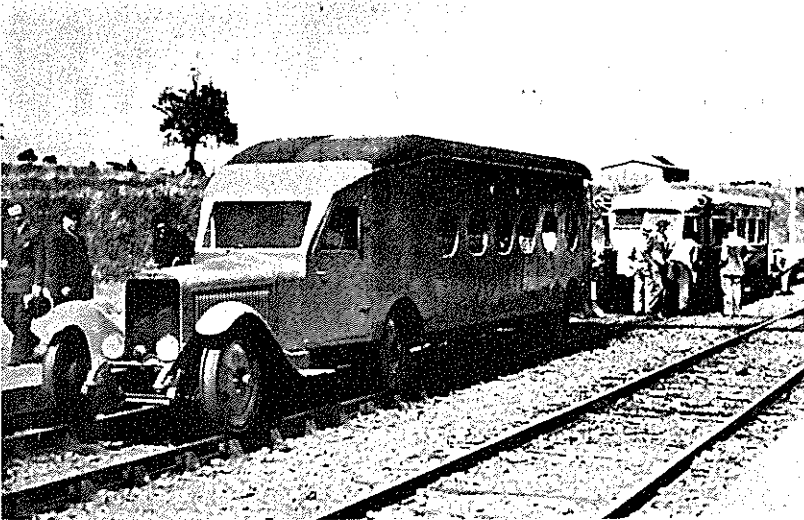
第五十二
石炭取扱装

第五十三圖



空氣入「ゴムタイヤ」付き鐵道用石油發動車

第五十四圖



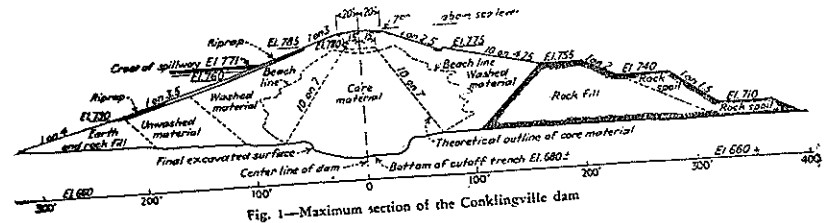
空氣入「ゴムタイヤ」付き鐵道用石油發動車

第五十八圖



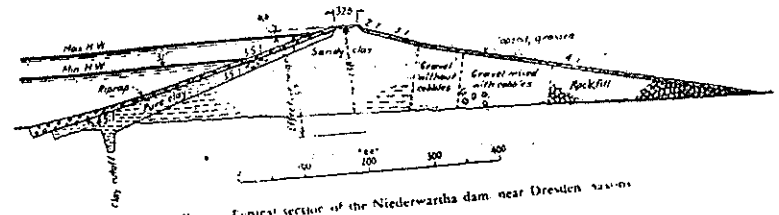
猪苗代湖畔十六橋南詰に建立せる
ファン・ドールン氏銅像

第五十五圖



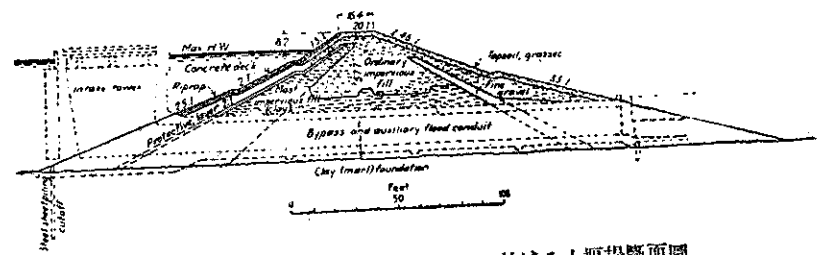
米國「コンクリングザイル」堰堤最大断面圖

第五十六圖



獨逸「サキソニー、ドレスデン」附近に於ける「ニーダーワルタ」堰堤断面圖

第五十七圖



東「プロシヤ」「フリードランド」に於ける土堰堤断面圖

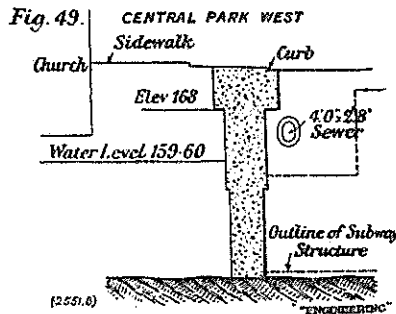
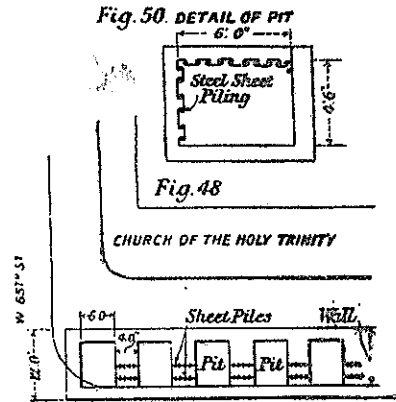
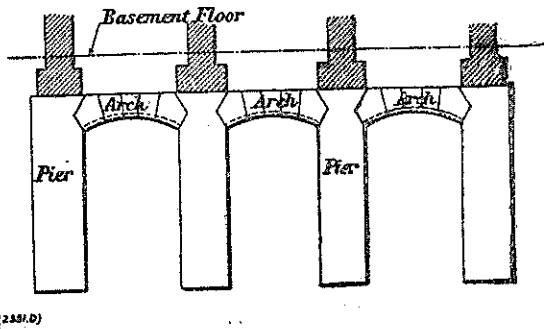


Fig. 54. UNDERPINNING 8-STORY PHILADELPHIA BUILDING.



紐約市地下鐵道根繼工事明細圖

Fig. 46. OPEN PIT UNDERPINNING.

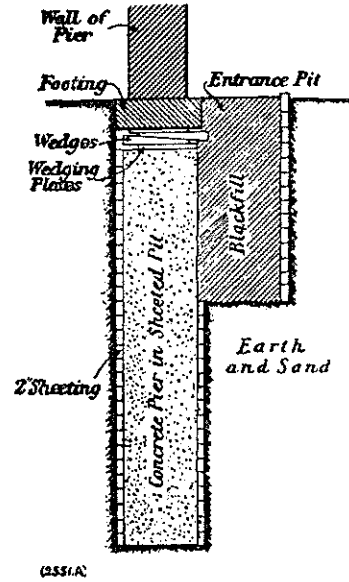


Fig. 47. SECTIONAL STEEL PILE UNDERPINNING

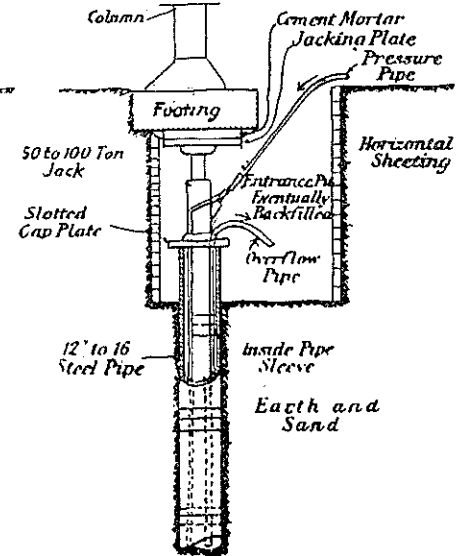


Fig. 51. UNDERPINNING SMALL COLUMN PIERS.

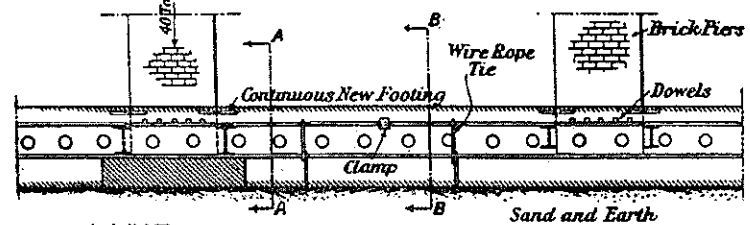


Fig. 52. SECTION A.A.

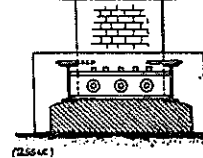
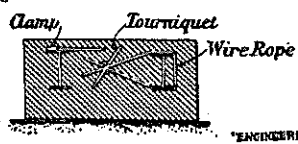
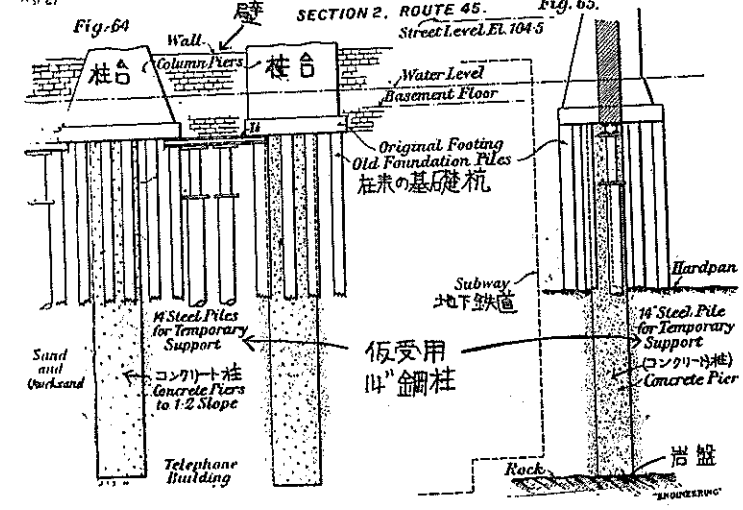
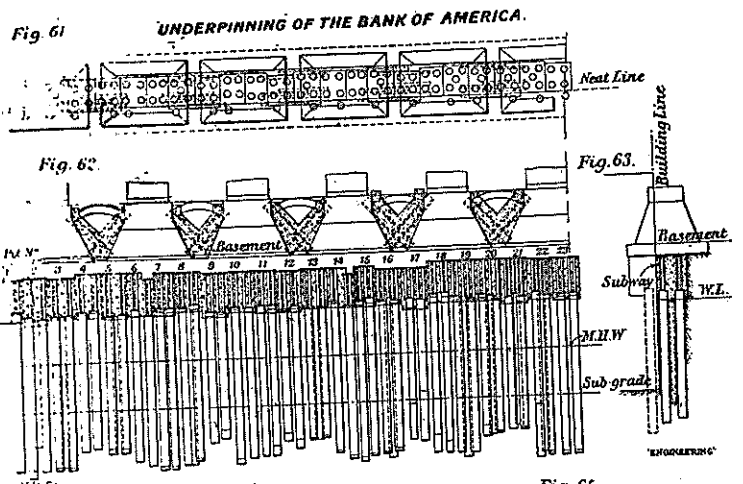


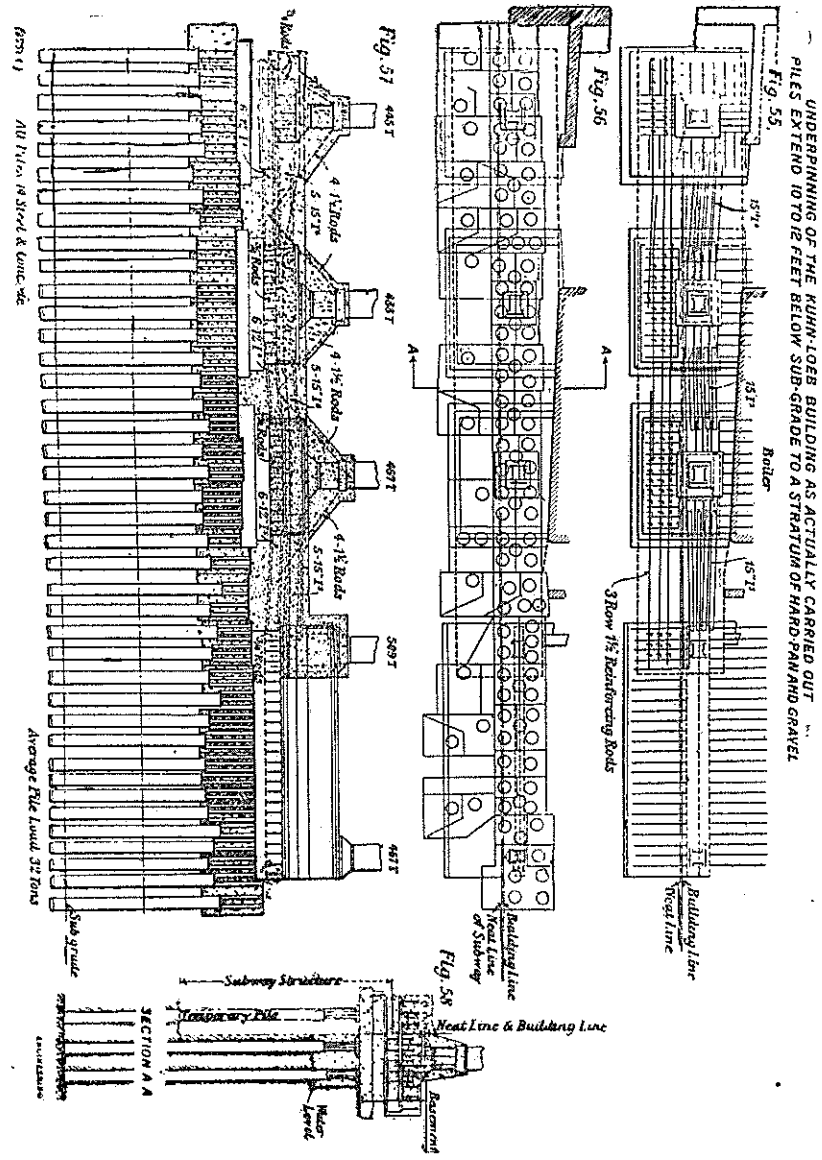
Fig. 53. SECTION B.B.



紐約市地下鐵道根繼工事明細圖

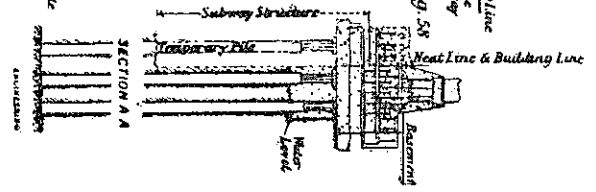


紐育市地下鐵道根繼工事

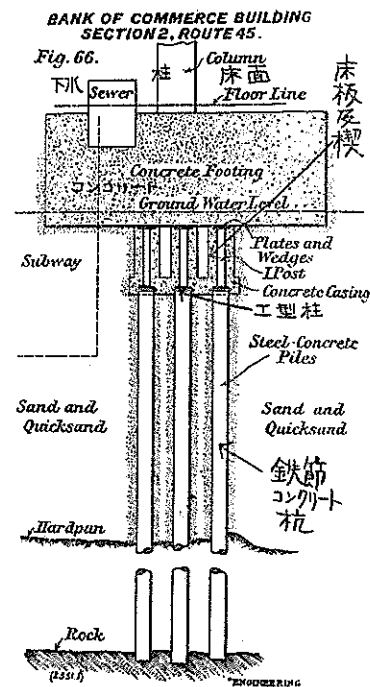


UNDERPINNING OF THE KUHN-LOEB BUILDING AS ACTUALLY CARRIED OUT. PILES EXTEND 10 TO 12 FEET BELOW SUB-GRADE TO A STRATUM OF HARD PAN AND GRAVEL.

紐育市地下鐵道根繼工事



第六十一圖の二



紐育市地下鐵道根繼工事

彙

報

日本土木建築請負業者聯合會總會

同會第十三回總會は、十月二十三日大阪市中之島公會堂に於て開催せられ、全國より出席の會員約四百名、鹿島會長を議長として、午前中評議員會、午後二時より總會に移り、柴田大阪府知事代理として澁江土木部長、及關大阪市長の祝辭あり。
而して事務、會計の報告ありて、各議案の審議あり、尙今回は役員任期満了の爲め、會長、副會長左の通り改選就任せらる。

- | | |
|-----|---------|
| 新會長 | 竹中藤右衛門氏 |
| 副會長 | 小谷清氏 |
| 同 | 宮長平作氏 |

總會議案左に掲ぐ。

第一號議案

事務報告ノ件

第二號議案

會計報告ノ件

第三號議案

第十四回總會開催地ノ件

第四號議案

土木業協會提案
河川港灣ノ直轄工事ヲ廢シテ之レヲ請負ニ附スル様内務大臣ニ陳情ノ件

第五號議案

神戸市土木建築請負業組合提案
屋外労働者ニシテ災害扶助法ノ適用ヲ受ケサルモノ業務上負傷シ、疾病ニ罹リ又ハ死亡シタルト

キニ支給スヘキ一定ノ扶助料額ヲ統一スル爲委員會ヲ設置スルノ件

第六號議案

建築業協會提案
労働者災害扶助責任保險法實施ニ因ル保險料ヲ、工事注文者ハ工事費豫算ニ計上セラレタク又請

負業者ハ請負金額ニ加算スヘキコトヲ關係各方面ニ通告諒解ヲ求ムルノ件

第七號議案

建築業協會提案
建築中ノ工作物ニ對スル火災保險料率引下及割増料撤廢ノ件

第八號議案

大阪土木建築業組合提案

「セメント」生産並ニ販賣統制ヨリ生スル弊害ニ關シ關係官廳へ陳情スルノ件

第九號議案

左ニ掲グル諸請願中ノ未解決事項促進ヲ期スル件

(一)土木建築工事契約中請負人責任負擔ノ條項改正統一ノ件

(二)入札並ニ契約保證金免除ノ件

(三)土木建築工事請負入札ノ場合相當ノ落札最低制限ヲ附スルノ件

(四)建築工事見積數量書提示及見積期間延長ノ件

(五)土木建築工事一般競争入札ノ資格中納税制限ノ條項改正ノ件

(六)土木建築工事請負取締令並ニ各府縣ニ強制組合制度設定ニ關スル省令制定ヲ陳情セルモ未

タ實現セス然ルニ近ク労働者災害扶助法並ニ同責任保險法ノ實施セラルルニ當リ一層該制度ノ必要ヲ痛感ス依ツテ促進方ヲ請願スルノ件

(七)道路工事執行令第六條中(二號後段)又ハ身代限りノ處分ヲ受ケ負債ノ辨濟ヲ了ヘサル者、

五號「責付又ハ保釋中ノ者」、六號「入札又ハ請負ニ關シ不正ノ行爲アリタル後二年ヲ經過セサルモノ」ノ各號ハ資格證明ヲ得ルニ困難ニ付適當ニ改正セラレ尙同令第二十四條中間拂

東京土木建築業組合
大阪土木建築業組合
京都土木建築業組合
神戸市土木建築請負業組合
名古屋土木建築業組合
提案

率「十分ノ八」ヲ「十分ノ九」ニ改正スルノ件

(八)工事設計中ニ材料品ノ獨占的指定ヲ廢止スルノ件

第一〇號議案

東京土木建築業組合
大阪土木建築業組合
京都土木建築業組合
名古屋土木建築業組合
社団法人滿洲土木建築業協會
提案

土木建築工事ニ従事スル熟練職工人夫ノ失業救済ニ關シ本會ハ屢決議ヲ爲シ再ニ、再四當局ニ陳情請願シタルモ未ダ徹底ヲ見ルニ至ラズ失業者ハ益激増ノ實況ナリ依ツテ政府ニ對シ速カニ之レカ對策ヲ講ズル様促進運動ヲ繼續シ貫徹ヲ期スルノ件

第一一號議案

東京土木建築業組合
大阪土木建築業組合
京都土木建築業組合
名古屋土木建築業組合
提案

失業救済ノ爲メ各省並ニ府縣市町村其ノ他公共團體ニ於テ施行スル土木建築工事ハ直營又ハ町村ノ請負ノミニ據ラズ當業者ノ請負ニ附セラルル様政府當局へ陳情請願シタルモ未ダ所期ニ達セサルヲ遺憾トス依ツテ之レカ促進運動ヲ繼續シ目的ノ貫徹ヲ期スルノ件

第一二號議案

東京土木建築業組合提案

規約改正ノ件

第一三號議案

會長、副會長任期滿了ニ付改選ノ件

第一四號議案

相談役、顧問推舉ノ件

紅葉狩業平塚もたづねけり 伊達嘉祥
掛茶屋に見知りの人や紅葉狩 糸崎枯竹

佐藤工業株式會社々長佐藤助九郎君十月三十日突如長逝せらる。平素健康の氏思はぬ腸疾患にて斯く急逝會員一同眞に驚愕に耐へざる所なり。氏は業界北陸の雄にして、本會設立當時趣旨を賛して一ち早く入會し、一意専心業界向上に盡力せられたるものなり。本會員の追慕措く能はざる決して故なきに非ず。今や幽明界を異にし業界の爲め洵に痛惜に耐へざるなり。謹で哀悼の意を表す。

本 會 記 事

秋 季 懇 親 會

十月二十四日

日本土木建築請負業者聯合會第十三回總會を大阪に於て開催せらるゝに當り、偶々本協會東西會員相會するの好機會あるを以て、建築業協會と聯合し、右總會の翌日大阪市郊外甲陽園はり半樓に於て秋季懇親會を催したり。平素かけ離れたる東西兩會員及土木、建築業協會員は親しく一堂に會し秋將に酣なる六甲山麓に茸狩をなし、見事なる獲物に興するもあり。晝は同樓園内に於て園遊會あり、餘興の奇術、踊に至りては蓋し世話係の骨折謝するに辭なし。懇親宴會は午後五時より開始、一同十二分の歡を盡して散會せり。本會開催に付き五日會、並に在阪會員諸氏の篤き御幹旋を賜はりたるは深く感謝するものなり。

出 席 員

(組名イロハ順)

石 井 組	石 井 權 藏 君	丁 野 泰 憲 君
池 田 組	池 田 勘 藏 君	今 西 末 吉 君
姫 野 健 一 君	今 西 組	江 澤 甚 一 君

伊藤組
間組

石田賢一君
佐藤音松君
高橋正峻君
小谷清君
渡邊藤平君
中野深君
楠目省介君
森新造君
近藤時政君
島猛夫君
西本竹吉君
西本用三君
寒川朝臣君
伊藤孝治君
加藤新松君

西松組

馬場庄八君
田中勝四郎君
西松光治郎君
大原尙恒君
島津曦章君
戶田利兵衛君
伊井與三二君
宮川順三郎君
別所禎君
宮長平作君
岩根壯祐君
橫山信毅君
武富英一君
小松五郎衛君
籠田定憲君

西本組

大林組

池野敏夫君
藤江醇三郎君
太田浩藏君
大林義雄君
大林賢四郎君
白杉龜造君
植村克巳君
直木倫太郎君
安井豊君
妹尾一夫君
小原孝平君
高橋誠一君
田中美一君
橋本政吉君
土井伊助君

奧村組

大岐榮君
奧村太平君
奧村太四郎君
石松潔君
楠田九郎君
山崎三造君
鹿島精一君
高石庫治君
太田金之助君
萩原三郎君
小野威君
具原能之君

大阪橋本組

勝呂組
竹中工務店

宇佐美熊吉君
竹中藤右衛門君
山脇友三郎君

福本常太郎君	平塚鎗吉君	瀬戸運八郎君	石井重三郎君	中島富造君	中山佐一君	栗原源藏君	増野伊太郎君	松村雄吉君	田中莊二君	松村雄二君	山崎英雄君	前田榮次郎君	鴻池小六君	三池貞一郎君	福永佐和吉君	吉原美作君	松尾茂君	菅原恒覽君	吉田勝之君	北澤甚三郎君	田中惠君	佐藤眞一君	安藤清太郎君	晝間道松君	松丸盛一郎君	高光和三郎君	阪根惣太君	山本坦君	清水揚之助君
中島組	栗原組	松村組	前田組	鴻池組	安藤組	阪根組	清水組	鐵道工程業株式會社	鐵道工程業株式會社	鐵道工程業株式會社	鐵道工程業株式會社	鐵道工程業株式會社	鐵道工程業株式會社	鐵道工程業株式會社	鐵道工程業株式會社	鐵道工程業株式會社	鐵道工程業株式會社	鐵道工程業株式會社	鐵道工程業株式會社	鐵道工程業株式會社	鐵道工程業株式會社	鐵道工程業株式會社	鐵道工程業株式會社	鐵道工程業株式會社	鐵道工程業株式會社	鐵道工程業株式會社	鐵道工程業株式會社	鐵道工程業株式會社	鐵道工程業株式會社

招待會

波江悌夫君	高村横一君	西川幡之助君	鈴木一幸君	江口隆之君	島田藤君	吉田太平君	森本千吉君	森本積善君	宮本直七君	錢高組	錢高久吉君	竹中喜義君	岡村鐵雄君	森脇恭一君	吉本謙吉君	小川政徳君	吉田勇吉君	武田信愛君	高倉茂君	土木業協會	建築業協會	同關西支部
島藤本店	森本組	森本組	森本組	森本組	森本組	森本組	森本組	森本組	森本組	森本組	森本組	森本組	森本組	森本組	森本組	森本組	森本組	森本組	森本組	森本組	森本組	森本組

鐵道省へ官久保田敬一閣下次官御昇進、及其他課長に於ても御昇進、並に御榮轉せられたる氏ありたるを以て、聊か祝意を表し度、十一月四日午後五時より東京會館にて招待會を開催せり。當夜出

席せられたる來賓及會員左の如し。

來賓

久保田敬一殿	今西組	今西末吉
黒河内四郎殿	同	江澤甚一
竹股一郎殿	同	佐藤音松
木村芳人殿	同	小谷清
河原直文殿	同	渡邊藤平
永田民也殿	同	神部滿之助
大田明治殿	橋本工業	長義三郎
平井喜久松殿	同	長萬治
池原英治殿	同	原木康干
(組イロハ順)	同	佐々木貫練
高橋正峻	同	林米七
今井久吉	同	西松三好
溝口三始	同	大原尙恒
	同	永原修次

西本組	伊藤孝治	大倉土木	武富英一
日本工業	芥川均一	同	石川眞三
星野合資	徳久次郎	大林組	松井清足
同	柴田直道	同	鈴木甫
同	高野丈作	同	久保彌太郎
堀内組	堀内廉一	大島組	大島要三
同	加藤達吉	鬼武組	片野文吉
東海工業	山口勇太郎	同	中屋養郎
同	千田勢平	同	奥村太平
飛島組	飛島文吉	同	楠田九郎
同	細見勇造	同	石松潔
同	鶴飼賢一	鹿島組	鹿島精一
戸田組	戸田利兵衛	同	菅野忠五郎
中央土木	宮長平作	同	永淵清介
大倉土木	横山信毅	同	鹿島忠夫

鹿島組	小野威	鴻池組	清水甲
勝呂組	宇佐美熊吉	同	吉原美作
同	高瀬貞雄	古島有馬組	森清右衛門
同	小谷強次郎	鐵道工業	菅原恒覽
同	鈴木庄吉	同	石川鼎
加藤組	加藤金次郎	同	佐藤真一
竹中工務店	竹中藤右衛門	有賀工務所	有賀定吉
同	瀬戸強三郎	安藤組	晝間道松
栗原組	栗原源藏	有田組	有田芳太郎
同	澁谷彦吉	同	近藤鐵太郎
山路組	安部強	荒井合名	大井諦成
前田組	前田榮次郎	阪本組	鳥越金之助
松村組	松村雄二	坂根組	清家健次郎
同	三浦宇三郎	清水組	佐野利器
鴻池組	福永佐和吉	同	藤井專之助

清水組	小林義一	協會	那波光雄
森本組	森本積善	同	吉田勇吉
同	森幽	同	立木新一
錢高組	錢高作太郎		

講演會

九月廿六日

北支那事件は發生以來、支那の不誠意なる態度に據りて、著しく我國民の感情を害し、事件を益々硬化せんとす。此時に際し多年支那の軍事顧問として招聘せられたる、我國支那通の第一人者、貴族院議員、陸軍中將坂西利八郎閣下に懇願し「日支關係の因縁」に就き講演會を催したり。會員の來聽頗る多く、非常に熱心なる講演を拜聽せり。

聯合委員會

一、臨時聯合委員會 十月三日

- 菅野、中野、湖松、山口、渡邊、片野、千田、宇佐美、小谷、金子、紫田、西川、晝間、三浦、清家、伊藤、吉田、竹中、大谷(小松氏代)、大原、小松福氏出席

一、秋季懇親會は大阪方面にて開催のこと

但し社交部に一任のこと

一、日本土木建築請負業者聯合會總會に本協會より提出する議案は調査部に一任すること

一、聯合委員會 十月十日

千田、山口、石川、西川、小谷、渡邊、増野、清家、高橋、大井、柴田、大原、中野、田中、小松、伊藤、湖松、宇佐美、菅野、三浦、片野、楠田、上草氏出席

一、秋季懇親會を建築業協會と聯合して關西地方にて開催の件

一、聯合委員會 十一月四日

三浦、楠田、金子、晝間、千田、西川、湖松、山口、松本、田中、高橋、藤井、片野、小谷、發地、小松、吉田、大原、柴田氏出席

定例委員會なりしも特に問題なき爲め其儘解散す。

調査部會

一、調査部委員會 九月七日

中野、三浦、瀬戸、楠田、島田、上草氏出席

一、調査部委員會 十月五日

菅野、中野、三浦、藤井、柴田、瀬戸、川又、片野氏出席

一、日本土木建築請負業者聯合會總會へ提出する議案を左の通り決定す。

河川港灣の直轄工事を廢して之を請負に附する様内務大臣に陳情の件

一、調査部委員會 十一月七日

菅野、中野、三浦、藤井、柴田、川又、片野、楠田氏出席

一、本年度見學旅行來春三月實行のこと

庶務部會

一、庶務部委員會 九月八日

竹中、西川、伊藤、小谷氏出席

一、新名簿調製の件

一、庶務部委員會 十月六日

千田、竹中、西川、伊藤、宇佐美、小谷、西谷(土井氏代)氏出席

一、庶務部委員會 十一月十日

千田、小谷、西川、大原、松本氏出席

一、玉突臺の羅紗張替及修理の件

社交部會

一、社交部委員會 九月九日

金子、吉田、晝間、小松、増野、清家氏出席

一、秋季懇親會開催の件

一、社交部委員會 十月七日

湖松、渡邊、増野、吉田、晝間、奥寺、佐々木、金子、發地、山口、清家氏出席

一、秋季懇親會開催に付打合の爲め吉田幹事大阪に出張の件

一、臨時社交部常任委員會 十月二十日

湖松、小松、吉田、渡邊、増野氏出席

一、久保田鐵道次官初め招宴の件十一月四日東京會館にて開催に決定す

一、社交部委員會 十一月十一日

湖松、増野、晝間、山口、發地、吉田、高橋、清家、金子氏出席

一、本年度秋季玉突競技會開催の件

一、同 圍碁競技會開催の件

午餐會

第二四四回	九月十九日	出席者	二十五名
第二四五回	九月廿六日	同	五十九名
第二四六回	十月三日	同	三十七名
第二四七回	十月十日	同	四十四名
第二四八回	十月三十日	同	三十二名
第二四九回	十一月七日	同	三十五名
第二五〇回	十一月十四日	同	三十六名

行餘錄

一、俳句會 披講 池内たけし先生

第八十四回 九月二十九日 出席 十六名

兼題 水澄む 葛の花

席題 栗拾ひ 野分

第八十五回 十月五日 出席 十三名

兼題 夜學 鯨釣

席題 鹿 百舌

第八十六回 十月廿八日 出席 十八名

兼題 菊人形 鳴子

席題 枯黍 爐開き

第八十七回 十一月十一日 出席 十五名

兼題 紅葉狩 炭團

席題 落葉

一、通信俳句

第九回 締切 九月十五日

兼題 蟲 出句 十七名

第十回 締切 十月十六日

兼題 新米 出句 十七名

會員彙報

一、竹中工務店

本店を左記へ移轉す。

大阪市北區中之島三丁目三番地(朝日ビル八階)

合名會社 竹中工務店

電話本局一九一號

芻籠で行く人もあるなり紅葉狩 安藤勝子
紅葉狩戻りは道をかへて見ん 金子十湖

土木業協會會則

第一章 名稱及事務所

第一條 本會ハ土木業協會ト稱ス

第二條 本會ハ事務所ヲ東京市ニ設ク

第二章 目的

第三條 本會ハ土木業ノ改良進歩ヲ資ケ兼テ會員ノ親睦ヲ圖ルヲ以テ目的トス

第四條 本會ハ前條ノ目的ヲ達スル爲メ左ノ事業ヲ行フ

一、土木業ニ關シ必要ナル事項ヲ調査研究スルコト

二、土木業ニ關シ圖書ヲ刊行頒布シ又ハ講演ヲ爲スコト

三、會員間又ハ註文者ト會員間ニ發生スル業務上ノ爭議ヲ仲裁スルコト

四、業務上ニ關シ企業者又ハ他ノ團體ノ諮詢ニ應ジ又ハ建議ヲナスコト

五、會員ノ親睦ヲ圖ルニ適當ナル施設ヲ爲スコト

六、前各號ノ外本會ノ目的ヲ達スル爲メ必要ナル事項

第五條 本會ニ庶務部、調査部、社交部ノ三部ヲ設ク

第三章 會員

第六條 會員ハ土木諸業ヲ營ム店主又ハ法人ノ代表者タルコトヲ要ス

第七條 會員ハ代理人二名以内ヲ置クコトヲ得

但シ代理者ハ理事ノ承認ヲ得タルモノニ限ル

第八條 會員タラント欲スル者ハ會員二名以上ノ紹介ヲ以テ本會ニ入會申込ヲ爲スコトヲ要ス

第九條 前條入會ノ諾否ハ評議員三分ノ二以上出席シタル會議ニ於テ無記名投票ニヨリ四分ノ三以上ノ同意ヲ以テ入會ヲ承諾ス

第十條 會員ハ第七條ノ代理者トシテ二名以内第二十條ノ委員候補者トシテ三名以内自己ノ店員中ヨリ陸衝シテ豫メ届ケ置ク

但代理者ト委員トチ兼スルコトヲ得

第十一條 本會ヲ退會セント欲スル者ハ書面ヲ以テ本會ニ届出ツ

第十二條 本會々員ニシテ左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ第九條ノ條文ニ準シテ之ヲ除名スルコトヲ得

一、本會ノ名譽ヲ毀損シタルモノ

二、本會ノ規約ニ違背シタルモノ

第十三條 會員ハ左ノ場合ニ於テ會員タルノ資格ヲ喪失シ本會ニ對スル財産上其他一切ノ權利ハ當然消滅スルモノトス

一、退會シタルトキ

二、除名ノ通知ヲ受ケタルトキ

三、死亡シタルトキ

四、破産又ハ禁治産ノ宣告ヲ受ケタルトキ

五、第六條ノ資格喪失シタルトキ

第四章 役員及委員

第十四條 本會ニ左ノ役員ヲ置ク

一、理事長

二、理事 七名

三、監事 二名

四、評議員 三十名以内

五、常務委員 若干名

六、委員 若干名

第十五條 理事長ハ理事中ヨリ互選シ其任期ハ二ケ年トス

理事長ハ本會全般ノ會務ヲ統理ス

第十六條 理事ハ評議員會ニ於テ本會事務所所在地又ハ其隣縣ニ居住スル評議員中ヨリ之ヲ互選シ其任期ハ二ケ年トス

理事ハ會務ヲ掌理ス

第十七條 理事中ヨリ三名ノ常務理事ヲ互選ス

常務理事ハ第五條ノ各部事務ヲ分擔主宰ス

常務理事ハ理事長事故アルトキ其代理トナル

第十八條 監事ハ評議員會ニ於テ評議員中ヨリ互選シ其任期ハ二ケ年トス

監事ハ會計事務ヲ監督ス

第十九條 評議員ハ總會ニ於テ會員中ヨリ選舉シ其任期ハ二ケ年トス

評議員ハ評議員會ヲ組織シ總會ニ附議スヘキ事項其他重要事項ヲ議決ス

第二十條 委員ハ會員又ハ其店員中ヨリ理事ノ選舉シ其任期ハ一ケ年トス

第二十一條 委員ハ庶務、調査、社交各部ニ若干名ヲ置キ事務ヲ分擔ス

各部委員中ヨリ常務委員若干名ヲ互選シ常務ニ任セシム

第二十二條 土木業問題ニ關シ調査研究又ハ執行スル爲メ臨時委員ヲ置クコトアルヘシ其選舉ハ理事會評議員會又ハ總會ニ於テ選シ其任期ハ其事項ノ結了迄トス

但シ臨時委員ハ會員外ヨリ囑託スルコトヲ得

第二十三條 役員ニ缺員ヲ生シタルトキハ理事會ニ於テ補選ノ必要ナシト認メタル場合ニ限り次ノ改選期迄之ヲ延期スル事ヲ得

補選セラレタル役員ノ任期ハ前任者ノ殘期間トス

第二十四條 本會ニ幹事一名書記若干名ヲ置ク

第二十五條 幹事書記ノ給料及委員ノ報酬ハ理事會ニ於テ之ヲ定ム

第五章 會議

第二十六條 通常總會ハ毎年四月之レヲ開キ會務ノ報告ヲ爲シ重要事項ヲ決議ス

第二十七條 臨時總會ハ理事會又ハ評議員會ノ決議若クハ會員四分ノ一以上ノ請求アリタルトキ理事會長之ヲ召集ス

第二十八條 會則ノ變更ハ會員ノ三分ノ二以上出席シ其三分ノ二以上ノ同意アルニテラサレハ之ヲ決スルコトヲ得

第二十九條 評議員會ハ理事會ノ決議若クハ評議員三分ノ一以上

ノ請求アリタルトキ理事會長之ヲ召集ス

第三十條 理事會ハ毎月一回定時開會ス

但シ必要アルトキハ理事會臨時之ヲ召集ス

第三十一條 委員會ハ委員ノ申合セニヨリ必要ノ都度開會ス

第三十二條 理事長ハ總會評議員會及理事會ノ議長トナリ常務理事ハ常務委員部會ノ議長トナル

第三十三條 總會會議ハ特別ノ規定アル事項ノ外出席員過半数ノ同意ヲ以テ之ヲ決ス可否同數ナルトキハ議長之ヲ決ス

第六章 資產

第三十四條 本會ノ資產ハ會員ノ出資、寄附ノ物件及是等ヨリ生スル收益ヲ以テ之ヲ組成ス

第三十五條 本會ノ收入其他ノ財産ハ利益トシテ之ヲ會員ニ分配スルコトヲ得

第七章 會費及寄附金

第三十六條 會員ハ入會金トシテ金五百圓ヲ納附スルモノトス

第三十七條 會員ハ會費トシテ毎年三月其翌年度分ヲ納付スルモノトス其金額左ノ如シ

一、在京會員 年額金六拾圓也

二、地方會員 年額金參拾圓也

第三十八條 本會ハ會員又ハ會員外ヨリ金品ノ寄贈ヲ受ケルコトヲ得

第三十九條 會員第六條ノ資格ヲ喪失シタル場合其業務ヲ繼承シタルモノ一ケ月以内ニ會員タルコトヲ申込ムトキハ第三十六條ノ入會金ヲ要セズ

第四十條 同一會員ニシテ一時又ハ數回ニ本會ニ寄附シタル金額壹萬圓ニ達シタルトキハ其會員ハ第三十七條ノ會費ヲ納付スルヲ要セズ

第八章 會計

第四十一條 本會ノ會計年度ハ毎年四月一日ヨリ翌年三月三十一日迄トス

役員名簿

理事長	菅原恒一	顧問	法學博士	鳥山秀夫	松本水次
常務理事	鹿島精太	顧問	調査部	中野真三	本谷井伊次
調査部	高橋清郎	顧問	顧問	深川三郎	土松次郎
庶務部	錢谷作太郎	顧問	顧問	同	同
庶務部	小谷信雄	顧問	顧問	同	同
庶務部	山義信	顧問	顧問	同	同
理事	林平義	顧問	顧問	同	同
理事	宮長健	顧問	顧問	同	同
評議員	西谷光治	顧問	顧問	同	同
評議員	小松健	顧問	顧問	同	同
顧問	橋本三三	顧問	顧問	同	同
顧問	本谷豐	顧問	顧問	同	同
顧問	本谷三	顧問	顧問	同	同
顧問	本谷三	顧問	顧問	同	同
顧問	西治次	顧問	顧問	同	同
顧問	小松健	顧問	顧問	同	同
顧問	飛田長兵衛	顧問	顧問	同	同
顧問	山島信文	顧問	顧問	同	同
顧問	林義一	顧問	顧問	同	同
顧問	大島精一	顧問	顧問	同	同
顧問	鹿島精一	顧問	顧問	同	同
顧問	菅原恒一	顧問	顧問	同	同
顧問	安徳之助	顧問	顧問	同	同
顧問	宮吉作	顧問	顧問	同	同
顧問	清太郎	顧問	顧問	同	同
顧問	錢太郎	顧問	顧問	同	同
顧問	高橋清郎	顧問	顧問	同	同
顧問	波高太郎	顧問	顧問	同	同

會員名簿

願問	那波光雄	東京府在原郡碑文谷一、四七二番地 電話高輪五六〇八、電話在原二一八番 事務所 麹町區丸ノ内二ノ二九ビル内 電話丸ノ内三三八五、丸ノ内三二八九 自宅 小石川區小日向臺町三ノ八九 電話牛込八八九	工學博士
願問	石井權藏	東京市神田區三崎町三ノ七七 電話九段〇一四八、〇一四九	
伊藤組	伊藤甚作	本店 山形縣酒田町下内匠町一五 支店 東京市四谷區西僧濃町一六 電話四谷五二五七	
今井組	今井久吉	本店 函館市會所町五六 支店 東京市小石川區大塚町四一 電話二〇九九	
今西組	今西末吉	本店 大阪市住吉區住吉町七四〇ノ三 支店 或五一九〇、五〇一五 支店 東京市麴町區飯田町六ノ一三 電話九段三五八〇	
株式會社 橋本工業株式會社	小谷清	本店 東京市赤坂區青山北町三ノ一七 支店 青山六九〇八、二〇六四 支店 下關市新町一ノ一二五七 電話三八五五	
株式會社 原木組	橋本豐太郎	東京市神田區永富町六 電話神田三二一一、八六三	
株式會社 原木組	橋本康平	横濱市蓬萊町三ノ一〇四 電話長者町二四八三、五〇六八 出張所 芝區濱松町一ノ三四 電話芝一七五八	

會員名簿

株式會社 橋本本店

合資會社 西松組

西本組

日本工業合資會社

星野合資會社

合資會社 堀内組

東海工業合資會社

株式會社 飛島組

戶田組

東亞工業合資會社

中央土木株式會社

大倉土木株式會社

東京市京橋區築地二ノ二五
電話京橋七一、五七三、四九〇

東京市麴町區丸ノ内二ノ六、八重洲ビル五階
電話丸ノ内三八〇六

本店 和歌山市小野町三ノ三〇
電話四五五

支店 東京市京橋區木挽町二ノ一七
電話京橋四七一〇

本店 東京市芝區三田功運町二三
電話高橋六七〇三、六九七三

支店 神戸市中山手通一ノ三三九
電話葦合二七九二

東京市芝區南佐久間町二ノ一四
電話芝一七五五

本店 札幌市北七條西四丁目五
電話三五二

支店 東京市麴町區丸ノ内一丁目六ノ一東京海上ビル
アング五階 電話丸ノ内三六七七

東京市芝區神明町三〇
電話芝〇六四七

本店 福井市豊島中町一六〇
電話七二三

支店 東京市小石川區水道町三六
電話小石川二〇四三

東京市京橋區京橋一ノ三ノ四
電話京橋三〇一〇、六六六八、六六六九、六七五一
山口市後河原一八四
電話三〇八

東京市麴町區丸ノ内二ノ一二、十五號館
電話丸ノ内〇九八六、一二四一

東京市京橋區銀座二ノ七
電話京橋自二一三一 至二一四九

橋本 壽三郎

西松 光治郎

西本 健次郎

小林 長兵衛

德久 次郎

堀内 廉一

今泉 小源次

飛島 文吉

戶田 利兵衛

笠原 音五郎

宮長 平作

横山 信毅

株式會社 大林組

合資會社 大島組

大分土木株式會社

合名會社 大阪橋本組

鬼武組

奧村組

株式會社 鹿島組

合資會社 勝呂組

加藤組

合資會社 高田工務所

會員名簿

本店 大阪市東區京橋三ノ七五
電話東八六〇 至八六五

支店 東京市麴町區丸ノ内一ノ二、二十八號館
電話丸ノ内自三四二一 至三四二七

本店 福島市杉妻町八
電話五〇

支店 東京市麴町區内幸町二ノ二東海生命ビル内
電話銀座三四三五

本店 大分市鹽九升町
出張所 東京市京橋區橫町二ノ七ノ四中坪ビル内
電話京橋三三九六

本店 大阪市東區農人橋二ノ一二
電話東局一五八〇、一五八一

支店 東京市麴町區丸ノ内一ノ六東京海上ビル新館四階
電話丸ノ内三七八一、四七八〇、四七八一

本店 大阪市北區中之島四ノ三
電話土佐堀二一八七

支店 東京市麴町區丸ノ内三ノ二、廿一號館内
電話丸ノ内二六七八

本店 大阪市天王寺區北川堀町五五
支店 東京市芝區下高輪町一八
電話高輪一七三九

東京市京橋區橫町二ノ三
電話京橋三〇〇二、三〇〇三、四五一、四五一二

本店 静岡市日出町二四
電話一〇九〇、〇六〇七

出張所 東京市麴町區内幸町、幸ビル
電話銀座四〇〇五

富山市總曲輪町二二三
電話六一四、(長一〇)二三

静岡縣駿東郡小山町五九三

大林 義雄

大島 要三

溝口 才太郎

橋本 政吉

鬼武 儀市

奧村 太平

鹿島 精一

勝呂 平右衛門

加藤 金次郎

高田 鉄三郎

會員名簿

合資 高鳥組

長岡市旭町一丁目
電話九七五

高鳥 博

田島組

東京市牛込區若松町一一三
電話牛込四四三三

田島 三好

合名 竹中工務店

本店 大阪市北區中之島三ノ三朝日ビル八階
電話本局一九一
支店 東京市麴町區丸ノ内一ノ一帝國生命館六階
電話丸ノ内一二五〇、一二五八、一二五九

竹中 藤右衛門

中野組

東京市京橋區北櫻河岸二二號
電話京橋七三八、七三九

中野 喜三郎

栗原組

本店 秋田市總ノ町東土手町
電話一二三
支店 東京市淺草區新片町四
電話淺草二二

栗原 源藏

山路組

東京市芝區芝公園五ノ二
電話芝三〇三、三〇四

山路 時也

大和工業合資會社

臺北市若竹町一ノ五

園部 良治

前田組

東京市芝區愛宕町二ノ一
電話芝一五二六

前田 榮次郎

株式 松本組

本店 吳市仲通一丁目
出張所 東京市赤坂區南町六ノ五六
電話青山四一四六 林常一郎

松本 勝太郎

株式 松村組

本店 大阪市東區大手通一ノ二六
電話東自三一七一 至三一七三
支店 東京市麴町區山下町一ノ一
電話銀座二一六〇 自同二一六六 至同二一六九

松村 雄吉

株式 鴻池組

本店 大阪市西淀川區傳法町三ノ五一
電話高堀二六二
支店 東京市京橋區銀座六ノ三ノ二
電話銀座一九九〇、一九九一

鴻池 忠三郎

合名 古島有馬組

東京市神田區美土代町四ノ五小川ビル三階
電話神田二〇一四

森 清右衛門

鐵道工業株式合資會社

東京市京橋區銀座西六ノ六
電話銀座一〇三五、三八五二

菅原 恒覽

合資 有賀事務所

東京市麴町區丸ノ内二ノ二九ビル七階
電話丸ノ内二〇一二

有賀 定吉

株式 安藤組

東京市麴町區永田町二ノ一
電話銀座一三五五、二二四六、六〇四〇

安藤 德之助

合資 有田組

東京市本郷區東竹町一ノ一
電話小石川四九四七

有田 芳太郎

荒井合名會社

本店 北海道旭川市一條通六丁目右四號
支店 東京市麴町區內幸町一ノ三大阪ビル三階
電話銀座五八三一

荒井 初太郎

株式 佐藤工業株式會社

本店 富山市總曲輪町二〇三
電話六三
支店 東京市京橋區入舟町一ノ一
電話京橋九四一

佐藤 助九郎

合資 阪本組

東京市牛込區新小川町三ノ三〇
電話牛込二七八三

阪本 和吉

會員名簿

會員名簿

坂根組

本店 島根縣那賀郡濱田町大字淺井一七七七
電話濱田三三九九
支店 東京市麴町區平河町一ノ二
電話九段一五三九九

坂根惣太

京都工務所

京都市二條離宮北門前
電話西陣三三四

後藤一郎

合資 清水組

東京市麴町區丸ノ内二ノ二丸ビル六階
電話丸ノ内三五一〇、三五一一

清水釘吉

島藤本店

東京市深川區新安宅町一二
電話本所自一一三一 至一一三四

島田藤吉

森本組

本店 大阪市天王寺區堀越町七四
電話天王寺六四六、六四七
支店 東京市赤坂區溜池町三〇
電話赤坂八六二

森本千吉

株式會社 錢高組

本店 大阪市西區土佐堀通三ノ二四
電話土佐堀(長)三四一七、三四一八
支店 東京市京橋區木挽町五丁目二ノ一
電話銀座自三八八〇、至三八八二、四五四八

錢高作太郎

昭和六年十一月二十日印刷
昭和六年十一月廿五日發行

(非賣品)

編輯兼 發行人 吉田勇吉

印刷人 栗原憲治

印刷所 栗原文秀堂
東京市下谷區谷中三階町五六

發行所 土木業協會

東京市麴町區內幸町二丁目三番地大阪ビルディング內

電話 銀座 三七一五番
振替貯金口座東京三〇三三三番